取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

RAV4

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート、パワーウインドウ）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと.....6
本書の見方.....9
検索のしかた.....10
イラスト目次.....12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....24
安全なドライブのために.....25
シートベルト.....27
SRS エアバッグ.....30
排気ガスに対する注意.....36
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....38
チャイルドシート.....39
1-3. コネクティッドサービス
T-Connect DCM 単体.....53
1-4. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴.....74
ハイブリッドシステムの注意.....77
1-5. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....82
オートアラーム.....83

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯.....86
計器類（4.2 インチディスプレイ装着車）.....90
計器類（7 インチディスプレイ装着車）.....94
マルチインフォメーションディスプレイ.....99
エネルギーモニター.....109

3 運転する前に

3-1. キー
キー.....116
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア）119
バックドア.....123
スマートエントリー＆スタートシステム.....137
3-3. シートの調整
フロントシート.....141
リヤシート.....142
ポジションメモリー／メモリーコール機能.....144
ヘッドレスト.....147
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル.....149
インナーミラー.....150
デジタルインナーミラー.....151
ドアミラー.....159
補助確認装置.....160
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ.....162
ムーンルーフ.....165
パノラマムーンルーフ.....167

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって.....174
荷物を積むときの注意.....180
4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ.....182
EV ドライブモード.....186
トランスミッション.....188
方向指示レバー.....191
電動パーキングブレーキ.....192

ブレーキホールド 195

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 198
オートマチックハイビーム 200
フォグランプスイッチ 202
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 204
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 206

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 208

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense 210
PCS（プリクラッシュセーフティ） 214
LTA（レーントレーシングアシスト） 221
RSA（ロードサインアシスト） .. 229
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） 232
先行車発進告知機能 240
BSM（ブラインドスポットモニター） 241
クリアランスソナー 249
PKSB（パーキングサポートブレーキ） 254
パーキングサポートブレーキ（静止物） 258
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 264
ドライブモードセレクトスイッチ 268
トレイルモード （4WD 車） 270
運転を補助する装置 271

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 277
寒冷時の運転 279

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン 284
ステアリングヒーター／シートヒーター（快適温熱シート） 289

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 291

5-3. 収納装備

収納装備一覧 294
ラゲージルーム内装備 298

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 302
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W） 309
非常時給電システム 314

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 322
内装の手入れ 324

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 327
ガレージジャッキ 329
ウォッシャー液の補充 330
タイヤについて 331
タイヤ空気圧について 333
エアコンフィルターの交換 334
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃 336
ワイパーゴムの交換 340
電子キーの電池交換 343
ヒューズの点検・交換 344
電球（バルブ）の交換 347

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 358
非常点滅灯（ハザードランプ）... 359
発炎筒 359
車両を緊急停止するには..... 360
水没したときは 361

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 362
警告灯がついたときは 367
警告メッセージが表示されたときは 374
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 377
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 388
ハイブリッドシステムが始動できないときは..... 395
キーをなくしたときは 397
給油扉が開かないときは..... 397
電子キーが正常に働かないときは 398
補機バッテリーがあがったときは 400
オーバーヒートしたときは..... 404
スタックしたときは 407

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 410

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... 414

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 424

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 426
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 428
アルファベット順さくいん 430
五十音順さくいん 431

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

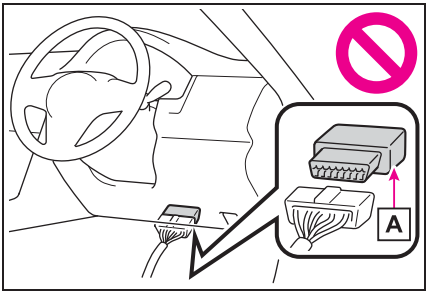
RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター A などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

- エンジン回転数／電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システム（ABS、プリクラッシュセーフティなど）の作動状況
- 前方カメラの画像情報
- 駆動用電池の状態

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録し

ます。
・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● ハイブリッドシステム
● EFI コンピュータ
● Toyota Safety Sense
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● SRS エアバッグ
● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

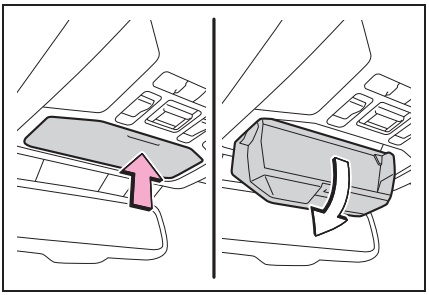
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

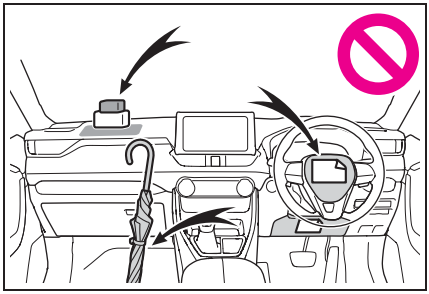
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

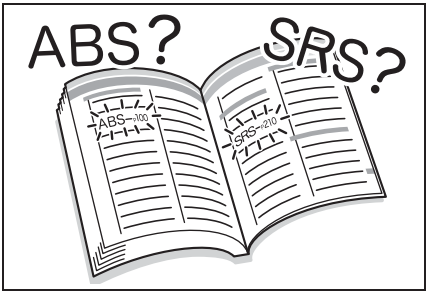


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

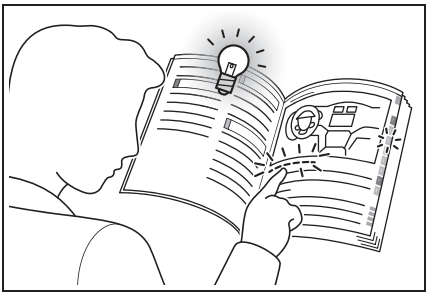
■ 名称から探す

●五十音順さくいん：→P.431
●アルファベット順さくいん：→P.430



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.12

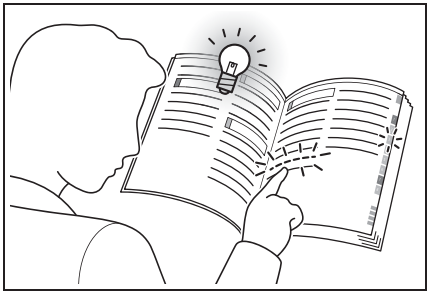


■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：→P.426
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.428

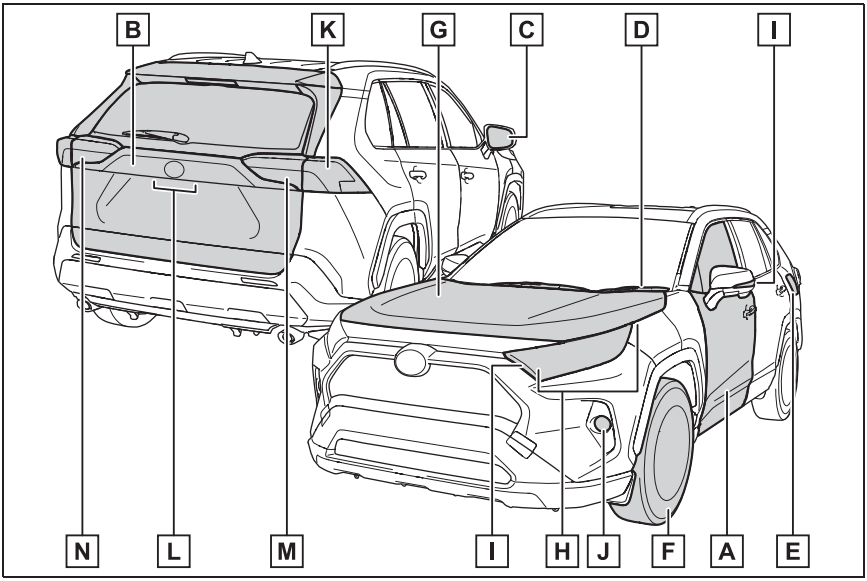
■ タイトルから探す

●目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A ドア P.119

施錠／解錠 P.119, 121

ドアガラスの開閉 P.162

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.398

警告メッセージ P.374

B バックドア P.123

施錠／解錠 P.125

車内から開ける★ P.127

車外から開ける P.125, 127

警告メッセージ P.374

C ドアミラー P.159

鏡面の角度調整 P.159

ミラーの格納 P.160

曇りを取る（ミラーヒーター） P.285

D ワイパー P.204

冬季の注意 P.279
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ P.288
ワイパーゴムの交換 P.340

E 給油口 P.208
給油方法 P.208
燃料の種類・燃料タンク容量 P.410

F タイヤ P.331
サイズ・空気圧 P.412
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.279
点検・ローテーション P.331
パンク時の対処 P.377, P.388

G ボンネット P.327
開け方 P.327
エンジンオイル P.410
オーバーヒート時の対処 P.404
警告メッセージ P.374

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.347, ワット数：P.413）

H ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト P.198

I 方向指示灯 P.191

J フロントフォグランプ★ P.202

K 尾灯・制動灯・方向指示灯 P.191, 198

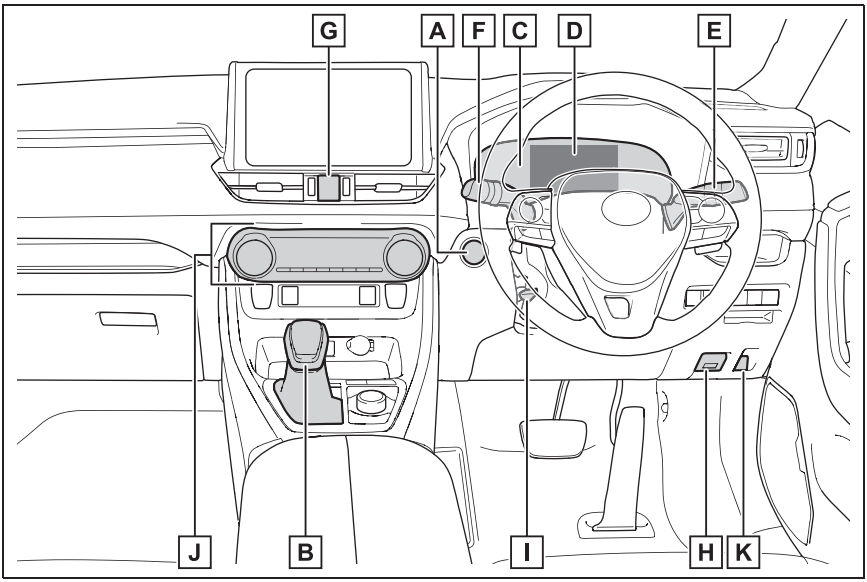
L 番号灯 P.198

M 尾灯・リヤフォグランプ★ P.198, 202
後退灯
シフトポジションを R にする P.188

N 尾灯 P.198
後退灯
シフトポジションを R にする P.188

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



A パワースイッチ P.182

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.182, 185

ハイブリッドシステムの緊急停止 P.360

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.395

警告メッセージ P.374

B シフトレバー P.188

シフトポジションの切りかえ P.188

けん引時の注意 P.362

シフトレバーが動かないときの対処 P.189

C メーター P.90, 94

見方・明るさの調整 P.92, 98

警告灯／表示灯 P.86

警告灯点灯時の対処 P.367

D マルチインフォメーションディスプレイ P.99

表示内容 P.99

エネルギーモニター P.109
警告メッセージ表示時の対処 P.374

E 方向指示レバー P.191
ランプスイッチ P.198
ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト・尾灯・番号灯 P.198
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★ P.202

F ワイパー＆ウォッシャースイッチ P.204, 206
使い方 P.204, 206
ウォッシャー液の補充 P.330

G 非常点滅灯スイッチ P.359

H ボンネット解除レバー P.327

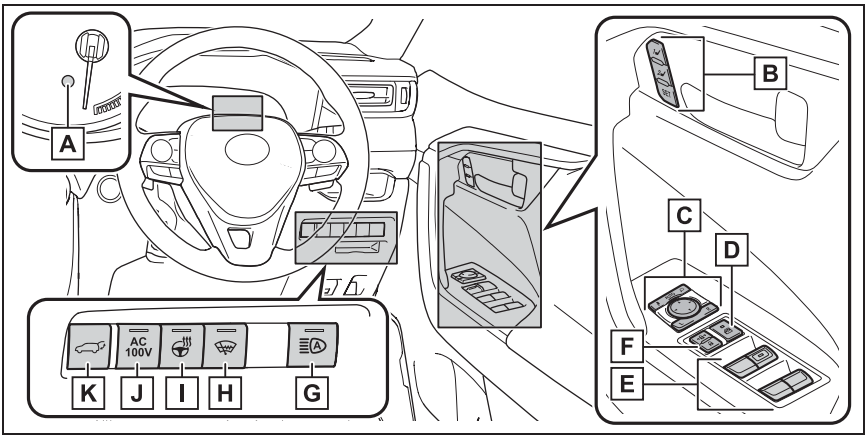
I ハンドル位置調整レバー P.149
調整方法 P.149

J オートエアコン P.284
操作方法 P.284
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.. P.285

K 給油扉オープナースイッチ P.209

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類



A ODO TRIP スイッチ P.92, 98

B ドライビングポジションメモリースイッチ★ P.144

C ドアミラースイッチ P.159

D ウインドウロックスイッチ P.164

E パワーウインドウスイッチ P.162

F ドアロックスイッチ P.121

G オートマチックハイビームスイッチ P.200

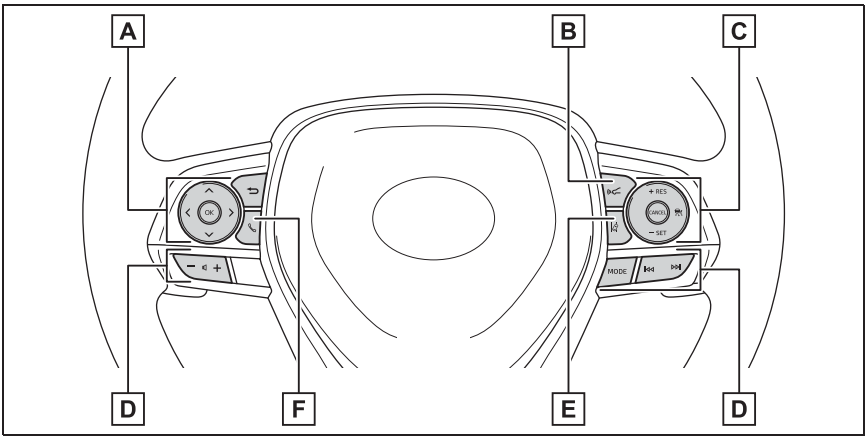
H フロントワイパーデアイサースイッチ★ P.288

I ステアリングヒータースイッチ★ P.289

J AC100V スイッチ★ P.309, 315

K パワーバックドアスイッチ★ P.127

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A メーター操作スイッチ P.100

B 車間距離切りかえスイッチ P.232

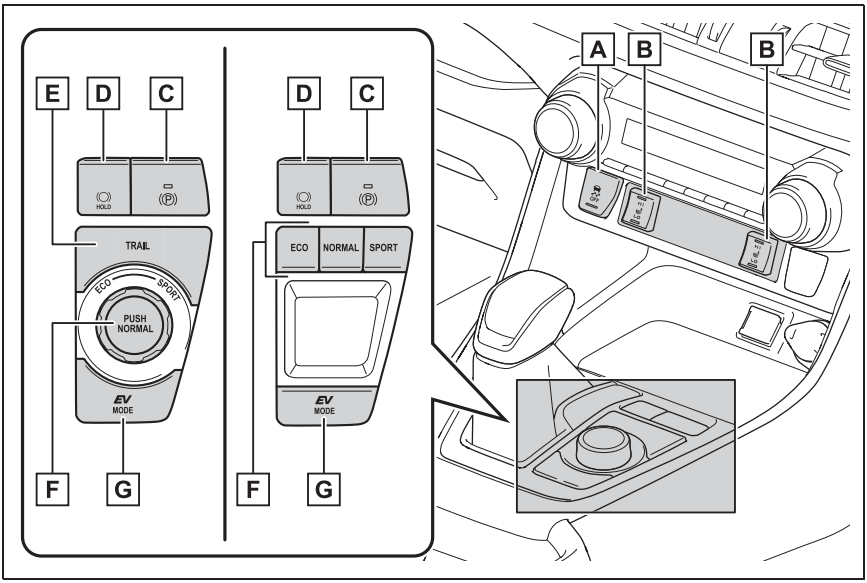
C クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き） P.232

D オーディオスイッチ P.308

E LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.221

F 電話スイッチ P.308



A VSC OFF スイッチ P.272

B シートヒータースイッチ★ P.290

C パーキングブレーキスイッチ P.192

かける・解除する P.192

冬季の注意 P.280

警告ブザー・警告メッセージ P.194, 407

D ブレーキホールドスイッチ P.195

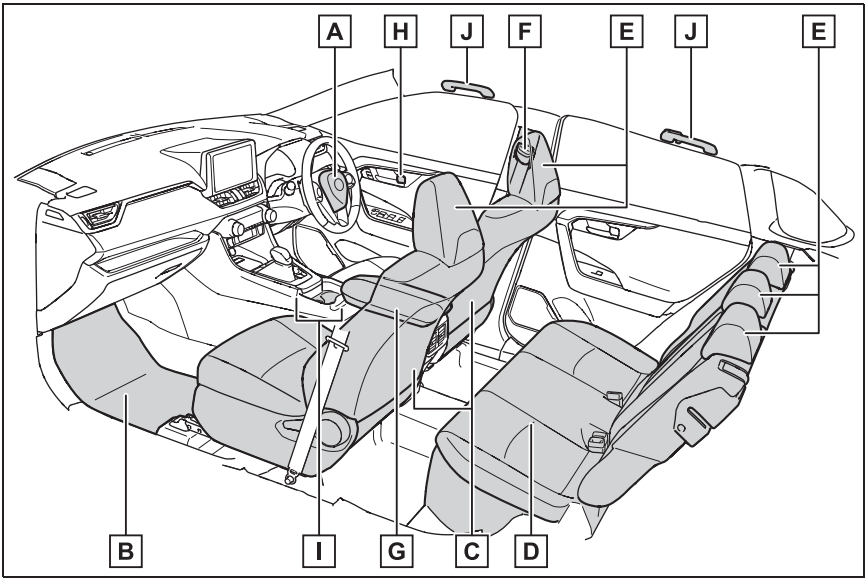
E トレイルモードスイッチ★ P.270

F ドライブモードセレクトスイッチ P.268

G EV ドライブモードスイッチ P.186

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



A SRS エアバッグ P.30

B フロアマット P.24

C フロントシート P.141

D リヤシート P.142

E ヘッドレスト P.147

F シートベルト P.27

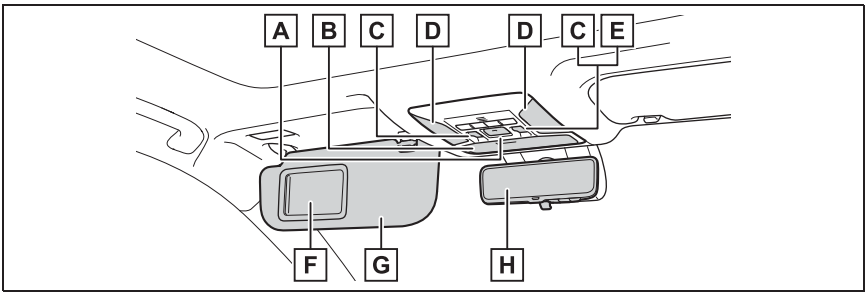
G コンソールボックス P.295

H ロックレバー P.122

I カップホルダー P.296

J アシストグリップ P.308

■ 天井



A ヘルプネットボタン P.53

B 小物入れ P.296

C ムーンルーフスイッチ★ P.165

D インテリアランプ ※1 ..... P.291
パーソナルランプ P.292

E 電動サンシェードスイッチ★ P.167

F バニティミラー P.302

G サンバイザー ※2 ..... P.302

H インナーミラー★ P.150
デジタルインナーミラー★ P.151

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※2やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.41）

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 24

安全なドライブのために 25

シートベルト 27

SRS エアバッグ 30

排気ガスに対する注意 36

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 38

チャイルドシート 39

1-3. コネクティッドサービス

T-Connect DCM 単体 53

1-4. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴 74

ハイブリッドシステムの注意 77

1-5. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 82

オートアラーム 83

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

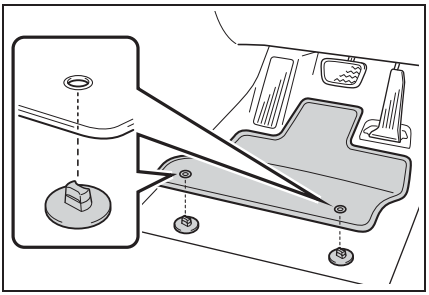
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

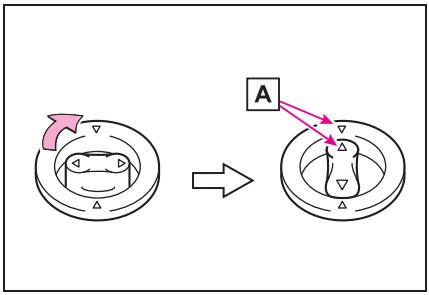
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

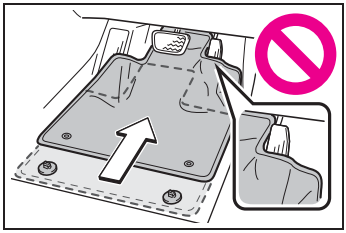
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

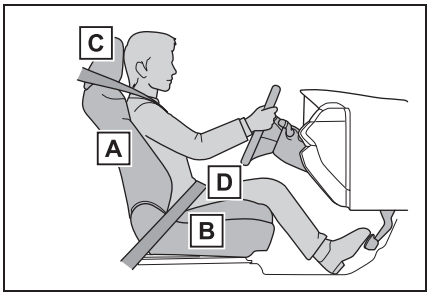


●ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがＰの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.141）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.141）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.147）

D シートベルトを正しく着用する（→P.28）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.39）

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー★・デジタルインナーミラー★・ドアミラーを正しく調整してください。（→P.150, 151, 159）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

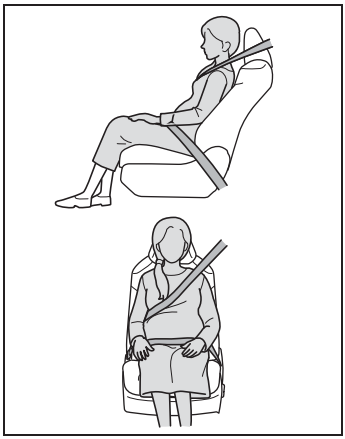
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.28)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.50

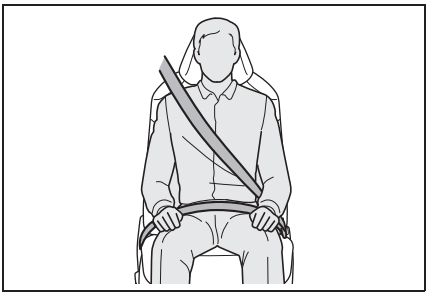
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

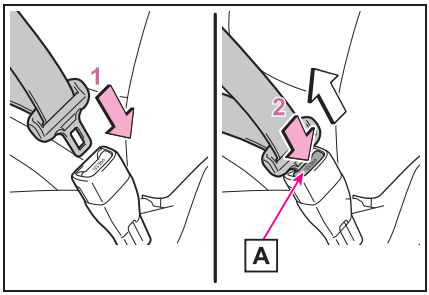
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.39)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.27)

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

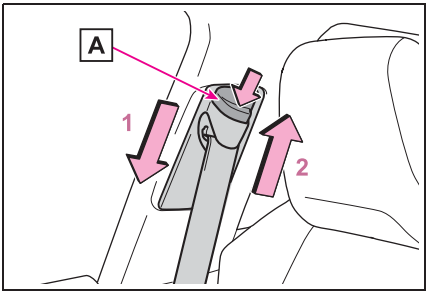
2 ベルトを解除するには、解除ボタン A を押す

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 解除ボタンA を押しながら、アジャスターを下げる

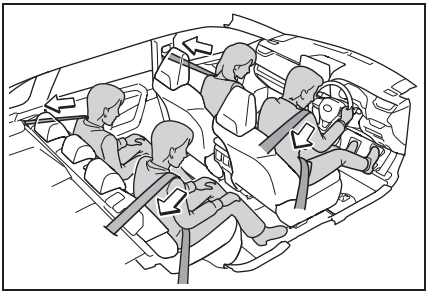
2 アジャスターを上げる

“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

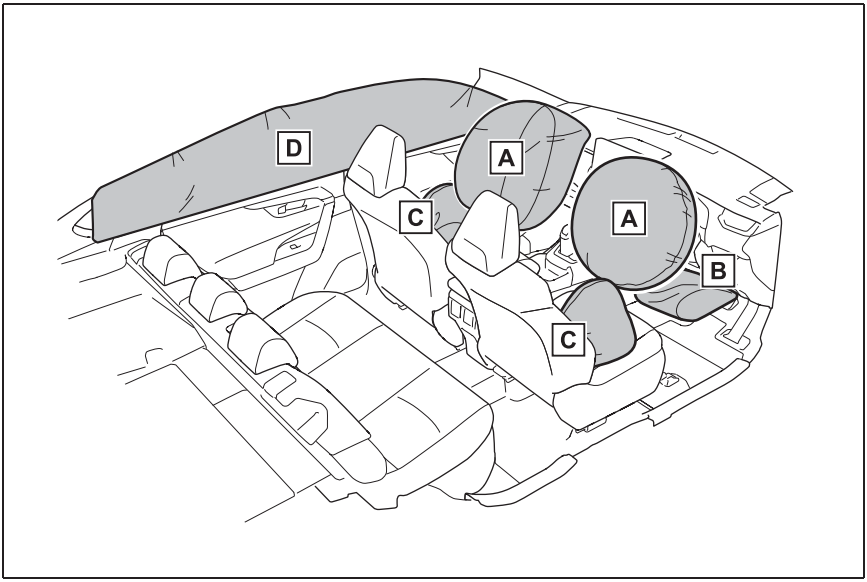
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

C SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

D SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.80）

●すべてのドアが解錠されます。（→P.120）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.272）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.292）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.359）

●T-Connect DCM 単体の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。（→P.53）

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

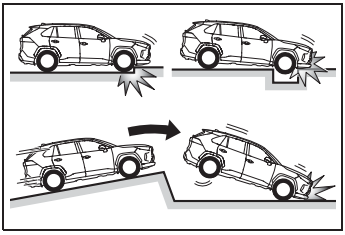
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



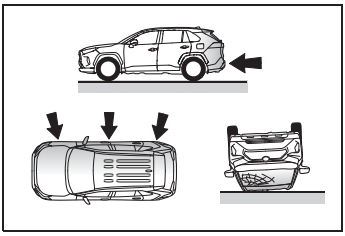
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

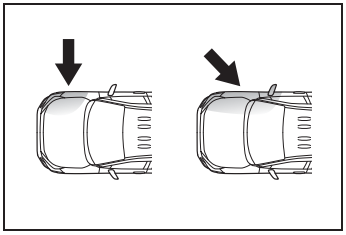


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

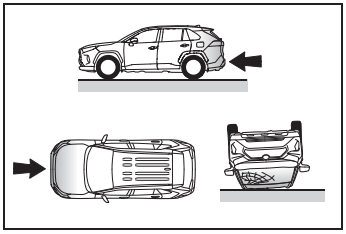


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

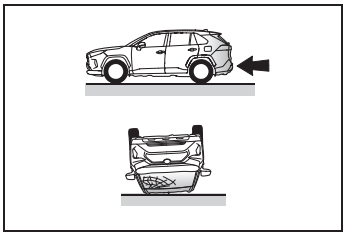
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

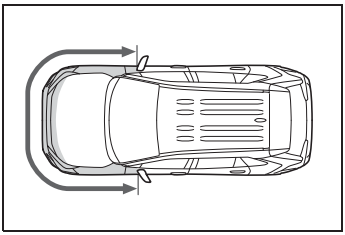


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

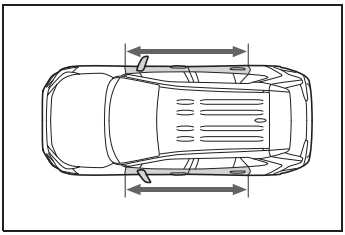
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

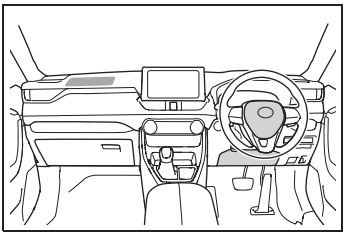
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



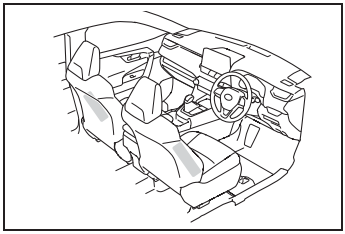
●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



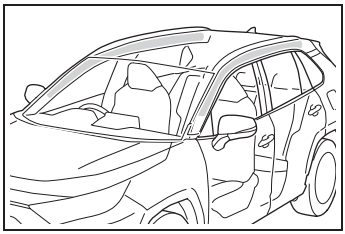
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

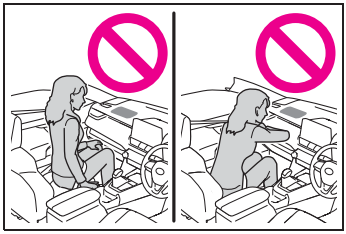
●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

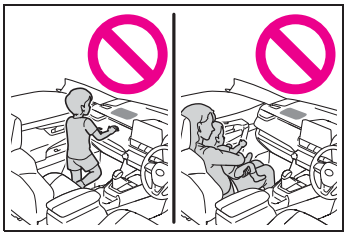
警告

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.39)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

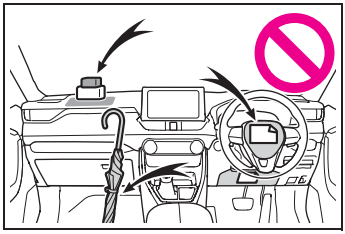


●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

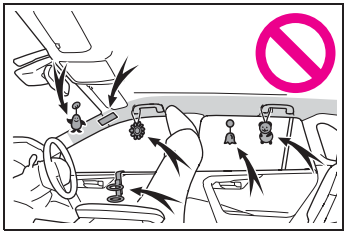
●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→P.381）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなど周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

警告

- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

警告

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
  シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
  （→P.39）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.122）・ウインドウロックスイッチ（→P.164）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまを乗せるとき

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.39）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。
  トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.39

チャイルドシートを使用するときは：P.40

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.43

チャイルドシートの取り付け方法：P.47
・ シートベルトで固定する：P.48
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.50
・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.51

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
  （→P.43）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.43）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

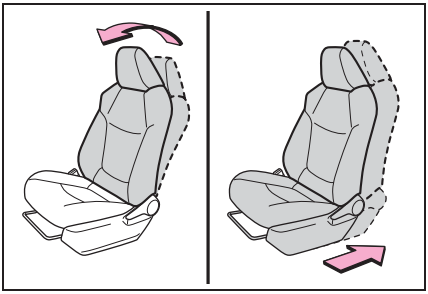
お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



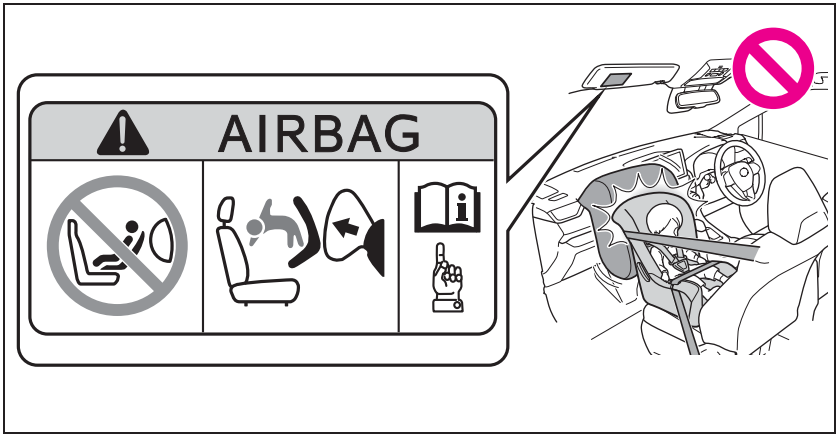
警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

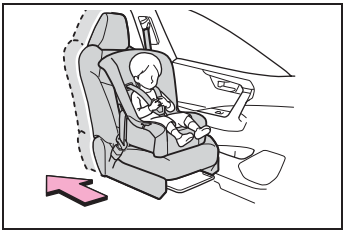
● やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告



警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



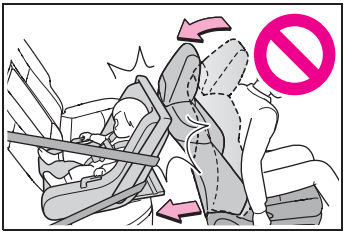
●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

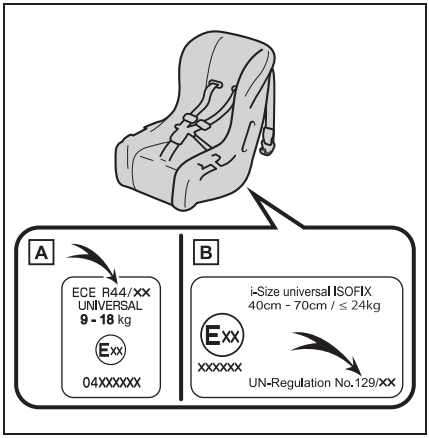
■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.44）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.46）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク※2

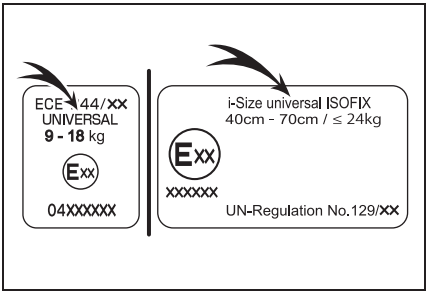
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN（ECE）R129 認可マーク※2

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

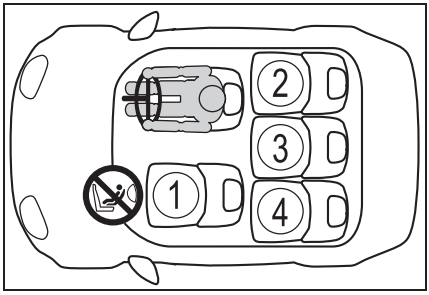
・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



1 ※1, 2, 3	U ※4 L
2 ※2, 3	U L
3 ※2, 3	U L
4 ※2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.46）に記載されたチャイルドシートに適しています。

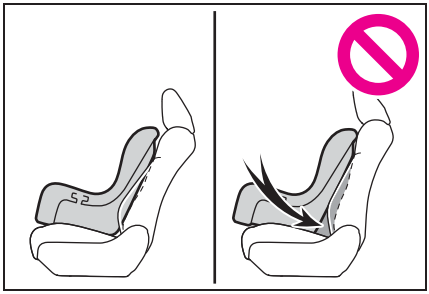
i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができ

ます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

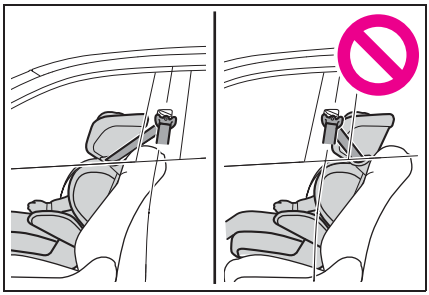
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置			
		①	②	③	④
0, 0+ （13kg まで）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
Ⅰ （9 ～ 18kg）	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	○	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルト

がチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

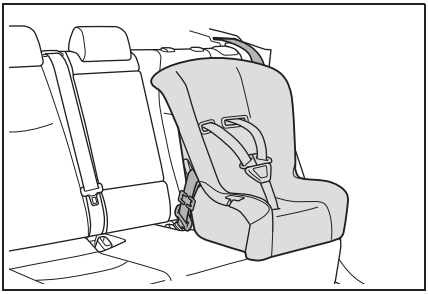
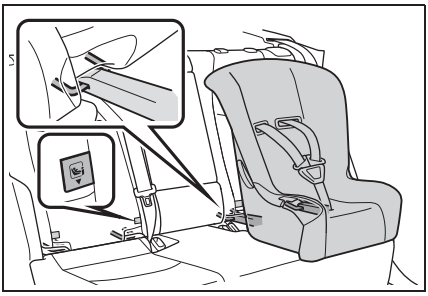
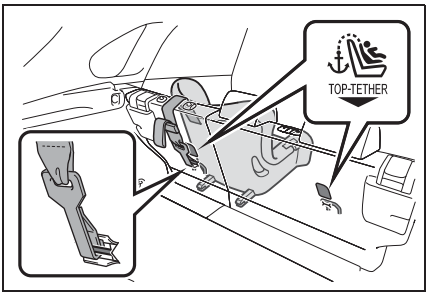
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.48
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.50
テザーベルトを固定する		P.51

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.43, 44）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.40）

2 背もたれを可能な限り起こす

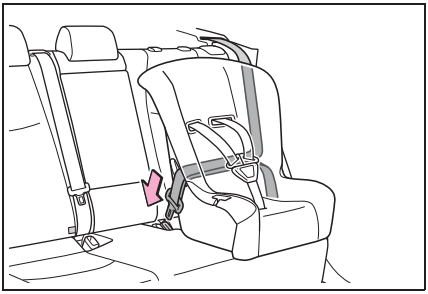
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあ

いだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.147）

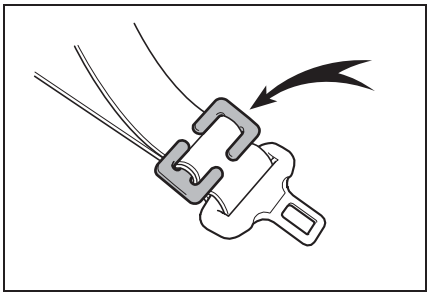
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.50）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

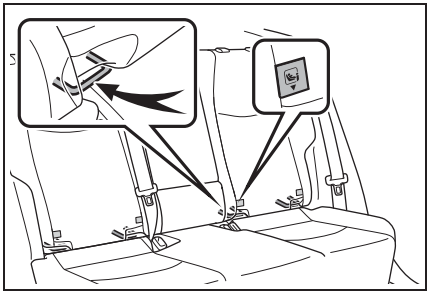
警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.43, 44）

1 背もたれを可能な限り起こす

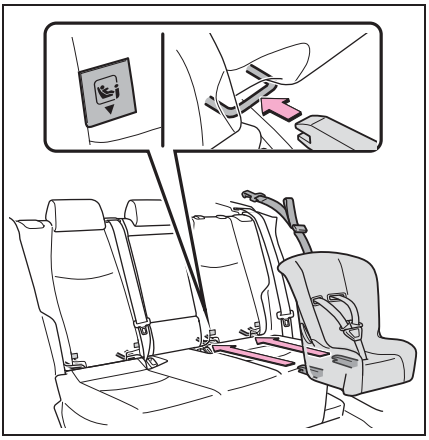
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.147）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けま

す。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.50）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

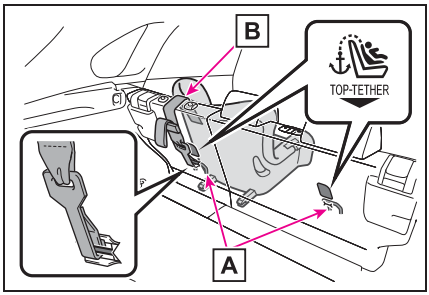
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

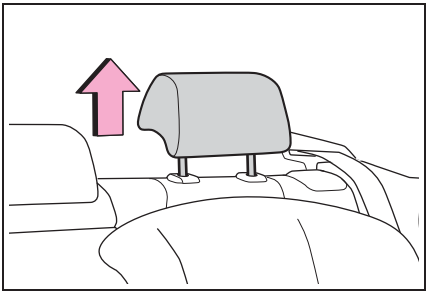
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

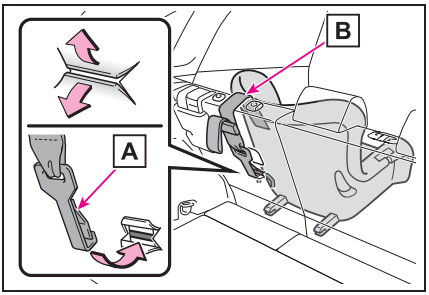
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.147）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.50)
ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

T-Connect DCM 単体

ここでは、T-Connect DCM 単体について記載しています。販売店オプションのナビゲーションシステムは、製品に添付の取扱説明書を参照してください。

警告

■T-Connect をご利用になるときは

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。
走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

■ペースメーカーやその他の医療用電気機器をお使いの方は

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、T-Connect をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。

T-Connect について

車両に搭載された通信機器により、「安心・快適・便利」な車向け情報サービスをご利用いただけます。

■ サービス

サービス	ページ
ヘルプネット	P.57
マイカー Security	P.68
リモートメンテナンスサービス	P.72

T-Connect ナビを装着されているお客様は、上記のサービスの他に T-Connect のさまざまなサービスがご利用いただけます。
販売店オプションのナビゲーションシステムは、製品に添付の取扱説明書を参照してください。

■ T-Connect のご契約

T-Connect DCM 単体	通信機器
	通信モジュール（DCM）
利用料金	初度登録日から 3 年無料 ※1 4 年目以降は有料 ※2
必要な手続き	トヨタ販売店または、Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）もしくは専用のスマホアプリにて T-Connect の利用申し込み

※1 無料期間：初度登録日から初回の 36 カ月点検（車検）月の末日までとなります。
無料期間内にいったん解約した場合でも、初度登録日から初回の 36 カ月点検（車検）月の末日までは無料となります。

※2 利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）でご確認ください。

掲載の情報は 2019 年 4 月現在のサービスです。サービス内容は変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

最新のサービスは、T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）でご確認く

ださい。

■ 通信モジュール（DCM）について

T-Connect は、通信モジュール（DCM）を利用して、データ通信を行います。

通信モジュール（DCM）は通信アンテナを使用します。

通信アンテナは、ルーフ後部とインストルメントパネルに内蔵されています。

■ 通信モジュール（DCM）の消耗品について

エアバッグ作動による自動通報を補助するため、ヘルプネット専用補助バッテリーを搭載しています。

寿命による交換時期は、ヘルプネットボタンの表示灯（赤点滅）でお知らせします。また、エアバッグ作動による自動通報を実施した際は、安全のため交換をお願いします。

ヘルプネット専用補助バッテリーの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■ 通信モジュール（DCM）について

- 通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。
- 通信モジュール（DCM）を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。
- フリー／オープンソースソフトウェア情報について
  通信モジュール（DCM）はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。
  このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
  http://www.globaldenso.com/en/opensource/dcm/toyota/

■ データ通信時の留意事項

T-Connect は、データ取得時に通信を行います。
次の点をご理解の上、正しくお使いください。

- 通信方式は、KDDI 株式会社の LTE 方式です。
  サービスエリアは同社サービスエリア図をご参照ください。
  なお、通信状況はさまざまな要因で変動します。必ずしもサービスエリア内にいれば、常に通信が可能というわけではありません。
- 次のような通信環境では、データ通信できない場合があります。
  - トンネルの中にいるとき
  - 地下駐車場にいるとき
  - 山奥などの通信圏外にいるとき
  - 回線が混雑しているなど、発信規制中のとき
- T-Connect はデータ取得に通信を利用するため、通信環境の整わない状況では通信を利用するサービスはすべて利用できません。
- この先、通信事業者にて通信に使用する電波が変更もしくは打ち切りになった場合、T-Connect が使用できなくなります。
  （その場合には事前にご連絡します）

■ データ通信料金とデータ取得の時間について

- 通信モジュール（DCM）でのデータ通信に関する通信料金は T-Connect 利用料金に含まれています。

● データ取得までの時間は、車載機の状態やデータの内容、電波状態によって異なります。

T-Connect の利用開始操作

■ T-Connect の利用開始操作をする前に

T-Connect の利用開始操作をする前に、トヨタ販売店にて、申込みが必要です。

トヨタ販売店にお越しになれないお客様は、ホームページからもお申込みいただけます。

● URL：https://toyota.jp/tconnectservice/

● QR コード：

「QR コード」は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

■ 用意するもの

● 車検証

● メールアドレス
（パソコン、スマートフォン、携帯電話のもの）

一部のサービスは専用のスマホアプリを使用します。ご利用の際は、スマホアプリのインストールとログインを実施してください。

■ パソコンまたはスマートフォンをお持ちのお客様へ

T-Connect の利用開始操作を実施する前に T-Connect ユーザーサイト、または専用のスマホアプリでログインすることで、T-Connect の利用開始操作後に契約状況を確認することができます。

■ T-Connect の利用開始操作をする

1 できるだけ見晴らしの良い場所に車を駐車する

ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

2 手動保守点検を行い、次の点を確認する（→P.60）

● 通信が正常に始まる

● 通話ができる

● 通報位置が正しい（ヘルプネットセンターとの通話で確認）

手動保守点検を実施する前に、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯している場合、前契約者の解約手続きが完了していません。T-Connect サポートセンターにご連絡ください。

3 手動保守点検後、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅から点灯に変わり、赤の表示灯が消灯していることを確認する（→P.61）

● ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しない、または点灯しているにもかかわらず、赤の表示灯が点滅しているときは、一度パワースイッチを OFF にして、再度パワースイッチを ACC または ON にしてしばらくお待ちください。赤の表示灯が点滅

または点灯した場合は、再度、手動保守点検を実施してください。

● ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅から点灯に変わるまで、時間がかかります。

● 手動保守点検が正常に終了しなくても、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯することがあります。このとき、緊急通報できないことがあるため、トヨタ販売店にご相談ください。

● ヘルプネットの利用開始操作※が正常に完了しないと、ヘルプネットサービスの提供ができません。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

● T-Connect の利用開始操作のお問い合せ先

T-Connect サポートセンター

全国共通・フリーダイヤル

0800― 500― 6200

受付時間 9：00 ～ 18：00（年中無休）

■ T-Connect の解約手続きについて

お車を手放すときなど、T-Connect を解約するときは、次のいずれかの手続きを行ってください。

● パソコンサイトから解約する場合
T-Connect の Web サイトに接続して解約手続きをする
https://toyota.jp/tconnectservice/

● サポートセンターから解約する場合
T-Connect サポートセンターに連絡して解約する

T-Connect サポートセンター

全国共通・フリーダイヤル

0800― 500― 6200

受付時間 9：00 ～ 18：00（年中無休）

知識

■ T-Connect の利用契約の継続方法について

● T-Connect は、契約の更新日が近付くと、トヨタコネクティッド（株）より案内を送付します。

● 利用契約の継続／停止は T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）から手続きができます。

警告

■ T-Connect の利用開始操作について

● 次のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。

・ 通信が始まらない

・ 通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う

・ 通話できない

警告

- T-Connect の利用開始操作は途中で中断せず、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯し、赤の表示灯が点滅または点灯しないことを確認するまで実施してください。赤の表示灯が点滅または点灯した場合は、再度手動保守点検を実施してください。パワースイッチを OFF にして中断したときは、基本的にヘルプネットボタンの緑の表示灯は点灯しません。それでも点灯したときはトヨタ販売店にご相談ください。
- ヘルプネットの利用開始操作※時の手動保守点検が正常に動作しなかったときは、緊急通報できないことがあり危険です。手動保守点検時に関連機器が正常に動作しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

- 手動保守点検後、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。ヘルプネットの利用開始操作中に、手動保守点検が正常に動作しても緑の表示灯が点灯しない場合は、一度パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ACC または ON にしてしばらくお待ちください。それでも緑の表示灯が正常に点灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）は、交通事故発生時や急病などの緊急事態発生時に、自動またはボタン操作でヘルプネットセンターに電話し、車内からの通報を補助するシステムです。

また、交通事故発生時車両データの活用により、お客様の重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行う D-Call Net 機能に対応しています。

ヘルプネットは、警察や消防への緊急通報サービスです。ロードサービスへの取り次ぎは行いません。

■ サービス開始と解約について

ヘルプネットは、ヘルプネットボタンの操作によるヘルプネットの利用開始操作※が完了すると利用できます。（→P.55）

ヘルプネットボタンなどが正常に動作するか確認してください。この確認を行わないと、ヘルプネットサービスの利用ができません。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

ヘルプネットを解約したいときは、T-Connect を解約すると、同時に解約されます。

ヘルプネットは（株）日本緊急通報サービスの登録商標です。

■ 緊急通報について

緊急通報は、利用開始操作の完了後に利用できる機能です。

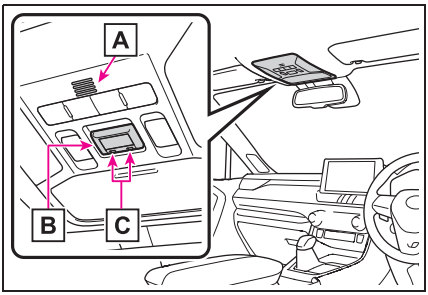
▶ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

▶ ボタン操作による手動通報

乗員がヘルプネットボタンを押すと、ヘルプネットセンターに通報します。

各部の名称とはたらき



A マイク

緊急通報中や手動保守点検中のハンズフリー通話時に使用します。

B ヘルプネットボタン

ボタン操作による手動通報をするとき、手動保守点検をするとき、またはヘルプネットの利用開始操作をするときに押します。

C 表示灯

赤と緑の表示灯の点灯の組み合わせにより、機器の故障、緊急通報中などシステムの作動状況をお知らせします。
（→P.61）

緊急通報をする

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報されます。

パワースイッチが ACC または ON のとき、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

1 エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が開始される

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

エアバッグが作動しなくても、事故の形態によっては通知を開始する場合があります。

2 ヘルプネットセンターに車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

3 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

お客様からの応答が無い場合には意識不明と判断し、オペレーターがお客様に代わって速やかに救急車の手配を要請します。

4 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

5 通話が終了すると、ヘルプネットセンターが電話回線の切断を行う

6 通話終了後、約 30 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる

緊急通報終了後約 30 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 30 分間、呼び返し待機状態が延長さ

れます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

7 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

8 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

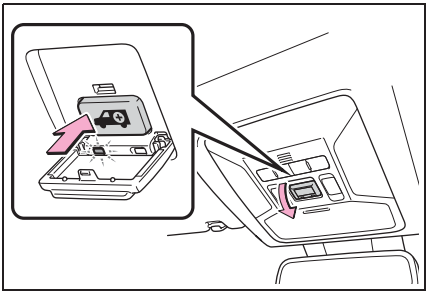
■ ボタン操作による手動通報

急病などの緊急事態発生時、車内からヘルプネットセンターへ通報するときにボタン操作をすることで緊急通報ができます。

パワースイッチが ACC または ON のとき、ヘルプネットボタンを押すと緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

1 ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯していることを確認する

2 ヘルプネットボタンのカバーを開き、ヘルプネットボタンを押す



3 ヘルプネットセンターへ接続を開始し、緊急通報が開始される

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

4 ヘルプネットセンターにデータ通信を行い、車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

5 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

手動通報時には、通話にて状況を直接オペレーターにお知らせください。

6 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

7 通話が終了すると、ヘルプネットセンターが電話回線の切断をする。

8 通話終了後、約 30 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる。

緊急通報終了後約 30 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 30 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

9 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

10 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

ヘルプネットの保守点検をする

■ 自動保守点検について

自動保守点検は、定期的に自動で実施される保守点検です。お客様が会員登録されているかを、ヘルプネットセンターが確かめます。

自動保守点検を行うための特別な操作は、必要ありません。

● 点検時期

（株）日本緊急通報サービスが定める期間ごとに行われます。

● 点検時間

開始後 1 ～ 2 分で終了します。

■ 手動保守点検を実施する

手動保守点検は、お客様ご自身が手動で実施する保守点検です。

手動保守点検では、次の保守点検を実施します。

● 関連機器の保守点検（関連機器修理点検や車両修理後の保守点検）

● ヘルプネットセンターに会員登録されているかの確認（加入時、契約内容変更時）

1 できるだけ見晴らしのよい場所に車を駐車する

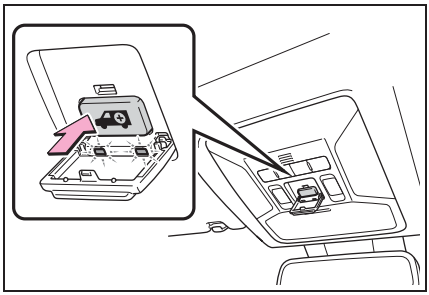
ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

2 ヘルプネットボタンのカバーを開く

3 パワースイッチを OFF にする

4 パワースイッチを ACC または ON にする

5 ヘルプネットボタンの赤と緑の表示灯がともに点灯したら、すぐにヘルプネットボタンを押し、音声案内が流れるまで押し続ける



6 ヘルプネットセンターに接続が開始される

手動保守点検が開始されると、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し始め、音声案内が流れます。ボタンから指を離してください。

7 ヘルプネットセンターに接続すると、最初にデータ通信を行い、以下の確認が実施される

● 車両の現在地

● 手動保守点検をしていること

● ヘルプネットセンターに会員登録されていること

8 データ通信完了後、通話モードになる

9 ヘルプネットセンターと通話する

ヘルプネットセンターの応対は、自動音声で行われます。自動音声で車両の現在地の確認後に、名前を聞かれます。
「ピー」と鳴ったら、お客様の名前を話してください。自動音声で名前をくり返したのち、緊急通報可能であることをお知

らせし、通話が終了します。

10通話の終了後に点検を終了する

緑の表示灯は点滅を終了します。

ヘルプネットボタンの表示灯について

ヘルプネットシステムはシステムの作動状態をヘルプネットボタンの赤と緑の表示灯でお知らせします。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
点灯	消灯	動作中のとき (KDDI サービスエリア内)	緊急通報を利用できます。
		自動保守点検中のとき	緊急通報を利用できます。
消灯	点灯	動作中のとき (KDDI サービスエリア外)	緊急通報できません。KDDI サービスエリア内に移動して使用してください。
		関連機器に異常があるとき (KDDI サービスエリア内)	KDDI サービスエリア内でいつまでもこの表示が続くときは機器の故障が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
点滅	消灯	緊急通報中のとき	緊急通報が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検中のとき	手動保守点検が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		T-Connect の利用開始操作中のとき	T-Connect の利用開始操作が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
消灯	点滅	緊急通報が正常に行えなかったとき	約 10 秒後に表示が変化します。再度緊急通報するか、最寄りの公衆電話などから通報してください。（→P.59）
		何度試行しても自動保守点検が正常に行えなかったとき（KDDI サービスエリア外）	KDDI サービスエリア内に移動して、手動保守点検をしてください。（→P.60）それでも表示が続く場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検が正常に行えなかったとき	KDDI サービスエリア内に移動してから、再試行してください。（→P.60）
		関連機器に異常があるとき	いつまでも正常な表示に戻らないときは、機器の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
		ヘルプネット専用補助バッテリーの寿命が切れたとき	トヨタ販売店で交換してください。
点灯	点灯	パワースイッチを ON にしたとき（約 5 秒間）	20 秒以上続くときは、機器の異常が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
		関連機器に異常があるとき	
点灯	点滅	e ケア・マイカーカスタマイズの契約処理が正常に行えなかったとき	パワースイッチを OFF にした後、再度 ACC または ON にしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。
消灯	消灯	ヘルプネットサービスの契約が切れているとき	ヘルプネットの利用開始操作 ※ を行ってください。（→P.55）
		関連機器が動作していないとき	パワースイッチを ACC または ON にしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		T-Connect の利用開始操作をしていないとき	T-Connect の利用開始操作を行ってください。（→P.55）

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

故障とお考えになる前に

本機が正常に作動しなくなったときは、次の内容を確認してください。表に従って対処しても作動しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。また、万一異常が発生したときは、必ずトヨタ販売店に修理をご依頼ください。

症状	考えられること	処置
ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しない	T-Connect の利用開始操作を完了していない	T-Connect の利用開始操作※ を行ってください。(→P.55)
緊急通報できない	パワースイッチを ACC または ON にした直後の点検中である	緑の表示灯が点灯するまで待ってから、ヘルプネットボタンを操作して通報してください。(→P.59)
	電波状態が悪い	電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。(→P.60)
	KDDI のサービスエリア外で使用している	
	携帯電話回線が混雑している	しばらくしてから、または電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。(→P.60)
パワースイッチを OFF にしても、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し続けている	緊急通報中である	「緊急通報を、終了しました」という音声案内が流れてから約 30 分経過するまで待って、緑の表示灯の点滅が終了することを確認してください。
ハイブリッド始動後、ヘルプネットボタンの表示灯が両方共に点灯しない	T-Connect 利用契約が完了していない	T-Connect の利用開始操作を行ってください。(→P.55)

※ 利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

知識

■ヘルプネットについて

●いたずらなどで緊急車両などが出動したとき、該当費用に関しての請求をされたり、関連法規により処罰されることがあります。いたずらをしないでください。

●事故発生時以外でも、エアバッグが開いたときには自動通報します。このようなときには、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。

●ヘルプネットボタンの表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。例えば、解

約時の処理をしていない中古車などに搭載された通信モジュールを使用するときは、サービスの利用契約をしていない状態でも緊急通報可能状態として表示することがあります。

■緊急通報について

●緊急通報中に音声案内が流れている間は、通話することができません。音声案内が終わったら、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話して、状況をお知らせください。

●誤操作などでヘルプネットセンターに接続されたときは、車両から通信または通話を終了することができません。終了する場合には、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。なお、オペレーターとの通話中に電波状態の悪化によって回線が切断されることがあります。

■緊急通報できない場合について

以下のようなときには、ヘルプネットサービスが提供できない、またはヘルプネットサービスに支障が出ることがあります。

●T-Connect 利用契約の不成立または消滅
・未登録の場合
・利用契約を解除した場合

●ヘルプネット利用登録の不成立
・利用開始操作※を完了していない場合
・登録情報が更新されていない場合

※利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

●関連機器の異常による通信不能
・関連機器（ヘルプネットボタンおよび表示灯、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナおよびこれらを接続する電気配線など）の故障
・補機バッテリーの電圧低下など、関連機器の故障・消耗など
・車両の衝突・横転時の衝撃や車両火災などによる、関連機器の損傷

●緊急通報センターシステムの位置評定エラー
・GPS のシステムの異常、トンネルや建物の密集地、フェリー降船後などで GPS での位置演算の誤差が大きいとき、位置評定が正常に行われない、または誤差が大きいときなど
（T-Connect DCM 単体でヘルプネットをご利用の場合は、TEL メインアンテナで GPS 測位した情報から位置情報を取得しています。販売店オプションのナビゲーションシステム接続時は、ナビゲーションシステムが GPS アンテナで測位した情報から位置情報を取得しています。）

●ヘルプネットセンター／トヨタスマートセンターの異常による通信不能
・センターシステムの故障など
・センターの火災などによる、センターシステムの損傷

●ヘルプネットで利用する通信網に起因する通信不能
・本サービスに使用する KDDI サービスエリア外に、登録車両が位置するとき
・本サービスに使用する KDDI サービスエリア内であっても、電波の受信状態が悪く、結果として通信ができないとき
・本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）が著しく混雑しているなど、通話利用もしくは通話時間が制限され、結果としてヘルプネットによる通信ができないとき
・本サービスに使用する通信事業者が大規模災害などにより通話が制限され、結果としてヘルプネットによる通話ができないとき
・本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）のサービスが事故、保守、工事などのた

め中断または休止されたとき

●緊急通報事業者の都合によるサービス提供の中断または休止

・センターシステムの保守を、定期的にまたは緊急に行う必要があるとき

・大規模な事故や災害により、一時的に緊急通報がセンターに集中したとき

●その他の要因

・手動通報で、ヘルプネットセンターからの問いかけに対して、通報者から応答が無く、ヘルプネットセンターとして状況把握ができないとき（手動通報後に容体が悪化した、強盗や暴漢に襲われたなど）

警告

■ヘルプネットを安全にご利用いただくために

●安全運転を心がけてください。本システムは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。

●緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。

●緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じるときは、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。

●ヘルプネットの利用開始操作※は契約者ご本人が実施し、ヘルプネットボタンの表示灯が緑点灯／赤消灯（KDDI サービスエリア内）していることを必ず確認してください。

※ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

●本システムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●補機バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。

●KDDIサービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。

●次のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・KDDI サービスエリア外で使用している

・関連機器（ヘルプネットボタンおよび表示灯、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している

・T-Connect が未契約、または契約期限が切れている

警告

・ヘルプネットの利用開始操作※を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない

※ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

●緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、ヘルプネットボタンの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●緊急通報後に救援を待つあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。

●安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。

●T-Connect を解約してもヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しているときは、トヨタ販売店にご相談ください。

●ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

●煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

■緊急通報について

●呼び返し待機中は、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。

●呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

●緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・KDDI サービスエリア外では緊急通報できません。

・KDDI サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。

・緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットボタンの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

警告

■手動保守点検について

●手動保守点検の途中で、パワースイッチを OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを OFF にしてしまったときは、再度、手動保守点検をやり直してください。

●手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。途中で中断したときは、手動保守点検が失敗となるためヘルプネットボタンの緑の表示灯は点灯しません。それでも点灯したときは緊急通報できない可能性があるため、トヨタ販売店にご相談ください。

■ヘルプネットボタンの表示灯について

●表示灯が次のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

・ハイブリッドシステム始動後にヘルプネットボタンの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける

・ハイブリッドシステム始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く

・KDDI サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く

・ハイブリッドシステム始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。例えば、利用契約の解除を行っていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの利用契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

■緊急通報できないときは

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

注意

■ヘルプネットについて

ヘルプネットボタンなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
ヘルプネットボタンなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットボタンなどが故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

■ヘルプネットを安全にご利用いただくために

●本機内部は精密な構造になっています。無理に分解しようとすると、故障の原因になります。万一、異常などがあるときには、すぐにトヨタ販売店にご相談ください。

●関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

●緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●以下の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。
動作温度範囲：－ 20 ℃～＋ 60 ℃

●実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。

●呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりかけて、パワースイッチを OFF にしてください。

■自動保守点検について

自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にパワースイッチを OFF から ACC または ON にしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■手動保守点検について

手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。

●手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。

●手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットボタンの赤の表示灯が点滅します。このときはパワースイッチを一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやり直してください。KDDI サービスエリア内でやり直しても接続されないときには、トヨタ販売店にご相談ください。

マイカー Security

マイカー Security は、ドアの不正な解錠などオートアラームの作動を検知した場合、異常をメールや電話でお知らせします。また、車両盗難時はお客様の要請により、車両の位置を追跡し、警備員を現場に派遣します。

■ マイカー Security の内容

● アラーム通知 （→P.69）

お車のオートアラーム作動を検知した場合、お客様へメールと電話でお知らせします。

● エンジン始動通知（→P.70）

ハイブリッドシステムの始動を検知し、メールでお知らせします。

● うっかり通知（→P.70）

ドアロック忘れやウインドウ（ドアガラス）の閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れ、ハザードランプ（非常点滅灯）の消し忘れなどを、メールでお知らせします。

● リモート確認（→P.71）

ドア・バックドア・ボンネット・ウインドウ（ドアガラス）の開閉

やロックの状態、ハザードランプ（非常点滅灯）の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンで確認できます。

● 車両の位置追跡（→P.71）

お客様の要請により、盗難車の位置を追跡します。

● 警備員の派遣（→P.71）

車両盗難や車上荒らしの際、お客様の要請により、警備員を派遣します。

詳しくは、T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）をご覧ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **設定内容を確認・変更するには**

アラーム通知、エンジン始動通知、うっかり通知の設定の確認・変更は T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）、または専用のスマホアプリから行えます。

それぞれの設定画面から実施してください。

サポートアドレスにメールアドレスの登録がない場合は、通知されません。
T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）、または専用のスマホアプリからサポートアドレスを登録してください。

サービス名	通知方法	設定		
アラーム通知	電話	設定中※	解除中	—
	E メール	設定中※	解除中	—
エンジン始動通知	E メール	設定中	解除中※	—
うっかり通知	E メール	設定中※	解除中	一時停止中

設定中：通知する
解除中：通知しない
一時停止中：通知を 2 時間停止します。一時停止後、2 時間経過すると自動的に設定中に切り替わります。

※ 納車時の設定

■ **アラーム通知**

ドアの不正な解錠、車内侵入などによりオートアラーム作動を検知した場合、サポートアドレスに登録されているメールアドレス・電話番号に通知します。

アラーム通知の設定・解除を行うことができます。（→P.69）

● 車外に出たあと、ドア・バックドア・ボンネットを閉め、すべてのドアをロックしたあと、30 秒以上経過すると自動的にオートアラームが設定されます。

● アラーム通知の連絡を受けたと

き、車両から遠く離れていたり車両が盗難にあったりしていた場合は、車両の位置追跡（→P.71）／警備員の派遣（→P.71）サービスをご利用ください。

● 補機バッテリーがあがった場合、アラーム通知は行われません。

● 車両の室内温度が非常に高いとき、アラーム通知の送信が行われないことがあります。

● 通信環境が整わない状況等によりアラーム通知の送信が行われない場合、送信が完了するまで継続されます。

● アラーム通知が未送信状態で、アラームが複数回作動した場合は、最新のアラームを通知します。

● ヘルプネット通報中は、通報が終わるまで、アラーム通知は行われません。

■ エンジン始動通知

ハイブリッドシステムの始動を検知し、サポートアドレスに登録してあるメールアドレスに通知します。

お車から離れるとき、スマートフォンなどから設定しておくと、第三者によるハイブリッドシステム始動を確認できます。

エンジン始動通知の設定・解除を行うことができます。（→P.69）

● エンジン始動通知の連絡を受けたとき、車両から遠く離れていたり車両が盗難にあったりしていた場合は、車両の位置追跡（→P.71）／警備員の派遣（→P.71）サービスをご利用ください。

● オプション設定で、エンジン始動通知の連絡を受けたあと、パワースイッチが OFF になったことを検知し、通知することができます。

■ うっかり通知

ドアロック忘れやハザードランプ（非常点滅灯）の消し忘れ、ウインドウ（ドアガラス）の閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れなどを、サポートアドレスに登録してあるメールアドレスに通知します。

うっかり通知の設定・解除を行うことができます。（→P.69）

● パワースイッチを OFF にして数分後、次の条件をすべて満たすと、うっかり通知メールが配信されます。

・ドア・バックドア・ボンネットがすべて閉まっている

・電子キーが車内未検知

・ドアロック忘れやドアガラスが閉まっていない、非常点滅灯が点滅しているなど

● お車を駐車した場所やお客様の携帯電話／スマートフォンが電波状態の悪い所にあるときは、配信されなかったり、配信が遅れたりすることがあります。

● 補機バッテリー脱着後は、一度パワースイッチを ACC または ON にするまで、うっかり通知メールが配信されません。

● 電子キーが車外にあっても、次のような場合は車内と判断され

ることがあります。その際には、うっかり通知メールが配信されない場合があります。

・ドアガラスに近い位置、またはルーフ上に電子キーがあるとき

・ドアガラスから車内にある電子キーを車外に出したとき

・スマートエントリー＆スタートシステムを非作動に設定しているとき

● 電子キーが車内にあっても、次のような場合は車外と判断されることがあります。その際には、うっかり通知メールが配信される場合があります。

・窓から電子キーを車内に入れたとき

・電子キーの置き場所（インストルメントパネル上など）、状況（電池切れ、金属製ケースなどの中）、また周囲の電波環境によってスマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれがあるとき（→P.138）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リモート確認

ドア・バックドア・ボンネット・ウインドウ（ドアガラス）の開閉やロックの状態、ハザードランプ（非常点滅灯）の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどをスマートフォンで確認できます。

● スマートフォンでご覧いただける、リモート確認画面での情報は、センターの最新値で、アクセス時点での状態ではありません。お車が電波状態の悪い所に駐車してあるときなどは情報が更新できず、前回の情報が表示されることがあります。

各車両の状態はパワースイッチ OFF 後、ドアの開閉などが一定時間なかったときに、また、お車の状態の項目は状態に変化が発生するごとに更新されます。

● 補機バッテリー脱着後は、一度パワースイッチを ACC または ON にするまで、リモート確認画面での情報は更新されません。

● スマートエントリー＆スタートシステムを非作動に設定している場合、電子キーが車外にあっても、車内にあると判断されることがあり、リモート確認時にも専用のスマホアプリには「スマートキー車内」と表示されます。

■ 車両の位置追跡

お客様の要請により、オペレーターが盗難車両の位置を追跡します。

ご利用の際はセキュリティデスクにご連絡ください。

セキュリティデスク専用電話番号

0561 － 57 － 2012（365 日 24 時間対応）

■ 警備員の派遣

お車が盗難にあったり、オートアラーム作動を検知した場合にお客様の要請により、警備員を現場に派遣します。

ご利用の際はセキュリティデスクにご連絡ください。

セキュリティデスク専用電話番号

0561 － 57 － 2012（365 日 24 時間対応）

● 警備員が出動してから 1 時間以内は無料です。1 時間をこえる場合は、オペレーターから延長するかどうかの確認を行います。

延長した場合の利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）でご確認ください。

● 警備員は盗難車両の確保はいたしません。追跡調査のみ行います。

● 警備員の派遣を依頼するときには、警察への被害届けが必要となります。

知識

■ マイカー Security について

● マイカー Security では、車両の異常を検知した場合、サポートアドレスに登録されている電話番号やメールアドレスに通知します。サポートアドレスに登録されていない場合、通知できませんので、必ずご登録ください。また、連絡先に変更があった場合は T-Connect の Web サイト（https://toyota.jp/tconnectservice/）、または専用のスマホアプリから変更手続きを行ってください。

● 携帯電話／スマートフォンで迷惑メールの拒否設定などをされている場合は、下記の発信元メールを受信できるようにご登録ください。
［登録する発信元メールアドレス］
t-connect.info@mail.tconnect.jp

● メールによる通知には遅延が発生することがありますので、あらかじめご了承ください。

● アラーム通知される番号は発信専用番号となっています。ご連絡の際はセキュリティデスクにご連絡ください。

セキュリティデスク専用電話番号

0561 － 57 － 2012（365 日 24 時間対応）

また、指定着信許可・拒否などの設定をされている場合は、以下の番号を着信できるようご登録ください。
［通知番号］0570-024-111

● マイカー Security では車両の位置情報を使用します。本機が起動していない状態で車両が移動された場合、または電波の届かない場所に車両が移動された場合は、位置情報の変化を確認できません。

● T-Connect 利用契約を解除した場合、メールや電話による通知は送信されません。

リモートメンテナンスサービス

お車の状態に関する情報をトヨタスマートセンターで取得し、カーライフに役立つ情報を提供するサービスです。

■ ウォーニング通知

お車のエンジン・ブレーキ関係・オイルなどの項目について、メーター内の警告灯が点灯しトヨタスマートセンターが異常を検知していると、専用のスマホアプリでウォーニング内容を確認できます。

ウォーニング通知が送信されない警告灯もあります。

■ e ケア

走行アドバイス ※1

警告灯点灯時、お客様からトヨタ販売店にお問い合わせがあった場合、または e ケアコールセンターかトヨタ販売店 ※2 からお客様に

ご連絡する場合に、お車から発信される情報をもとにした、適切なアドバイスを提供することが可能です。

ヘルスチェックレポート ※1

お車の補機バッテリーの状態やエンジンオイルなどのメンテナンスについて、専用のスマホアプリまたは T-Connect ユーザーサイトにて確認することができます。また、トヨタ販売店からはお車から発信される情報をもとに最適なメンテナンスのアドバイスが受けられます。

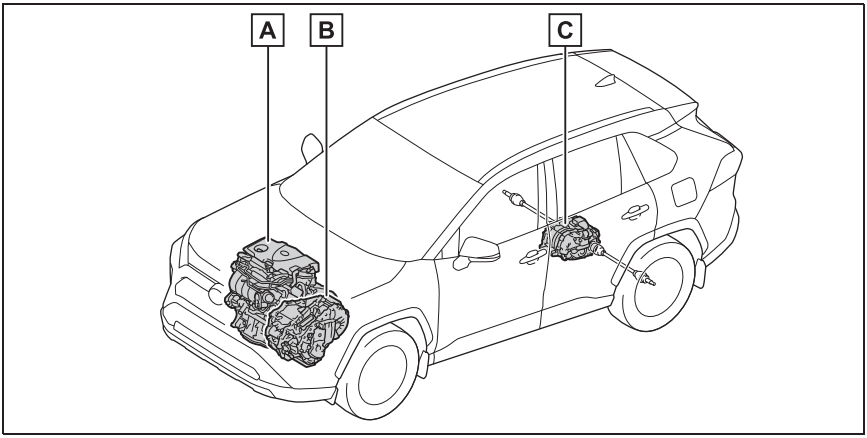
※1 サービスのご利用にはリモートメンテナンス店として、トヨタ販売店の登録が必要です。登録したリモートメンテナンス店を変更する場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

※2 販売店での対応は、営業時間内に限ります。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター（4WD 車）

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。
（→P.75）

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、

ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

■回生ブレーキについて

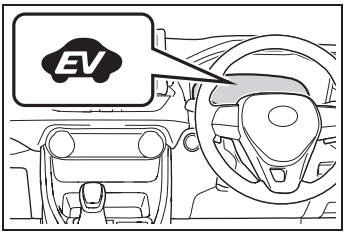
次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーがD またはS で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーがD またはS で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターの動力のみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。

EV インジケーターの作動／非作動を設定できます。（→P.105）



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。※

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.402

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。
安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトレバーを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音

- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート下部にある吸入口から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

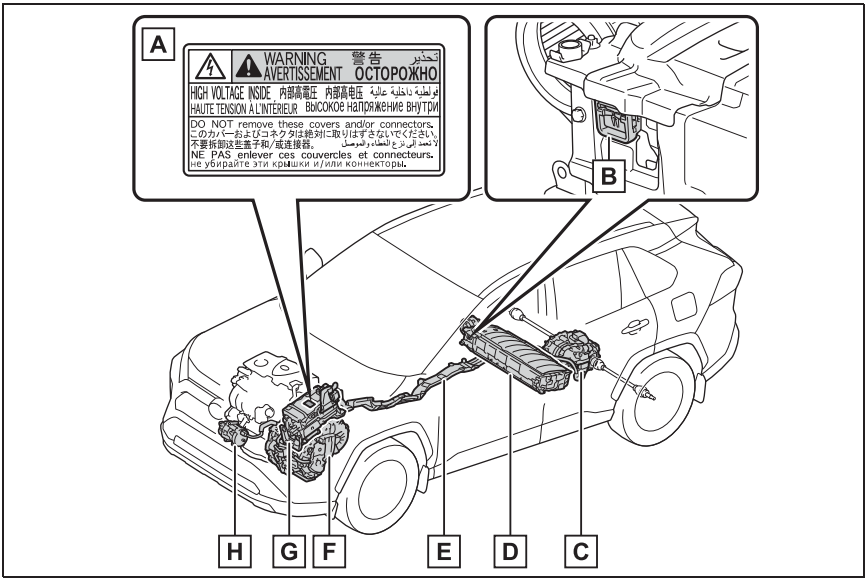
■マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B サービスプラグ

C リヤ電気モーター（4WD 車）

D 駆動用電池

E 高電圧ケーブル（オレンジ色）

F フロント電気モーター

G パワーコントロールユニット

H エアコンコンプレッサー

知識

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.372）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 8.8L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

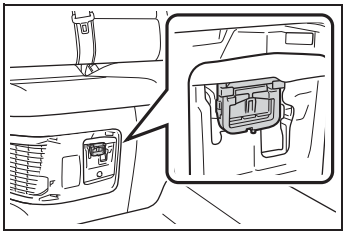
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する

警告

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪（FF 車）または 4 輪（4WD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.362）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する

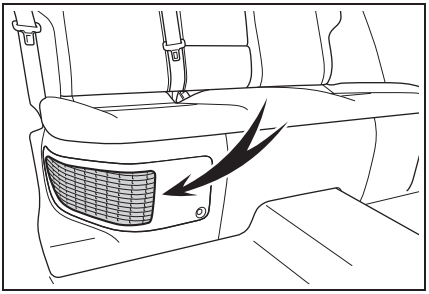
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下（運転席側）には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると、駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。



注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●シートカバーや荷物などで、吸入口がふさがれないようにしてください。吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力に制限がかかる原因になります。

●吸入口にほこりなどがたまったときは、目づまりしないよう掃除機などで清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、P.336 を参照してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、吸入口やフィルターの目づまりが考えられます。
P.336 を参考に吸入口の清掃を行ってください。

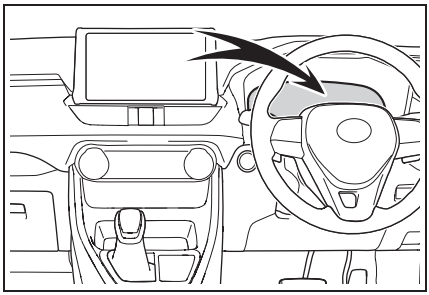
緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。
警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

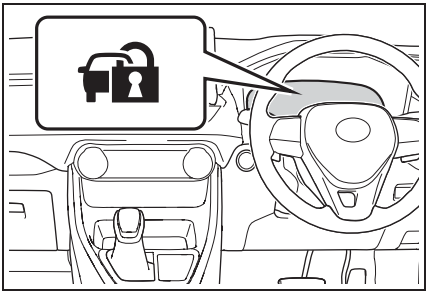
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

T-Connect DCM 単体をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、P.53 を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

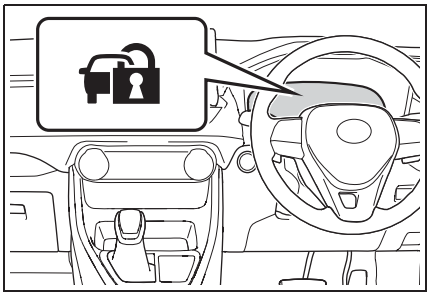
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラス・ムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

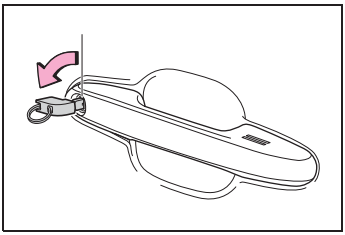
オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■オートアラームの作動について

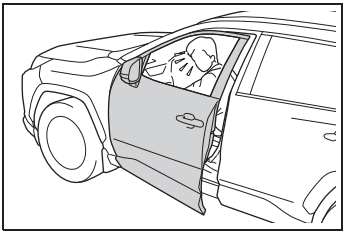
次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- メカニカルキーを使ってドアを解錠し

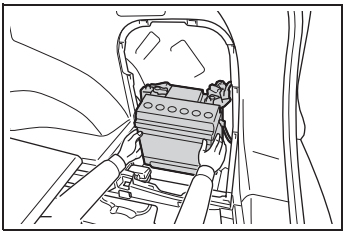
たとき



●車内に残った人が、ドアやボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき



●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.400）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動しないように設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.415）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示

2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 86
計器類（4.2 インチディスプレイ装着車）..... 90
計器類（7 インチディスプレイ装着車）..... 94
マルチインフォメーションディスプレイ 99
エネルギーモニター..... 109

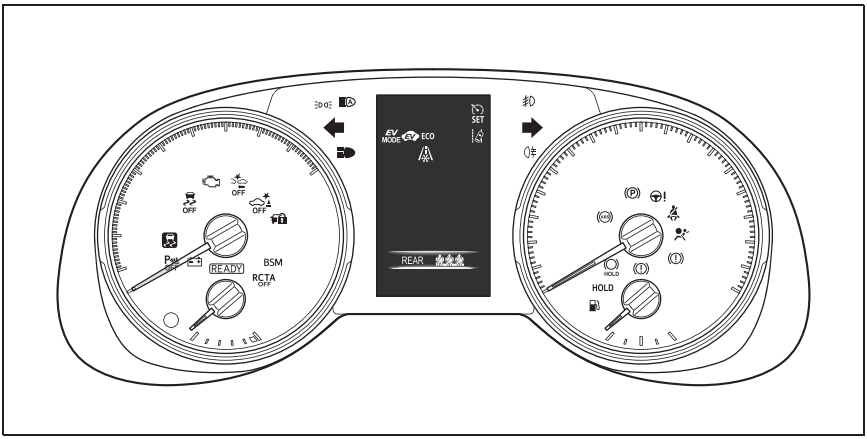
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

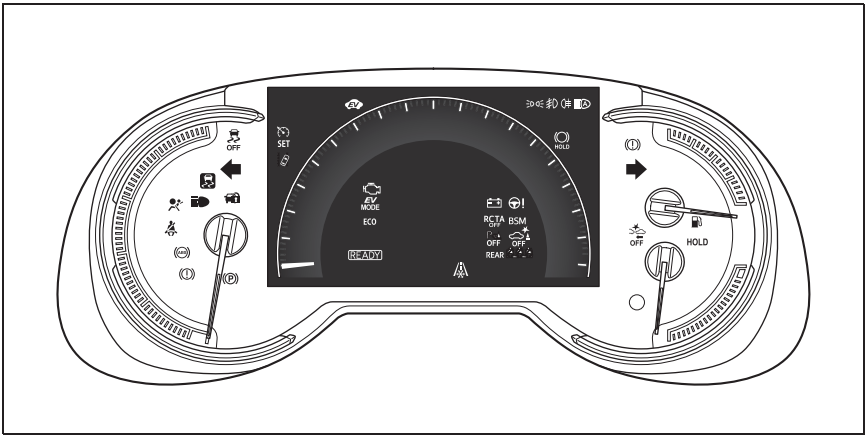
■ 4.2 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車



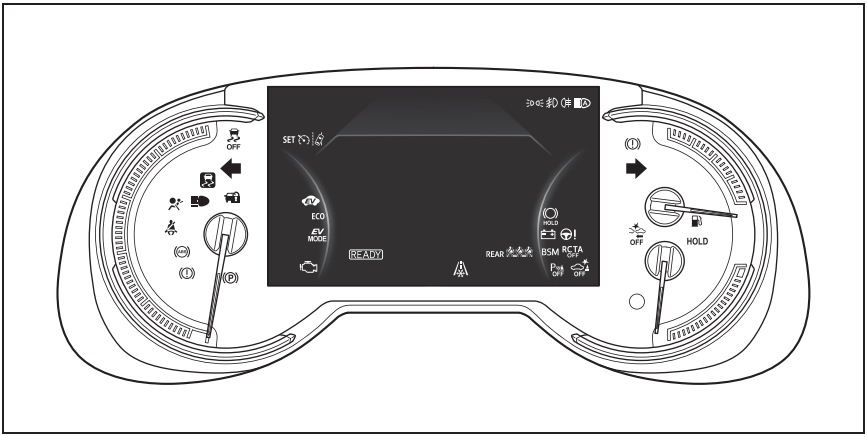
■ 7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車

スピードメーターの表示は、アナログまたはデジタルの 2 種類から選択することができます。（→P.105）

▶ アナログスピードメーター選択時



▶ デジタルスピードメーター選択時



警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）

ブレーキ警告灯 ※1
（→P.367）

（黄色）

ブレーキ警告灯 ※1
（→P.367）

充電警告灯 ※1
（→P.367）

高水温警告灯 ※2
（→P.368）

ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2（→P.368）

油圧警告灯 ※2
（→P.368）

エンジン警告灯 ※1
（→P.368）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1
（→P.368）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.369）

（赤色／黄色）

パワーステアリング警告灯 ※1（→P.369）

（点滅または点灯）

PCS 警告灯 ※1
（→P.369）

（橙色）

LTA 表示灯 （→P.369）

（点滅）

クリアランスソナー OFF 表示灯★ ※3（→P.370）

（点滅）

PKSB OFF 表示灯★ ※1
（→P.370）

（点滅）

RCTA OFF 表示灯★ ※1
（→P.370）

スリップ表示灯 ※1
（→P.371）

ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／PKSB ★警告灯 ※2
（→P.371）

（点滅）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.372）

（点滅）

パーキングブレーキ表示灯（→P.372）

燃料残量警告灯（→P.372）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.372）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.372）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 クリアランスソナー機能が ON のときは、パワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.191）

尾灯表示灯（→P.198）

ハイビーム表示灯（→P.199, 200）

オートマチックハイビーム表示灯（→P.200）

フロントフォグランプ表示灯★（→P.202）

リヤフォグランプ表示灯★（→P.202）

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※1（→182）

クルーズコントロール表示灯（→P.232）

レーダークルーズコントロール表示灯（→P.232）

クルーズコントロールセット表示灯（→P.232）

LTA 表示灯 ※2（→P.226）

クリアランスソナー OFF 表示灯★ ※3, 4（→P.249）

PKSB OFF 表示灯★ ※3, 5（→P.255）

（点滅）

スリップ表示灯 ※5（→P.371）

VSC OFF 表示灯 ※3, 5（→P.273）

PCS 警告灯 ※3, 5 (→P.216)

BSM ドアミラーインジケーター★ ※5, 6 (→P.242)

BSM 表示灯★ (→P.242)

RCTA OFF 表示灯★ ※3, 5 (→P.242)

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※5 (→P.195)

ブレーキホールド作動表示灯 ※5 (→P.195)

セキュリティ表示灯 (→P.82, 83)

READY インジケーター (→P.182)

低温表示灯 ※7 (→P.92, 97)

EV インジケーター (→P.75)

パーキングブレーキ表示灯 (→P.192)

EV ドライブモード表示灯 (→P.186)

エコドライブモード表示灯 (→P.268)

スポーツモード表示灯 (→P.268)

トレイルモード表示灯★ (→P.270)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 クリアランスソナー機能が ON のときは、パワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

※5 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※6 ドアミラーに表示されます。

※7 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

知識

■BSM ドアミラーインジケーターについて★

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。

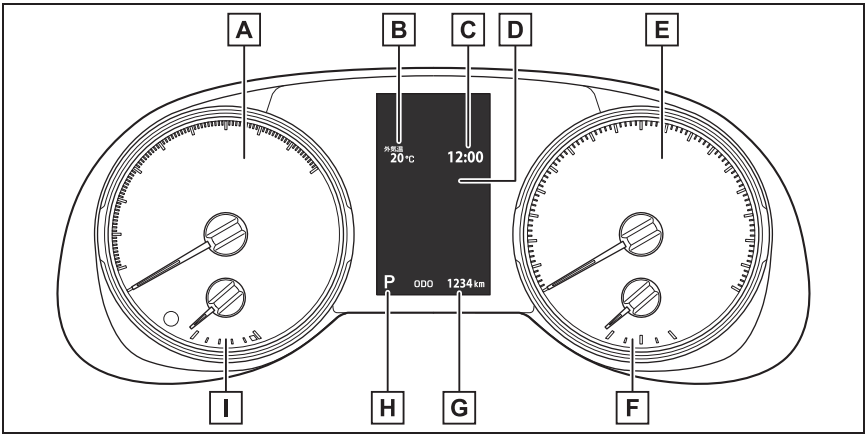
- マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面で、BSM の機能を ON に設定している状態で、パワースイッチを ON にしたとき
- パワースイッチが ON の状態で、BSM の機能をマルチインフォメーションディスプレイの⚙画面で ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類（4.2 インチディスプレイ装着車）

さまざまな走行状況に関する情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について



A ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.91）

B 外気温（→P.92）

C 時計（→P.93）

D マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.99）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.374）

E スピードメーター

車両の走行速度を示します。

F 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・坂道など傾いた場所に停車したとき
・坂道やカーブを走行したとき

G オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整画面

オドメーター：
走行した総距離を表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

メーター照度調整画面：
メーター照明の明るさを調整できます。

H シフトレンジ表示

選択されているシフトレンジを表示します。（→P.188）

I 水温計

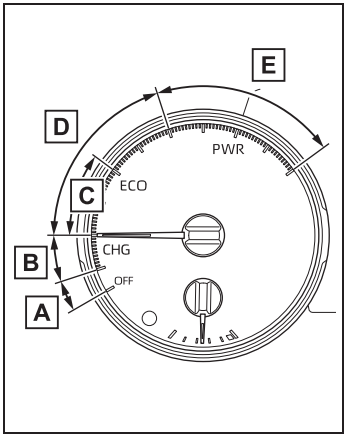
エンジン冷却水の温度を示します。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



A READY OFF エリア

ハイブリッドシステムが作動していない状態を示します。

B チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

C ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

D エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

E パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- READYインジケーターが点灯していないとき
- シフトポジションがDまたはS以外のとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 ODO TRIP スイッチ（→P.92）を押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
3 パワースイッチを OFF にする
4 ODO TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温度表示について

●外気温度を－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.100

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

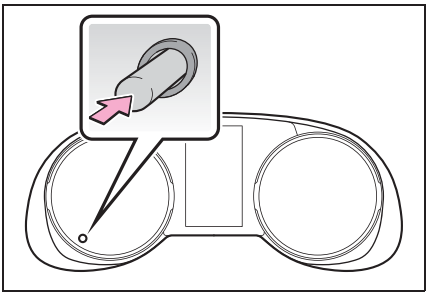
水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.404）

ODO TRIP スイッチの操作について

ODO TRIP スイッチを押すごとに、オドメーター／トリップメーター A ／トリップメーター B ／メーター照度調整の順に表示が切りかわります。

● トリップメーターの表示中にスイッチを押し続けると、走行距離が 0 にもどります。

● メーター照度調整の表示中にスイッチを押し続けると、メーター照明の明るさを調整できます。



知識

■ **メーター照度調整について**

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

時計を操作するには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から、「時計 :00」画面を表示することで、時計に関する次の設定を変更できます。

● 分を 00 にする

● 12 時間表示／ 24 時間表示の切りかえ

● 時刻の調整

■ **分を 00 にするには**

1 メーター操作スイッチの＜または＞を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して「時計 :00」を選択する

「時計 :00」画面の表示中にメーター操作スイッチのOKを押すと、分を 00 に合わせることができます。

● 0 ～ 29 分は切り下げられます。

（例えば、1：00 ～ 1：29 は 1：00 になります）

● 30～59分は切り上げられます。

（例えば、1：30 ～ 1：59 は 2：00 になります）

■ **時刻を調整するには**

1 メーター操作スイッチの＜または＞を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して「時計 :00」を選択する

3 「時計 :00」画面の表示中にメーター操作スイッチのOKを押し続ける

4 メーター操作スイッチの＜または＞を押して「12H」／「24H」・「時」・「分」のいずれかの項目を選択する

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して表示内容を変更する

設定が完了したら、↩を押して前の画面にもどします。

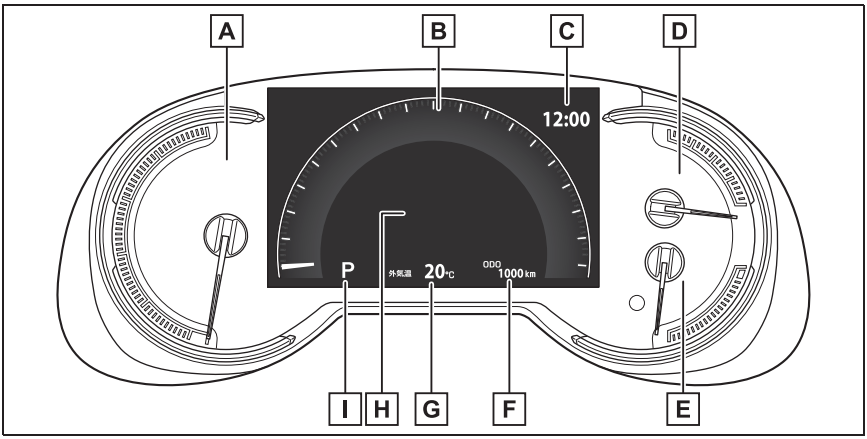
計器類（7 インチディスプレイ装着車）

走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

スピードメーターの表示は、アナログまたはデジタルの 2 種類から選択することができます。（→P.105）

■ アナログスピードメーター選択時



A ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.96）

B スピードメーター

車両の走行速度を示します。

C 時計（→P.98）

D 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整画面

オドメーター：
走行した総距離を表示します。
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。
メーター照度調整画面：
メーター照明の明るさを調整できます。

G 外気温（→P.97）

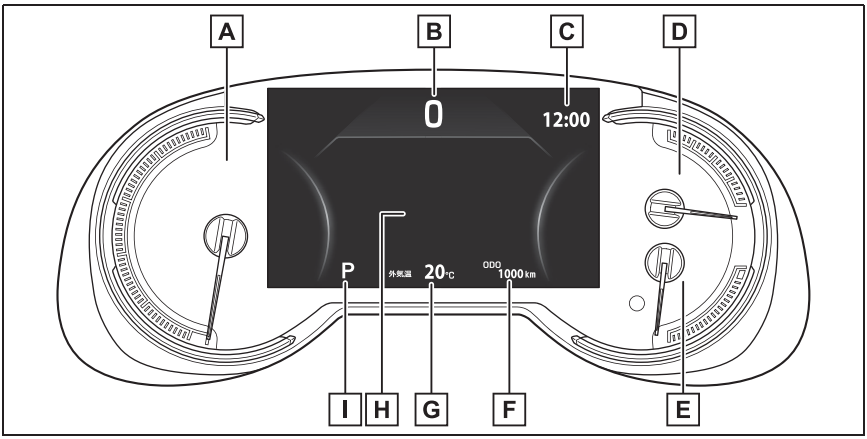
H マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.99）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.374）

I シフトレンジ表示

選択されているシフトレンジを表示します。（→P.188）

■ デジタルスピードメーター選択時



A ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→P.96）

B スピードメーター

車両の走行速度を示します。

C 時計（→P.98）

D 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき

・ 坂道やカーブを走行したとき

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整画面

オドメーター：
走行した総距離を表示します。
トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A ／トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。
メーター照度調整画面：
メーター照明の明るさを調整できます。

G 外気温（→P.97）

H マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.99）
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.374）

I シフトレンジ表示

選択されているシフトレンジを表示します。（→P.188）

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

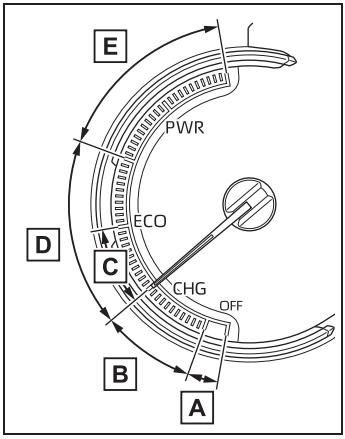
パワースイッチが ON のとき

■走行モードを切りかえたとき

● 選択した走行モードに従って、スピードメーターの表示色が変化します。（→P.268）

● 4WD 車では、トレイルモードを ON にしたときも、スピードメーターの表示色が変化します。（→P.270）

■ハイブリッドシステムインジケーターについて



A READY OFF エリア

ハイブリッドシステムが作動していない状態を示します。

B チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

C ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

D エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

E パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- READYインジケーターが点灯していないとき
- シフトポジションがDまたはS以外のとき

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる
2 ODO TRIP スイッチ（→P.98）を押してオドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる
3 パワースイッチを OFF にする
4 ODO TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON にする
5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温度表示について

- 外気温度を－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。
- 外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に が点滅し、そのあと点灯します。
- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - ・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
  - ・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “--”または“E”が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.100

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの 画面で、メーターの表示を変更できます。（→P.105）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

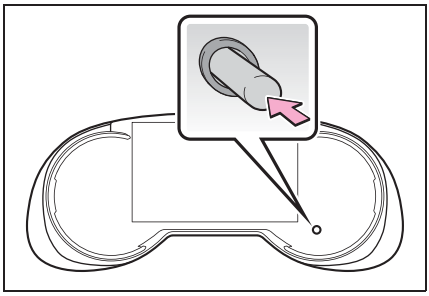
■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.404）

ODO TRIP スイッチの操作について

ODO TRIP スイッチを押すごとに、オドメーター／トリップメーター A ／トリップメーター B ／メーター照度調整の順に表示が切りかわります。

- トリップメーターの表示中にスイッチを押し続けると、走行距離が 0 にもどります。
- メーター照度調整の表示中にスイッチを押し続けると、メーター照明の明るさを調整できます。



知識

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

時計を操作するには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から、「時計 :00」画面を表示することで、時計に関する次の設定を変更できます。

- 分を 00 にする
- 12 時間表示／ 24 時間表示の切りかえ
- 時刻の調整

■ 分を 00 にするには

1. メーター操作スイッチの＜または＞を押して⚙を選択する
2. メーター操作スイッチの∧または∨を押して「時計 :00」を選択する

「時計 :00」画面の表示中にメーター操作スイッチの OK を押すと、分を 00 に合わせることができます。

● 0 ～ 29 分は切り下げられます。

（例えば、1：00 ～ 1：29 は 1：00 になります）

● 30～59分は切り上げられます。

（例えば、1：30 ～ 1：59 は 2：00 になります）

■ **時刻を調整するには**

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して「時計 :00」を選択する

3 「時計 :00」画面の表示中にメーター操作スイッチの OK を押し続ける

4 メーター操作スイッチの < または > を押して「12H」／「24H」・「時」・「分」のいずれかの項目を選択する

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して表示内容を変更する

設定が完了したら、↩ を押して前の画面にもどします。

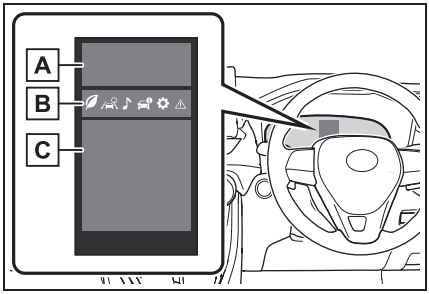
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。

画面の見方

マルチインフォメーションディスプレイには、次の情報が表示されます。

■ **4.2 インチディスプレイ装着車**



A 運転支援システム情報表示部

RSA（ロードサインアシスト）が作動しているとき、認識した標識を表示します。（→P.229）

以外のメニューアイコンが選択されている状態で、次のシステムが作動しているとき、各システムの作動状況を表示します。

・LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.221）

・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.232）

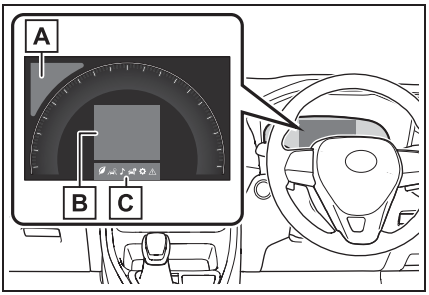
B メニューアイコン（→P.101）

C 情報表示部

メニューアイコンを切りかえることにより、さまざまな情報を表示することができます。

また、車両の状況に応じて、各種の注意喚起やアドバイスなどが割り込み表示されます。

■ 7インチディスプレイ装着車



A 運転支援システム情報表示部

RSA（ロードサインアシスト）が作動しているとき、認識した標識を表示します。（→P.229）

以外のメニューアイコンが選択されている状態で、次のシステムが作動しているとき、各システムの作動状況を表示します。

・LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.221）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.232）

B 情報表示部

メニューアイコンを切りかえることにより、さまざまな情報を表示することができます。

また、車両の状況に応じて、各種の注意喚起やアドバイスなどが割り込み表示されます。

C メニューアイコン（→P.101）

知識

■マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■走行モードを切りかえたとき

●選択した走行モードに従って、マルチインフォメーションディスプレイの背景色が変化します。（→P.268）

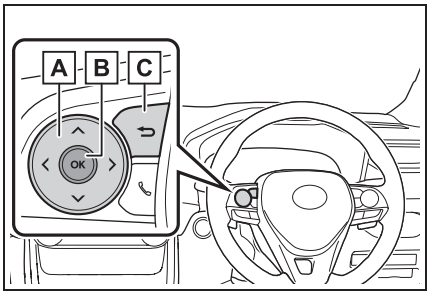
●4WD 車では、トレイルモードを ON にしたときも、マルチインフォメーションディスプレイの背景色とイメージが変化します。（→P.270）

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A 画面のスクロール※・表示内容の切りかえ※・カーソルの移動

B 短押し：決定
長押し：リセット・詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

※ 画面のスクロールや表示の切りかえなどが可能な画面では、スクロールバー、または表示可能な画面数を示す丸いアイコンが表示されます。

警告

■走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けないでください。

メニューアイコン一覧

メーター操作スイッチを操作してアイコンを選択することで、各アイコンに関連付けられた情報を表示することができます。

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。

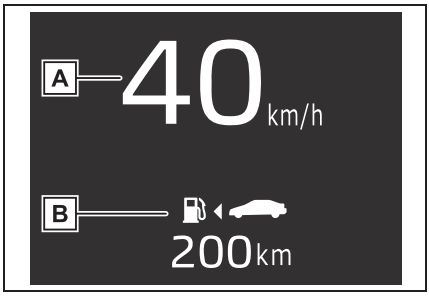
アイコン	表示される画面
	走行情報表示画面（→P.101）
	運転支援機能情報表示画面（→P.103）
	オーディオ連携画面★（→P.104）
	車両情報表示画面（→P.104）
	設定画面（→P.105）
	警告メッセージ表示画面（→P.108）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行情報表示画面について

燃費に関するさまざまな情報を表示します。

■ 車速表示／航続可能距離（4.2インチディスプレイ装着車のみ）



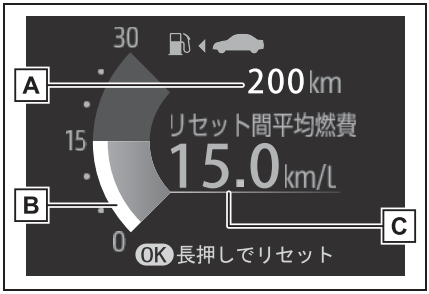
A 車速表示

現在の車速を表示します。

B 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.103）

■ 燃費グラフ



A 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.103）

B 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

C 平均燃費

始動後・給油後・リセット間のうち、いずれかの平均燃費を表示します。※1, 2, 3

画面の「燃費グラフ」で選択した燃費が表示されます。（→P.105）

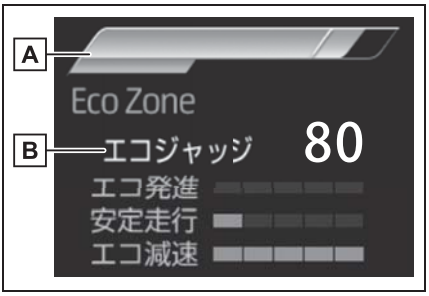
※1表示される燃費は参考として利用してください。

※2始動後平均燃費は、ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

※3リセット間平均燃費の表示中にOKを押し続けると、リセットされます。

■ エコアクセルガイド／エコジャッジ

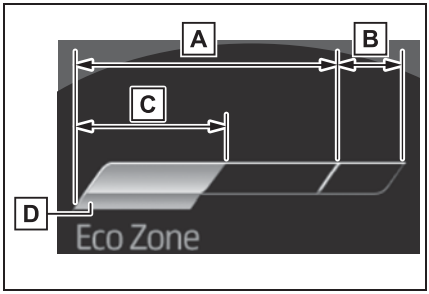
走行状況に適したアクセル操作の目安や、走行状況を評価して採点結果を表示します。



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

▶ エコアクセルガイドの見方



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

C 現状のアクセル開度

D アクセル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。

▶ エコジャッジの見方

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ減速）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。

A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

走行中は 3 つの走行状況がそれぞれのアイコンで表示されます。

各採点項目のゲージは、それぞれ次の意味を示しています。

状況	表示
未評価	
評価が低い	
評価が高い	

発進後、車速が約 20km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

ハイブリッドシステムを停止すると、今回の走行における総合的な採点結果が表示されます。（「今回の走行」の設定［→P.105］で「エコジャッジ」が選択されているときのみに表示されます）

知識

■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.91, 97）

●「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

■エコアクセルガイド／エコジャッジの作動条件

次の場合、エコジャッジとエコアクセルガイドの作動が停止します。

●ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しているとき

運転支援機能情報表示画面について

■ 運転支援システム連携表示

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.221）

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.232）

■ ナビゲーションシステム連携表示★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した、トヨタ純正ナビゲーションシステム（販売店オプション）を装着している場合、ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● 目的地案内

● コンパス（ノースアップ／ヘッディングアップ表示）

オーディオ連携画面について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した、トヨタ純正ナビゲーションシステム（販売店オプション）を装着している場合、オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

車両情報表示画面について

■ ドライブインフォメーション

「ドライブインフォ項目選択」の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に２つ、表示させることができます。

各情報の内容は、「ドライブインフォタイプ」の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→P.105）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後 ※

・平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示

・走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示

・走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間 ※

・平均車速：リセット後の平均車速を表示

・走行距離：リセット後の走行距離を表示

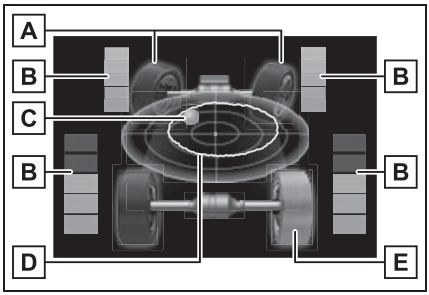
・走行時間：リセット後の経過時間を表示

※ OKを押し続けるとリセットされます。

■ エネルギーモニター

→P.109

■ 4WD 作動状態表示（4WD 車）



A 操舵表示

前輪の表示の変化により、ハンドルの操作量と操作方向を表示します。

B 駆動力表示

０～５の６段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

C G 表示※

ボールの表示位置の変化により、車両にかかる G の大きさと方向を表示します。

D 最大 G の軌跡※

G 表示と連動して、現在までにボールが移動した位置の軌跡が表示されます。

OKを押し続けるとリセットされます。

E スリップ輪表示

空転しているタイヤの表示色が変化し、点滅します。

※ 走行モード（→P.268）がスポーツモードのときのみに表示されます。

設定画面について

メーター操作スイッチを操作してご希望の項目を選択することで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

1 メーター操作スイッチの＜または＞を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する

機能の ON ／ OFF やブザー音量などを設定する項目では、OKを押すたびに機能の ON ／ OFF、または調整値が切りかわります。

機能の作動内容を変更できる項目では、OKを押し続けることで、設定画面を表示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

3 設定が完了したら、メーター操作スイッチの↩を押す

■ 時計 :00（→P.93, 98）

時計の設定を変更することができます。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.221）

次の設定を変更することができます。

● センタートレース

車線維持支援機能の作動／非作動を変更することができます。

● 操舵支援

ハンドル操舵支援の作動／非作動を変更することができます。

● 警報感度

車線逸脱警報機能の感度を変更することができます。

● ふらつき検知

ふらつき検知機能の作動／非作動を変更することができます。

● ふらつき検知感度

ふらつき警報機能の感度を変更することができます。

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.214）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

プリクラッシュセーフティの作動／非作動を変更することができます。

● 警報感度

衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.241）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

ブラインドスポットモニターの作動／非作動を変更することができます。

● 明るさ

ドアミラーインジケーター（→P.242）の明るさを変更することができます。

● 警報感度

接近車両の検知を知らせるタイミングを変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ P（クリアランスソナー）★（→P.249）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

クリアランスソナーの作動／非作動を変更することができます。

● 音量

クリアランスソナー作動時のブザー音量を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.241）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

RCTA 機能の作動／非作動を変更することができます。

● 音量

RCTA 機能作動時のブザー音量を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポート ブレーキ）★（→P.254）

パーキングサポートブレーキの作動／非作動を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.229）

次の設定を変更することができます。

● 機能の ON ／ OFF

RSA の作動／非作動を変更することができます。

● 告知手段

最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の各標識を認識したときの警報方法をそれぞれ変更することができます。

● 告知車速

最高速度標識の認識時、標識が示す制限速度に対して警報を実施する超過速度を変更することができます。

■ 車両設定

● PBD（パワーバックドア）★（→P.127）

次の設定を変更することができます。

・機能

パワーバックドアの作動／非作動を変更することができます。

・キックセンサー★

キックセンサーの作動／非作動を変更す

ることができます。

・開位置調節

パワーバックドアが全開したときの停止位置を変更することができます。

・音量

パワーバックドア作動時のブザー音量を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 先行車発進告知（→P.240）

次の設定を変更することができます。

・先行車発進告知

先行車発進告知機能の作動／非作動を変更することができます。

・告知距離

先行車の発進を告知する距離を変更することができます。

■ 表示設定

● 言語

マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を変更することができます。

● 単位

燃費表示の単位を変更することができます。

● メータータイプ（7 インチディスプレイ装着車のみ）

スピードメーターの表示方法を変更することができます。

● EV（EV インジケーター）（→P.75）

EV インジケーターの作動／非作動を変更することができます。

● （走行情報表示画面設定）

次の設定を変更することができます。

・HV システムインジケーター

エコアクセルガイド（→P.102）の作動／非作動を変更することができます。

・燃費グラフ

燃費グラフ（→P.101）に表示する平均燃費の種類を変更することができます。

● （オーディオ設定）★

画面の表示・非表示を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● （車両情報表示画面設定）

・表示コンテンツ

次の設定を変更することができます。

エネルギーモニター：
エネルギーモニター（→P.109）の表示・非表示を変更することができます。

4WD（4WD 車のみ）：
4WD 作動状態表示（→P.104）の表示・非表示を変更することができます。

・ドライブインフォタイプ

ドライブインフォメーション（→P.104）に表示する項目の種類を「始動後」・「リセット間」から選択することができます。

・ドライブインフォ項目選択

ドライブインフォメーション画面の上段・下段に表示する項目を「平均車速」・「走行距離」・「走行時間」から、それぞれ選択することができます。

● 今回の走行

パワースイッチを OFF にしたときに表示される情報を選択することができます。

● 割込表示★

次の割り込み表示の表示・非表示を変更

することができます。

・交差点案内★
・電話★
・オーディオ操作★
・ボリューム操作★
・音声認識★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● MID 消灯

マルチインフォメーションディスプレイを非表示にすることができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■設定画面の操作について

●設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。
・警告メッセージが表示されたとき
・走行し始めたとき

●車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

●設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.374）

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ点灯提案

周囲が暗いとき、車速 5km/h 以上でランプスイッチが消灯または≡DOE≡のまましばらく走行すると、ヘッドランプの点灯を提案するメッセージを表示します。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにランプスイッチが AUTO の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

ランプスイッチが AUTO のとき：このとき「はい」を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ ウインドウロック解除提案

ウインドウロックスイッチ（→P.164）を ON にした状態で運転席ドアのパワーウインドウスイッチで運転席以外のドアガラスを閉めようとすると、ウインドウロックスイッチを OFF にする提案メッセージを表示します。

知識

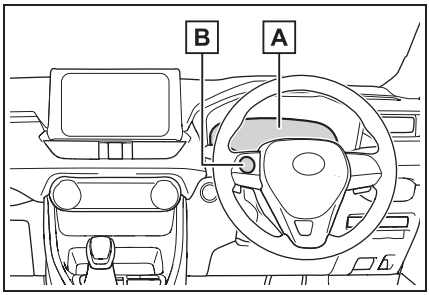
■ カスタマイズ機能

提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.415）

エネルギーモニター

ハイブリッドシステムの状態をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

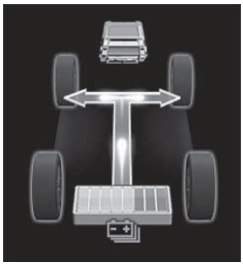
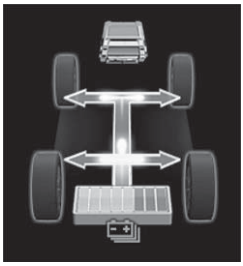
B メーター操作スイッチ

エネルギーモニターの見方

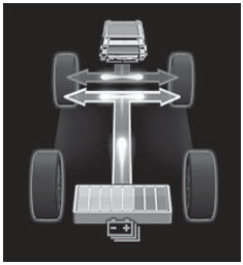
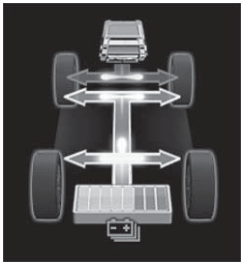
メーター操作スイッチの〈または〉を押して を選択し、∧または∨を押してエネルギーモニターを表示させる

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

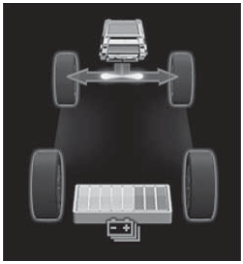
■ 電気のエネルギーで走行しているとき

FF 車／ 4WD 車	4WD 車のみ
	

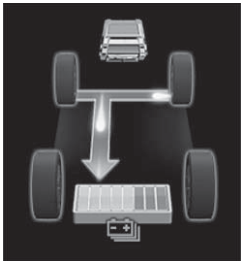
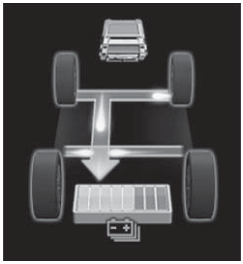
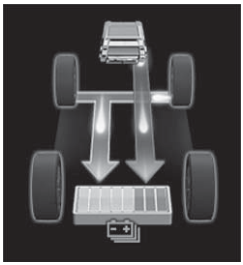
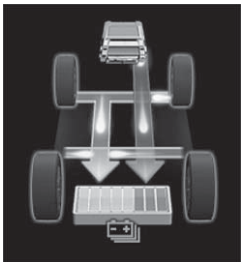
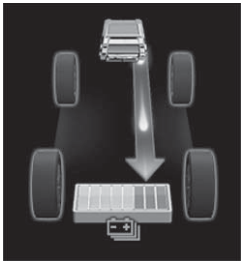
■ ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき

FF 車／ 4WD 車	4WD 車のみ
	

■ ガソリンのエネルギーで走行しているとき

FF 車／ 4WD 車


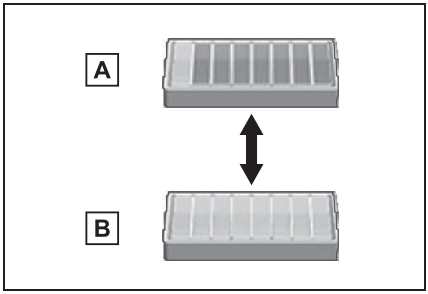
■ 駆動用電池に充電しているとき

FF 車／ 4WD 車	4WD 車のみ
	
	
	

■ エネルギーの流れがないとき

FF 車／ 4WD 車

■ 駆動用電池の残量表示



A 少ない

B 多い

知識

■駆動用電池の残量警告について

- シフトレバーが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。
- マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

運転する前に

3

3-1. キー

キー 116

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア） 119

バックドア 123

スマートエントリー＆スタートシステム 137

3-3. シートの調整

フロントシート 141

リヤシート 142

ポジションメモリー／メモリーコール機能 144

ヘッドレスト 147

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 149

インナーミラー 150

デジタルインナーミラー 151

ドアミラー 159

補助確認装置 160

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ 162

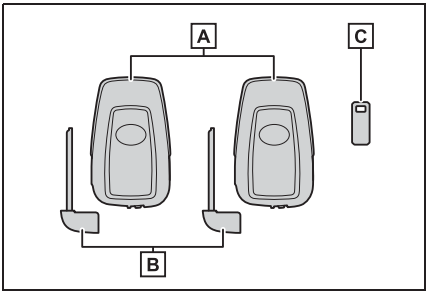
ムーンルーフ 165

パノラマムーンルーフ 167

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.137）
・ワイヤレス機能の作動（→P.117）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。（→P.138）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→P.343）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
（→P.343）

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに「新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください」と表示されたとき

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

■電池の交換方法

→P.343

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

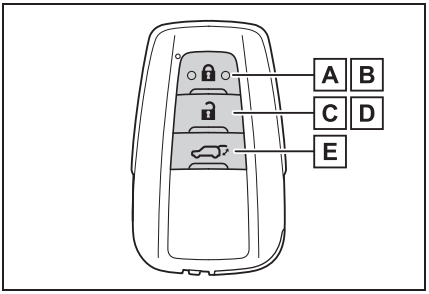
→P.398

■電子キーを紛失したとき

→P.397

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する（→P.119）

B ドアガラスとムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★を閉める※（→P.119）

C 全ドアを解錠する（→P.119）

D ドアガラスとムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★を開く※（→P.119）

E パワーバックドア★を開閉する（→P.127）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

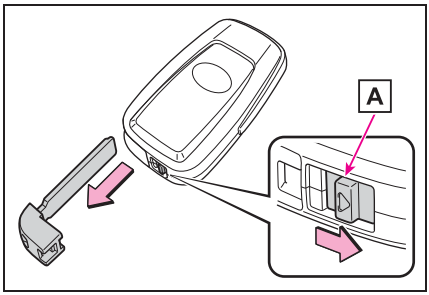
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーA をスライドさせてキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。

（→P.398）



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.397

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

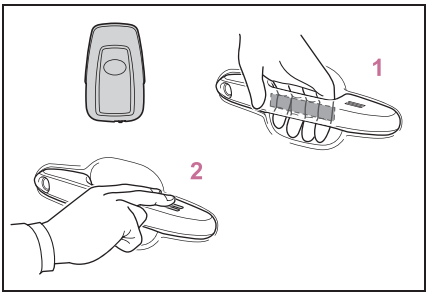
ドア（フロントドア・リヤドア）

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロントドアハンドルを握って解錠する

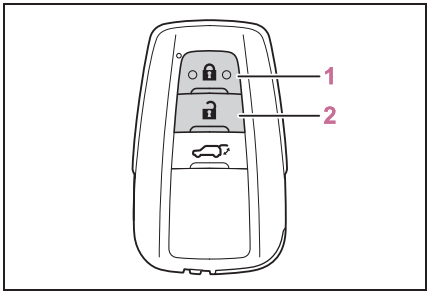
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロントドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★が閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、 または （パワーバックドア装着車のみ）のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **2** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）	運転席側フロントドアのドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席側フロントドアのドアハンドルを握る、またはバックドアオープンスイッチを押すと全ドア解錠
 車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）	フロントドアのドアハンドルを握る、またはバックドアオープンスイッチを押すと全ドア解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

（ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.83）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスとムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★の開閉をブザーで知らせます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■解錠操作のセキュリティ機能

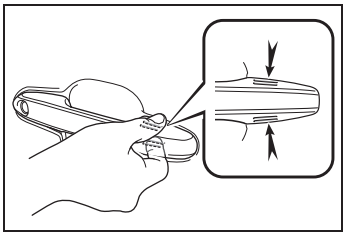
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.84）

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.138

■スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.398)

●電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.343)

■補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.398)

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧:→P.416)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

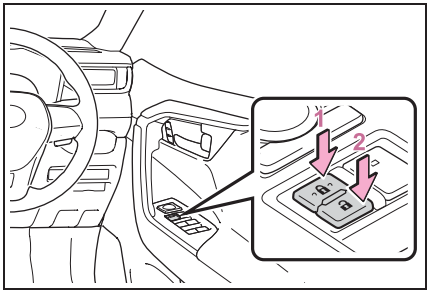
■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★を操作するとき

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアガラスやムーンルーフ・パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフ・パノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

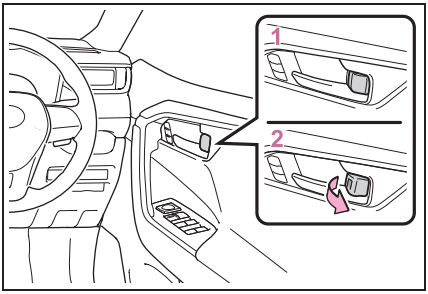
車内から解錠/施錠するには

■ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する
2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする
2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

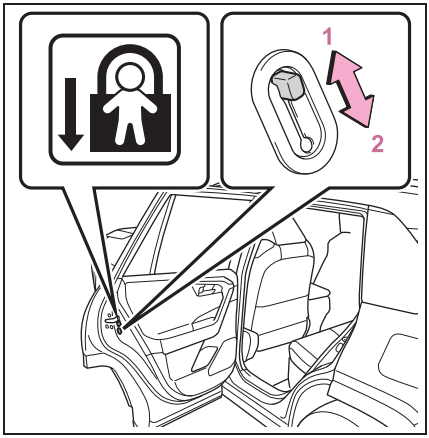
パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠
2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.414 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステム作動中にシフトレバーを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■バックドアハンドルについて

バックドアハンドルにものをかけないでください。
バックドアが突然閉じて、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

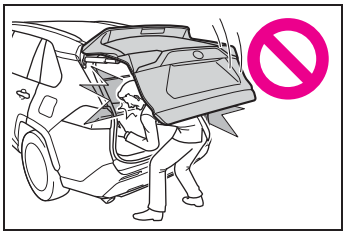
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

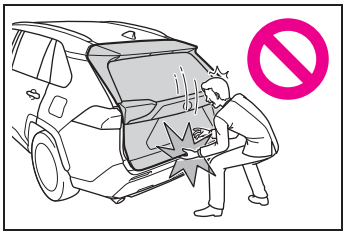
●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



●パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



●パワーバックドア非装着車：バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

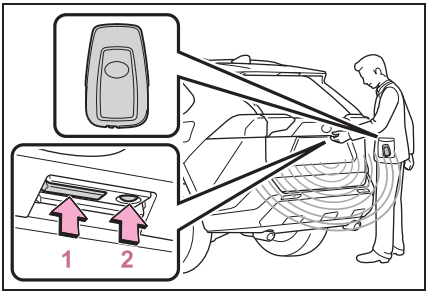
警告

- バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）（→P.127）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）（→P.134）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）またはスピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- パワーバックドア非装着車：バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.119

知識

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

車内から解錠／施錠するには

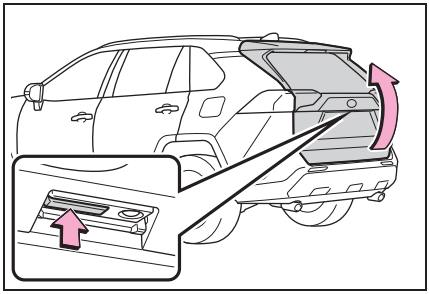
■ ドアロックスイッチを使用する

→P.121

バックドアを開閉するには（パワーバックドア非装着車）

■ 開ける

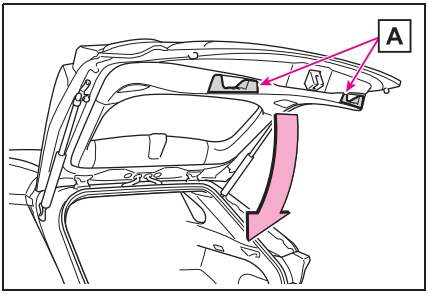
バックドア解錠時に、バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



■ 閉める

バックドアハンドル A を持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

引き下げるときは、バックドアハンドル A を持って、横方向に力をかけないように引き下げます。

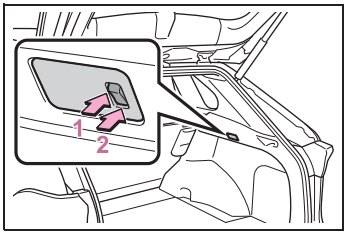


知識

■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。



1 ON

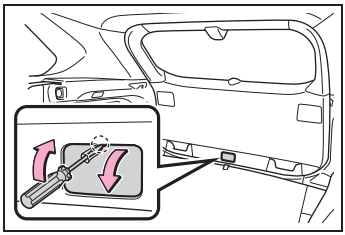
2 OFF

■バックドアが開かないとき

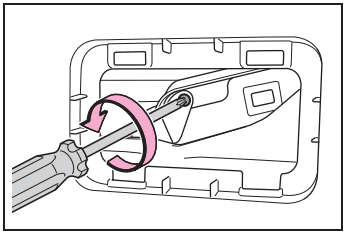
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1 カバーをはずす

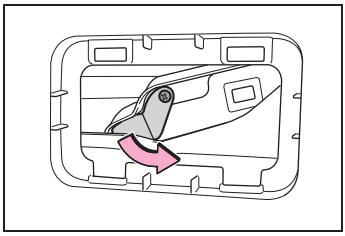
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



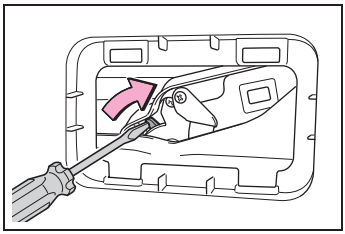
2 ネジをゆるめる



3 カバーをまわす



4 レバーを押す

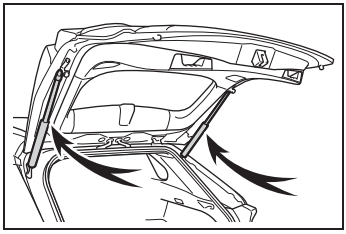


5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

バックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

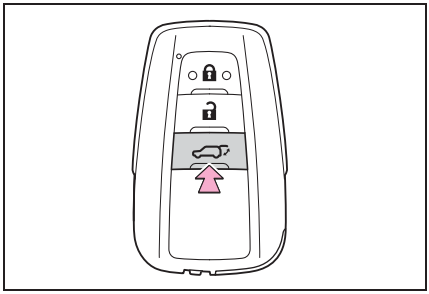
スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。※

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



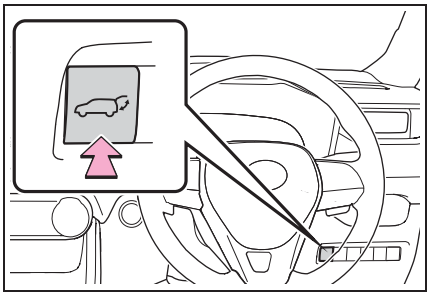
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ バックドアオープンスイッチを使用して開ける

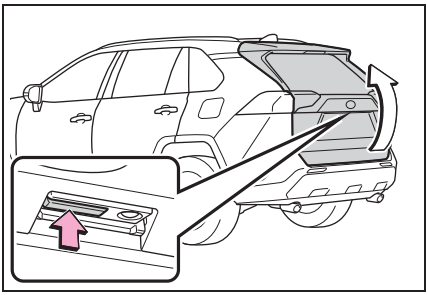
バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押す

と、作動が停止します。

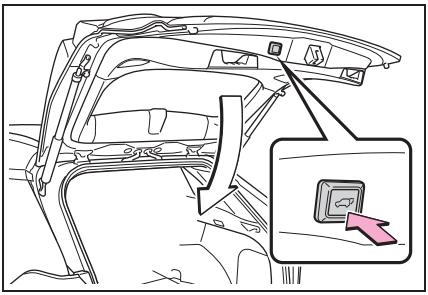


■ バックドアのスイッチを使用して閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

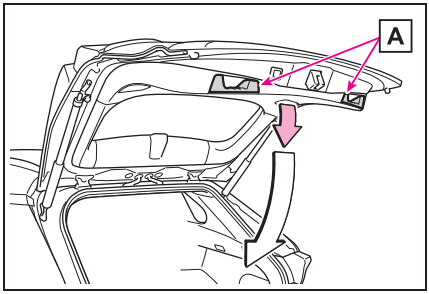
バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



■ バックドアハンドルを使用して閉じる

バックドアハンドル A を持ってバックドアを引き下げる

ブザーが鳴りバックドアクローズアシスト機能（→P.130）が作動し、バックドアが自動で閉まります。

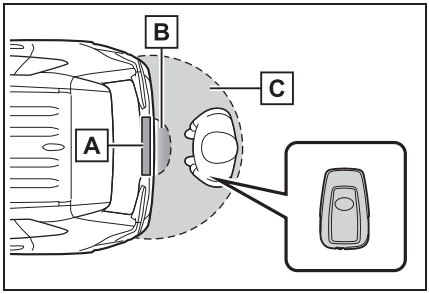


■ キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワーバックドア）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤバンパー中央の下部に足を近付けて離す動作をすることで、バックドアを自動で開閉することができます。キックセンサーを使用して開閉するときは、パワースイッチが OFF、かつキックセンサーの作動が ON で（→P.106）、電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 30 ～ 50cm 離れた位置に立つ



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア

作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア（→P.137）

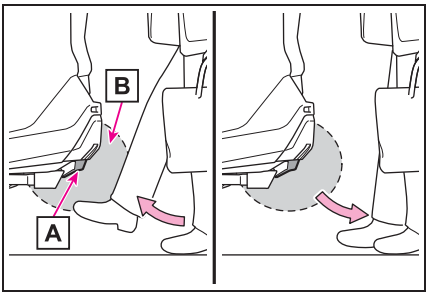
2 足をリヤバンパーから約10cmの距離になるまで近付けて引く

足を近付けて引く動作を1秒以内に行ってください。

足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。

リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。

車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアの開閉作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

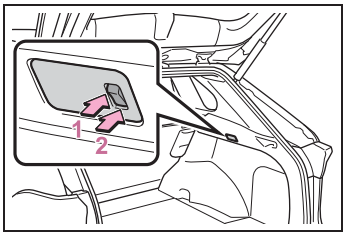
作動が停止した状態から再度操作をすると、バックドアは反転作動します。

知識

■ラゲージルームランプ

スイッチをONにしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

パワースイッチがOFFの場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。



1 ON

2 OFF

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●パワーバックドアの作動がONのとき（→P.106）

●バックドアが解錠されているとき

ただし電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押し続けたときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。（→P.127）

●パワースイッチがONのとき開作動するには、上記に加え、車速が約3km/h未満で次のいずれかの条件を満たす必要があります。

・パーキングブレーキがかかっている
・ブレーキペダルを踏んでいる
・シフトレバーが P の位置にある

■パワーバックドアの作動について

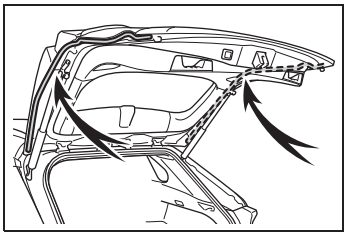
●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■落下防止機構

バックドアが自動で開くときに無理な力がかかると、バックドアが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■バックドアクローズアシスト機能

バックドアが開いているときに手動でバックドアを下げると、バックドアクローズアシスト機能が作動し、自動で全閉します。

■予約ロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる
2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれてスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.119）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.119）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドア★の作動条件

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次の作動条件を満たしているときに自動で開閉できます。

●キックセンサーの作動が ON のとき（→P.106）

●パワースイッチが OFF のとき

●電子キーが作動範囲内にあるとき（→P.137）

●足をリヤバンパー中央の下部に近付けて離す動作をしたとき（手やひじ、ひざなどでも作動します）

■**ハンズフリーパワーバックドア★が正常に作動しない状況**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき
リヤバンパーに一定時間ふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.138）

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にしてください。

■**ハンズフリーパワーバックドア★の誤作動を防ぐために**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐために、電子キーが作動範囲内に入らないようにするか、キックセンサーの作動を OFF にしてください。（→P.106）

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーに足や体をふれながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき

●けん引されるとき

■補機バッテリーを再接続したとき

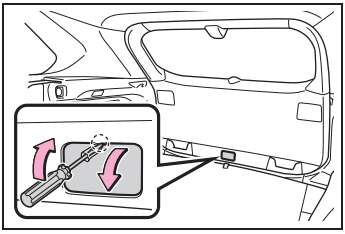
パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■バックドアが開かないとき

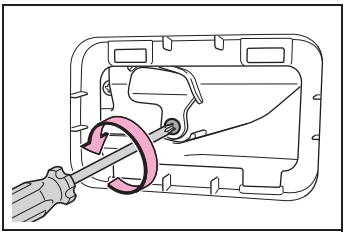
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1 カバーをはずす

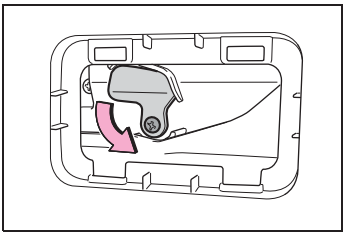
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



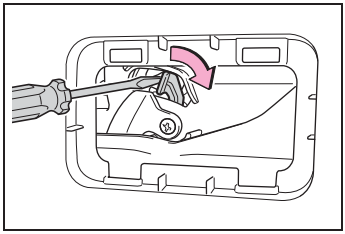
2 ネジをゆるめる



3 カバーをまわす



4 レバーを押す



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

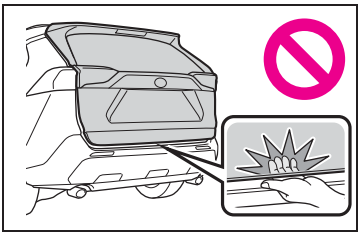
■カスタマイズ機能

パワーバックドアの全開時の開度などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.417）

警告

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

警告

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動条件（→P.129）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

警告

■ハンズフリーパワーバックドア★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンズフリーパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

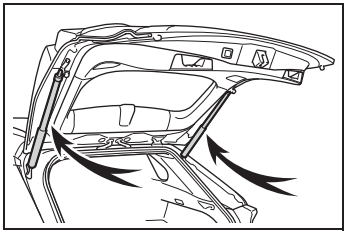
●リヤバンパー下の中央付近に足を出し入れする際は、排気管にふれないように注意してください。熱くなっている排気管にふれると、やけどをするおそれがあります。

●リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因になります。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.130）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

注意

■ハンズフリーパワーバックドア★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●リヤバンパーに草木など動くものを近付けない
リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

・キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・リヤバンパーに傷や破損がある

●リヤバンパーを分解しない

●リヤバンパーにステッカーを貼らない

●リヤバンパーを塗装しない

●パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にする

パワーバックドアの設定を変更するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から、「車両設定」-「PBD」画面を表示することで、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.105）

パワーバックドアの設定を変更した場合、パワースイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面での設定操作が必要です。

バックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを自動で開けた

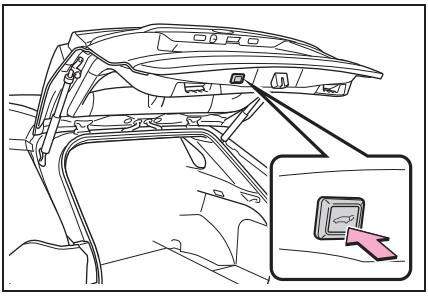
ときに、開く位置を調整できます。

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.127）

2 バックドア下部のスイッチを約2秒間押し続ける

設定が完了するとブザーが4回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

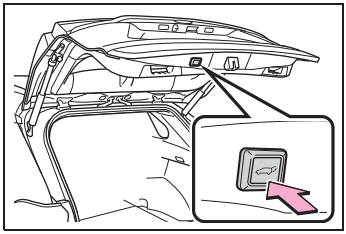


知識

■ **バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには**

バックドア下部のスイッチを約7秒間押し続けてください。

ブザーが4回鳴ったあと、さらに2回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■ **カスタマイズ機能**

マルチインフォメーションディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。（→P.105）

バックドア下部のスイッチまたはマルチインフォメーションディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

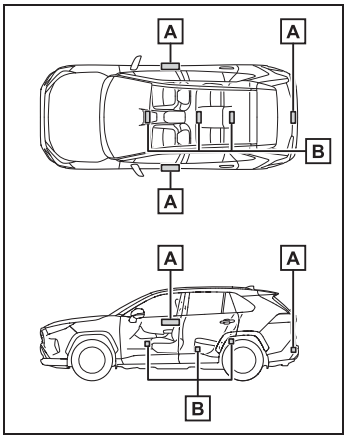
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.119）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.125）
- ハイブリッドシステムを始動する（→P.182）

知識

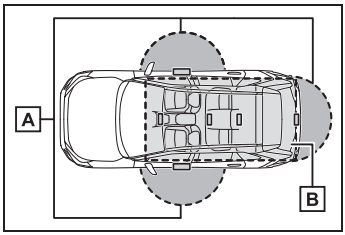
■アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が“ピー”と 5 秒鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約2m以内に電子キーを10分以上放置した
・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

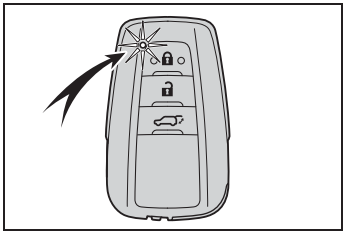
■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、

🔓 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.398）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CDやDVDなどのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン

・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

●コインパーキングに駐車しているとき（車両検出用の電波が影響をおよぼす可能性があるため）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.138）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.417)

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.138)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■電子キーが正常に働かないとき

●ドアの施錠・解錠(→P.398)

●ハイブリッドシステムの始動(→P.399)

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧:→P.416)

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

●ドアの施錠・解錠:ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.119, 398)

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ:→P.399

●ハイブリッドシステムの停止:P.184

⚠警告

■電波がおよぼす影響について(スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.137)から約22cm以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

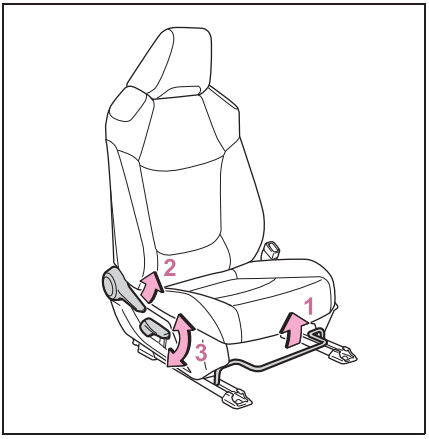
フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。**（→P.25）**

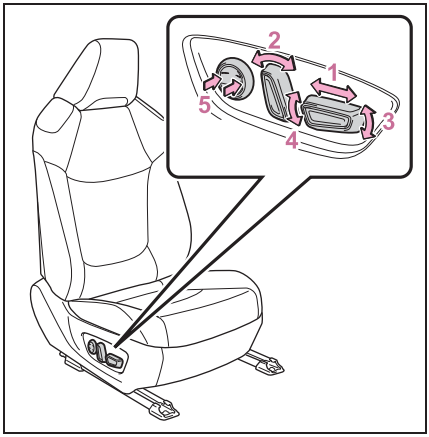
調整するには

▶ マニュアルシート装着車



1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

▶ 運転席パワーシート装着車



1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 クッション前端の上下調整
4 シート全体の上下調整
5 腰部位置調整

知識

■シートを調整するとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

警告

■リクライニング調整について

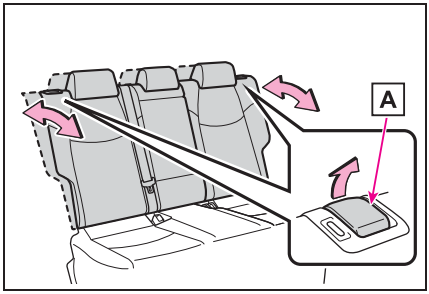
背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシート

レバーの操作で、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

調整するには

リクライニング調整レバーA を引いて、背もたれを調整します。



警告

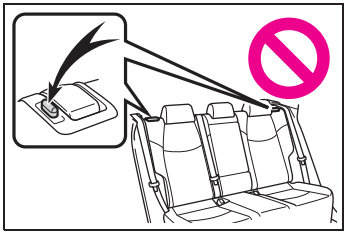
■背もたれを操作するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートのあいだや動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。

警告

●シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。
背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



背もたれを倒すには

■ 背もたれを倒す前に

1 車を安全な場所に駐車する

パーキングブレーキをかけ（→P.192）、シフトレバーを P にします。（→P.189）

2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する（→P.141）

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

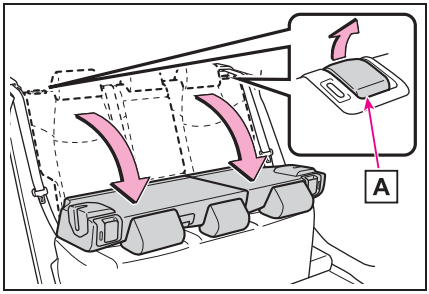
3 リヤシートのヘッドレストを下げる（→P.147）

4 リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する（→P.308）

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

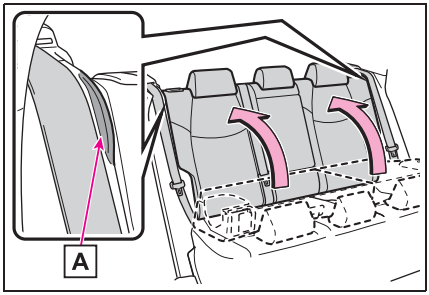
■ 背もたれを倒す

リクライニング調整レバー A を引きながら、背もたれを倒す



■ 背もたれをもとにもどす

シートベルトをシートベルトガイド A にかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは

●走行中に前倒しをしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする

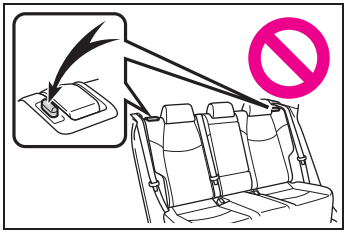
●倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない

警告

- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

■**背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

自動でシートを動かし、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、2パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

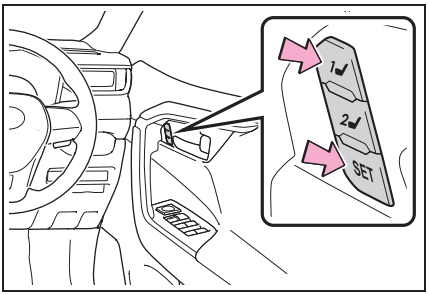
ドライビングポジションを登録する／呼び出すには

■ **登録方法**

1. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2. パワースイッチを ON にする
3. 運転席をお好みの位置に調整する
4. SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1、2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合

は、上書きされます。

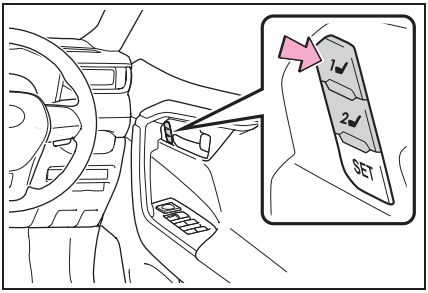


■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON にする

3 1、2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1、2 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する

■登録できるシート位置（→P.141）

腰部位置調整以外の位置が登録できます。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■ポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

電子キーにドライビングポジションを登録／呼び出し／解除するには（メモリーコール機能）

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1、2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

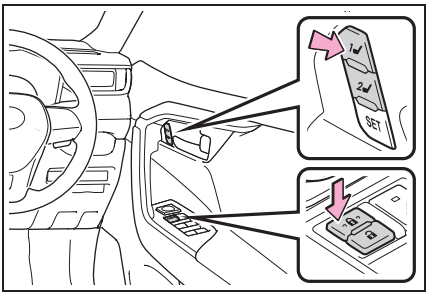
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON にする

3 登録させたいドライビングポジション（1、2）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートが登録されたポジションへ動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートは動きません。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2 パワースイッチを ON にする
3 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.418）

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

警告

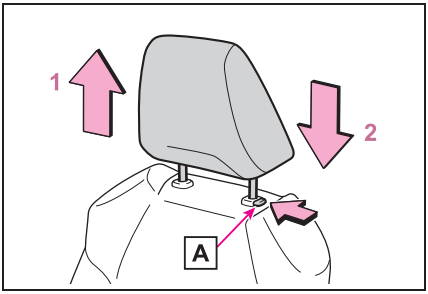
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

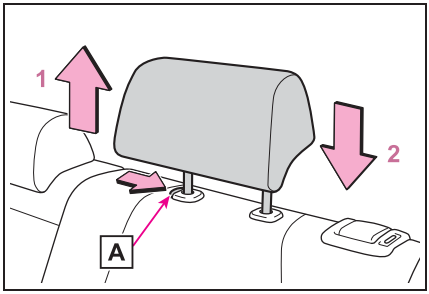
■ フロント席



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

■ リヤ席



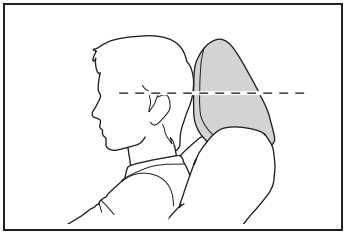
1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



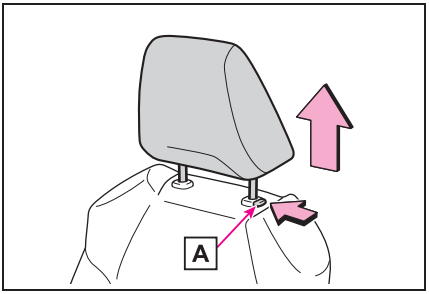
■リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げる

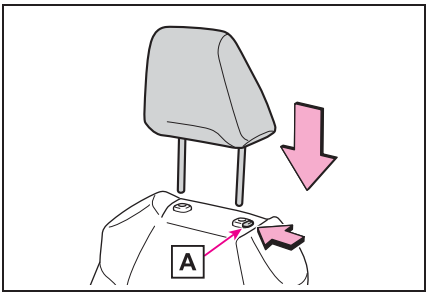
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→P.141）



ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる

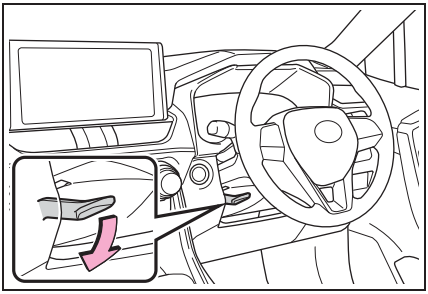
さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。



ハンドル

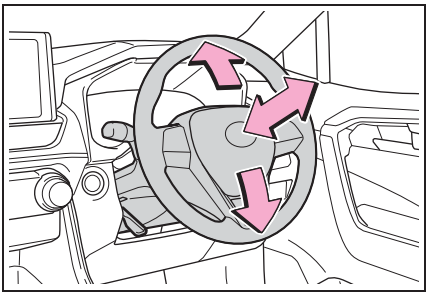
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■走行中の留意事項

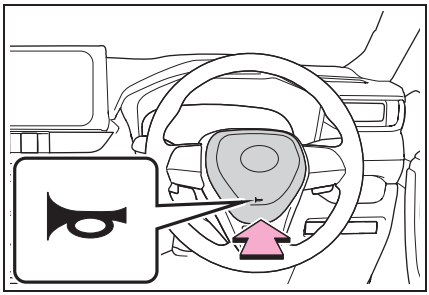
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



インナーミラー★

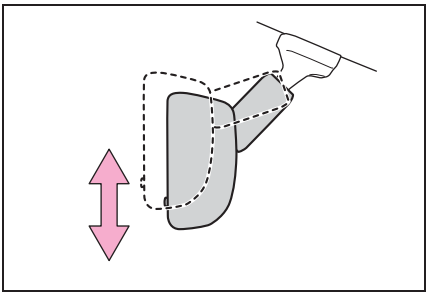
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

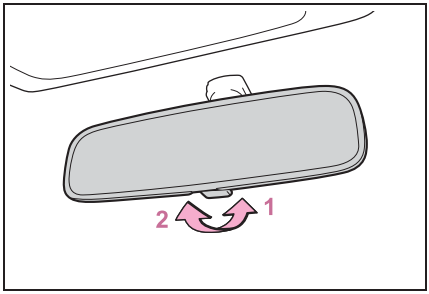
■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能を使うには

▶ 手動防眩タイプ装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



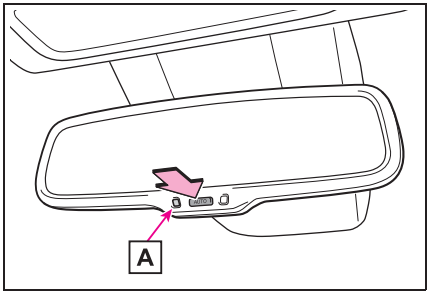
1 通常使用時
2 防眩時

▶ 自動防眩タイプ装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター A が点灯します。
パワースイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーター A が消灯します。

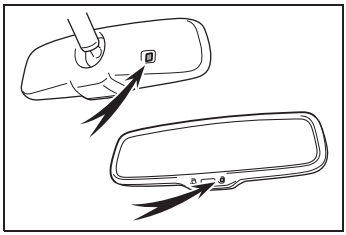


知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないで

ください。



デジタルインナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができるため、優れた後方視認性を確保できます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

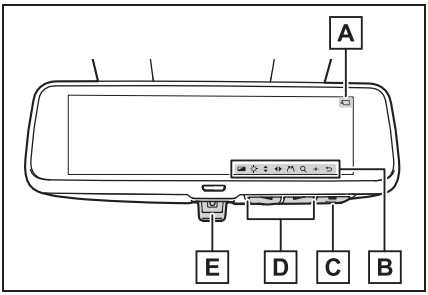
●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→P.153）

・鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

各部の名称



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン（→P.153）などが表示されます。

C メニュー／決定スイッチ

調整アイコンの表示や、項目の決定を行います。

D 選択スイッチ

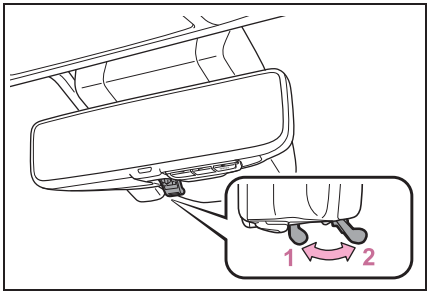
調整アイコンの選択や、ディスプレイ表示の調整を行います。

E 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

- ミラーの反射やカメラの汚れなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。
- バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェード（ムーンルーフ装着車）・電動サンシェード（パノラマムーンルーフ装着車）を閉めてください。
- 夜間など暗いところでは、次のような

現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

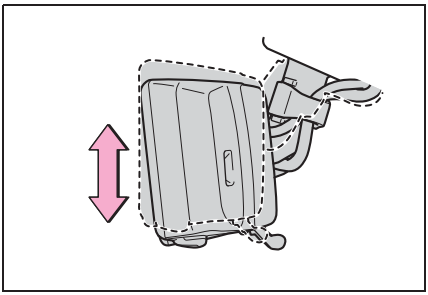
●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

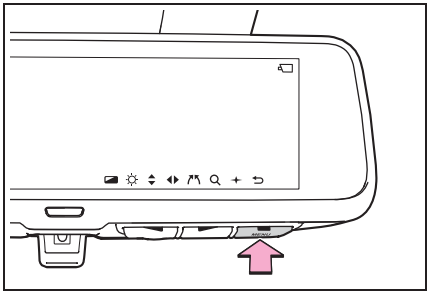


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON ／ OFF ができます。

1 メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 選択スイッチの▬または▬を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

3 選択スイッチの▬または▬を押して設定を変更し、メニュー／決定スイッチを押す

◪ と ✦ の ON ／ OFF を選択するときは、選択スイッチの▬または▬を押して ▌（ON）または ○（OFF）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押します。

4 選択スイッチの▬または▬を押して ⮌ にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
	PLS モードの ON ／ OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑え、ディスプレイが見えにくくなることを防止します。（デジタルミラーモードで使用時） PLS モードが ON のときはディスプレイ左上に が表示されます。

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

■ 自動防眩機能の ON ／ OFF 切りかえ（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON ／ OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

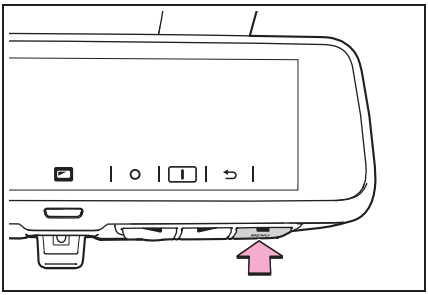
▶ デジタルミラーモード使用時

→P.153

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュー／決定スイッチを押す

設定画面が表示されます。



2 選択スイッチの▭または▭を押して❙（ON）または○（OFF）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

設定画面の表示が消えます。

知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

●約 10 秒以上スイッチを操作しなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。

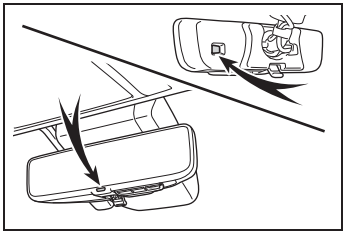
●ディスプレイ表示の調整を行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

●ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。

●ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布

などで汚れをそっとふき取ってください。

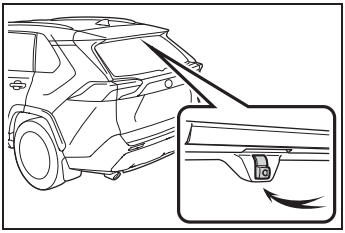
■ カメラのお手入れについて

カメラに汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズをふき取ってください。

知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラー本体の取りはずし・分解・改造はしないでください。

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

・カメラレンズをふくときは水で湿らせたやわらかい布を使用してください。
カメラレンズを強くこするとレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

・リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。
カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （ムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★からの光があたっているときは、サンシェード・電動サンシェードを閉めてください）
	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ・排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	リヤウインドウガラスが曇っている	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 リヤウインドウデフォッガー（→P.285）を使用し、曇りが取れてから再びデジタルミラーモードでご使用ください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	水で湿らせたやわらかい布で清掃してください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		
ディスプレイ上に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P.285）

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

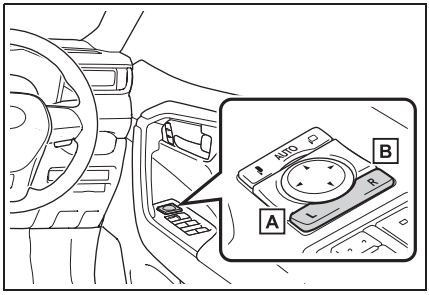
- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

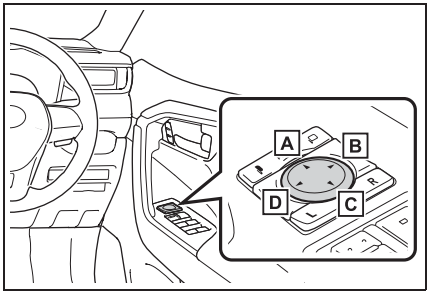
1 調整するミラーを選ぶ



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

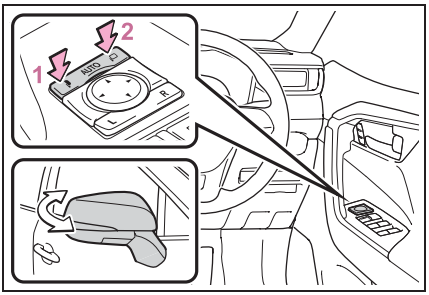
D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

ドアミラーを格納するには



1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■寒冷時にオート作動で使用するとき

寒冷時にオート作動で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート作動の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.418）

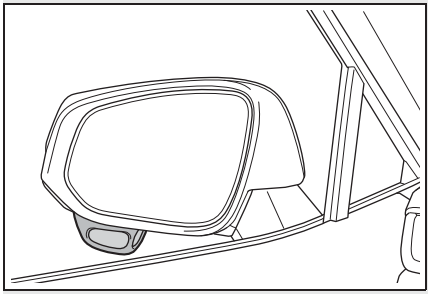
警告

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

補助確認装置

発進時またはごく低速時に、左側車両側面を確認するときに役立ちます。

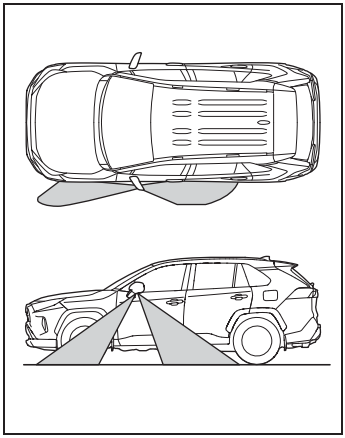


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



注意

■補助確認装置について

●補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。

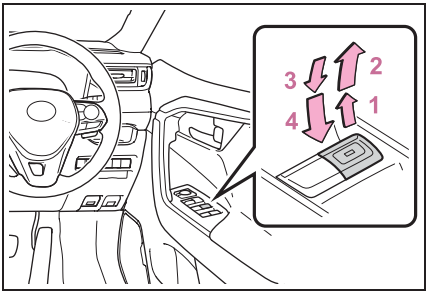
●車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー★・デジタルインナーミラー★・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



1 閉める
2 自動全閉 ※
3 開ける
4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする
2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切ら

ない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **ドアロック連動ドアガラス開閉機能**

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.398）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.119）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.83）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

■ **窓開警告機能**

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ **カスタマイズ機能**

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.419）

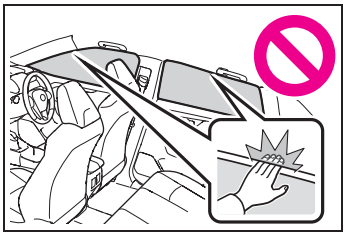
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ドアガラスを開閉するとき**

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.164）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

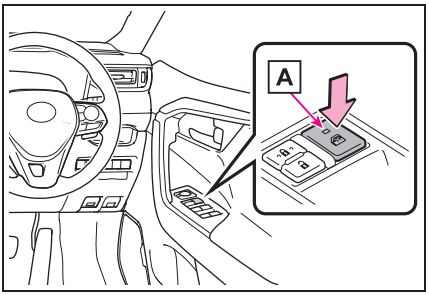
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

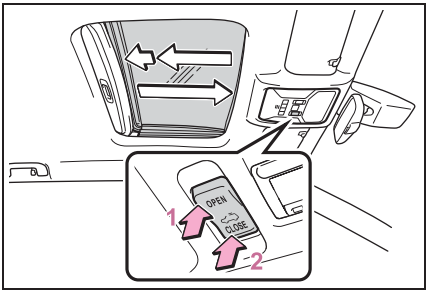
ムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

ムーンルーフを操作するには

■ 開閉するには



1 ムーンルーフを開く ※

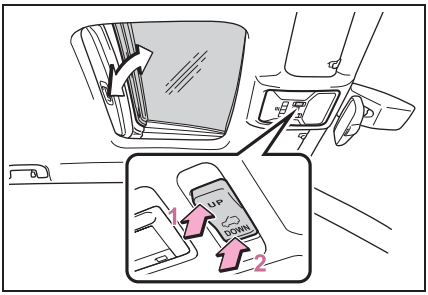
全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウンするには



1 チルトアップ ※

2 チルトダウン ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→P.398）
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→P.119）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.83）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける ※

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフが正常に働かないとき

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に働かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “DOWN” 側を押し続ける ※

ムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。その後開いて閉じ、チルトアップしたあとチルトダウンして全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に働かない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告機能

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.419）

⚠警告

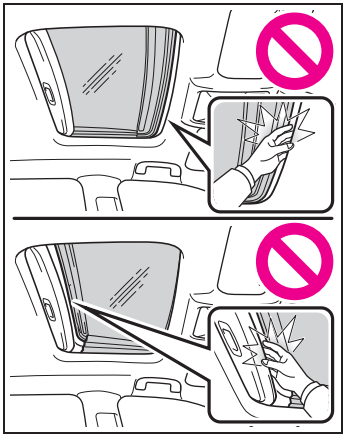
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



警告

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
  またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

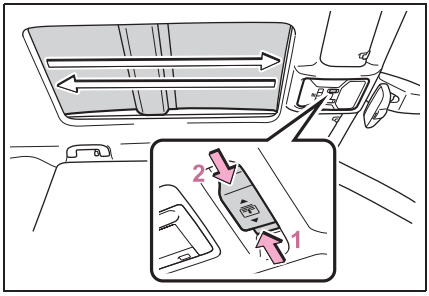
パノラマムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでパノラマムーンルーフと電動サンシェードの操作ができます。

電動サンシェード・パノラマムーンルーフを操作するには

■ 電動サンシェードを開閉するには



1 開ける ※

を▲側に押し続けると、自動で全開します。

2 閉める ※

を▼側に押し続けると、自動で全閉します。

パノラマムーンルーフが完全に閉まっていないときは、電動サンシェードが閉まる前にパノラマムーンルーフが閉まります。

※ 途中で停止するときは、 をもう一度押します。

■ パノラマムーンルーフをチルトアップ／ダウンするには

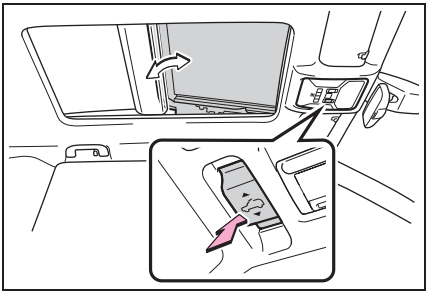
チルトアップするには、スイッチを短く押す ※

パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードがルーフの半分の位置まで開きます。

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

チルトダウンするには、スイッチを押し続ける

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。



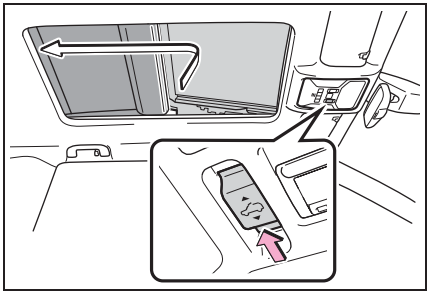
■ パノラマムーンルーフを開閉するには

開ける ※

スイッチを▲側に押すと、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが開きます。

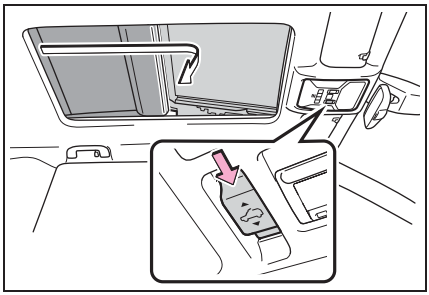
チルトアップした状態からでも開くことができます。

※ 途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。



閉める

スイッチを▼側に押すと、パノラマムーンルーフが全閉します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフ・電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

- パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするとき
- 電動サンシェードを閉めるとき

■パノラマムーンルーフと電動サンシェードの両方を閉じるには

スイッチを▼側に押す

電動サンシェードがルーフの半分の位置まで閉まったあと、いったん停止し、パノラマムーンルーフが閉じます。その後、電動サンシェードが全閉します。

■ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでパノラマムーンルーフを開閉できます。※（→P.398）

●ワイヤレスリモコンでパノラマムーンルーフを開閉できます。※（→P.119）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能でパノラマムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.83）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■パノラマムーンルーフまたは電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 パワースイッチを ON にする

3 スイッチまたは スイッチを▼側に押し続け、反転後も約 10 秒間スイッチを押し続けると閉じ切り作動を開始します。※

4 パノラマムーンルーフと電動サンシェードが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パノラマムーンルーフ開警告機能

パワースイッチが OFF でパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

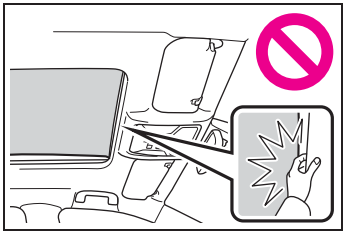
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.419）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するとき

●電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■パノラマムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

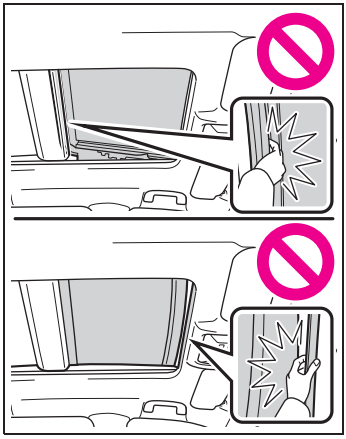
●開口部に腰かけない

警告

■パノラマムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってパノラマムーンルーフを操作するときは、パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフ・電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードのすき間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

注意

■パノラマムーンルーフの損傷を防ぐために

●開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。

●パノラマムーンルーフの表面・端面には、硬いものをぶつけないでください。

注意

■洗車後や雨が降ったあとなどは

パノラマムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 174

荷物を積むときの注意..... 180

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 182

EV ドライブモード 186

トランスミッション..... 188

方向指示レバー 191

電動パーキングブレーキ..... 192

ブレーキホールド 195

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 198

オートマチックハイビーム..... 200

フォグランプスイッチ..... 202

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 204

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 206

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 208

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense 210

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 214

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 221

RSA（ロードサインアシスト）229

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 232

先行車発進告知機能..... 240

BSM（ブラインドスポットモニター）..... 241

クリアランスソナー 249

PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....254

パーキングサポートブレーキ（静止物）.....258

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....264

ドライブモードセレクトスイッチ 268

トレイルモード （4WD 車）....270

運転を補助する装置 271

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 277

寒冷時の運転.....279

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.182

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.188）

2 パーキングブレーキを解除する（→P.192）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.192）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→P.192）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→P.188）

■ 駐車する

1 車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→P.192）、シフトレバーを P にする（→P.188）

3 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P.188）

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→P.192）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏んで発進する

パーキングブレーキ自動解除機能（→P.193）

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P.272）

■燃費をよくする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→P.277）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてく

ださい。

■エコアクセルガイド（→P.102）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ減速の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.371）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D※、P から R※）とき（D は S ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→P.272）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

●4WD 車：トレイルモードを ON にしているときは、ドライブスタートコントロールは作動しません。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

→P.91

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●枯れ葉や紙くず、布きれなどの可燃物の上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.360 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P.188)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラー★・デジタルインナーミラー★の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●4WD 車：オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

警告

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N に入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやフロントドアガラス・リヤドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずシフトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけて、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

警告

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

タイヤがパンクした場合の対処法はP.377, 388 を参照してください。

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

警告

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こし思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ルーフレールを使用するときは

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2 つ以上のトヨタ純正キャリアを装着してください。トヨタ純正品以外を装着される場合は、トヨタ純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長・全幅）をこえる荷物を積まないでください。

●走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。

●ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行・急加速・急旋回・急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、ときおり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。

●80kg 以上の荷物を積まないでください。

注意

■荷物を積むとき

ムーンルーフ★やパノラマルーフ★に荷物がふれないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.192）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

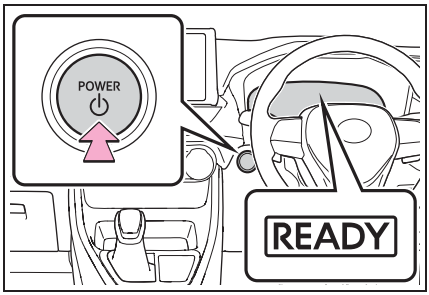
4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、ガソリンエンジンは自動で始動・停止します）

知識

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.82）トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■外気温が低いとき

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.75

■補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー＆スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.400 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.116

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.138

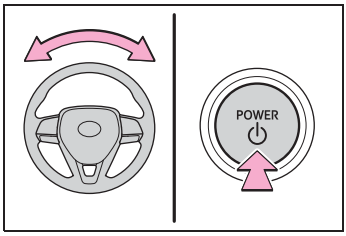
■ご留意いただきたいこと

→P.139

■ステアリングロック機能

●パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



●短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 ～ 10 秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき

マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは、システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→P.80

■電子キーの電池交換

→P.343

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.399 を参照してください。

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

1 車両を完全に停止させる
2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.192）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 シフトレバーを P の位置にする（→P.189）
4 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。

5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」や「イグニッション ON」の表示が消灯していることを確認する

警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

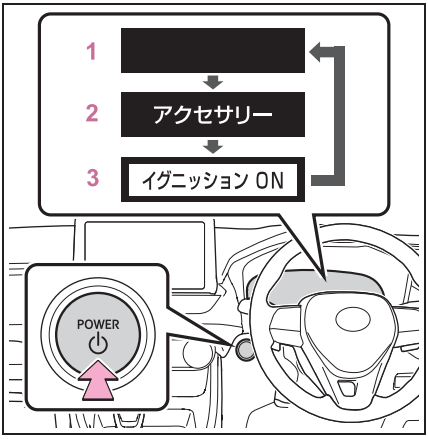
●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.360）
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、パワースイッチを短く確実に押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときは ACC になり、OFF になりません。

知識

■ **自動電源 OFF 機能**

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上 ACC か 1 時間以上 ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないでください。

注意

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーを P の位置にする
3. マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されていることを確認し、

パワースイッチを短く確実に押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していることを確認する

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチが ACC になるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

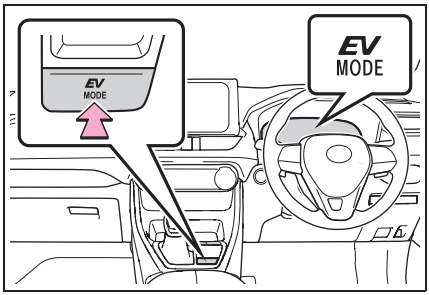
EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す

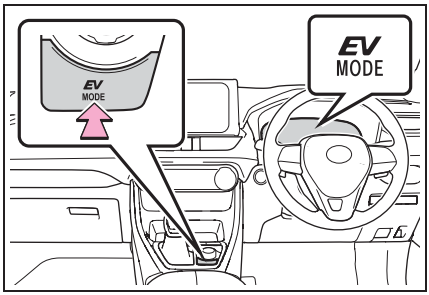
EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

▶ FF 車



▶ 4WD 車



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.109）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

EV ドライブモードに切りかわらないときは、EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.109）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

EV ドライブモードが解除されたときは、しばらく走行してから使用してください。

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

警告

■走行中は

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2 (→P.190)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

※2 S モードではシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。

●Sモードで走行中にS5またはS4レンジにシフトダウンしたとき（→P.190）

●Dポジションで走行中に走行モードをス

ポーツモードにしたとき（→P.268）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.175

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

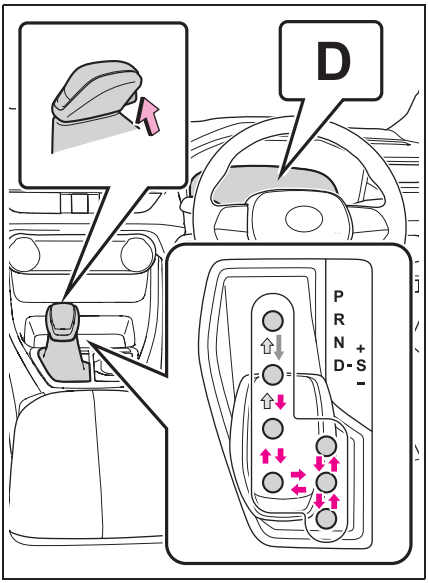
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーがNでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、Nで長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



パワースイッチがONの状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

PとDのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

パワースイッチがONでブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

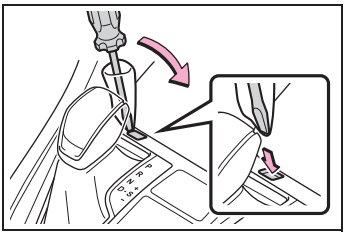
シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.192）

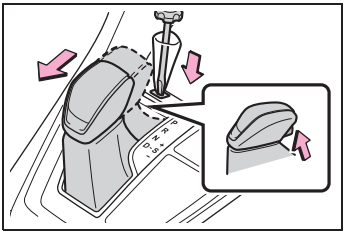
2 パワースイッチを OFF にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

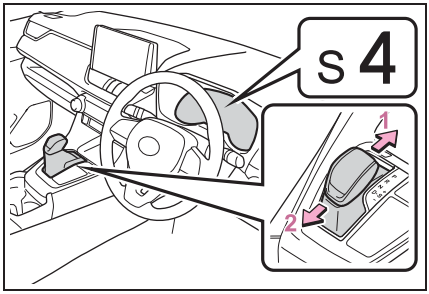
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.268

S モードでのシフトレンジ選択

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりのシフトレンジを選択し、運転することができます。シフトレバーの “－” 側または “＋” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

S1 から S6 のあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、車速に応じて S3 または S5 に設定されます。

知識

■S モードについて

●加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。

●シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

●S1 から S4 レンジのとき、エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

●S4 レンジ以下のとき、シフトレバーを“＋”側へ保持すると S6 レンジに設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

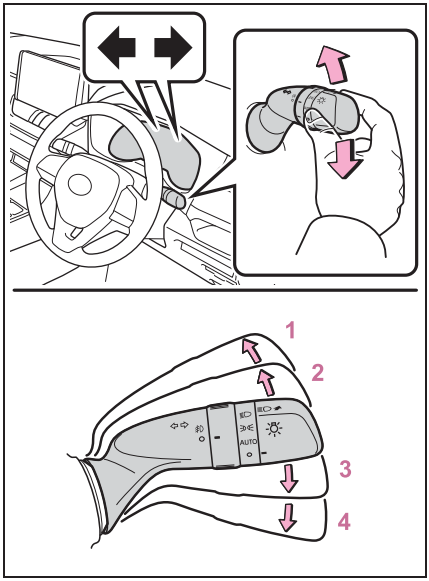
■シフトレバーを S にしても、シフトポジション表示に S が表示されないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

各方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

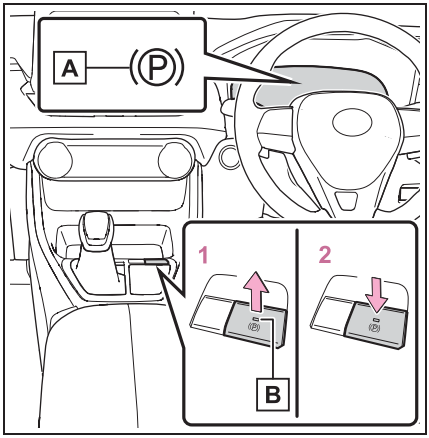
電動パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。
また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

B パーキングブレーキランプ

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引

き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

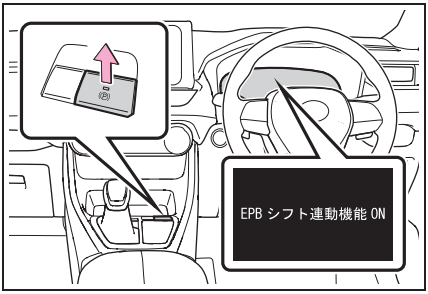
・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
・パーキングブレーキ自動解除機能（→P.193）

解除後、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→P.372）

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける



オートモードを ON にすると、シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。

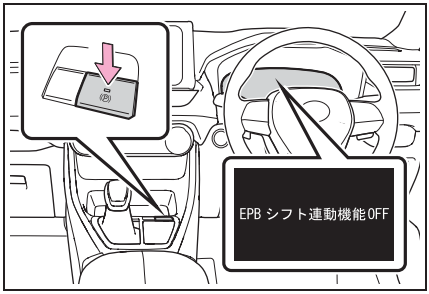
● P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。

● P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中にブレーキペダルを踏みながら、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける



知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっている

●運転席シートベルトを着用している

●シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください」と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「EPB 現在使用できません」と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。
ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.174

■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「EPB がロックされています」が表示されます。
（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P.367

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.280

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

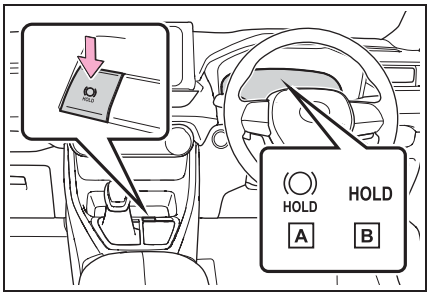
ブレーキホールド

シフトレバーがD・SまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはSのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯A（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯B（黄）が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、シス

テムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.192）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障 ブレーキを踏み解除ください 販売店で点検」または「BrakeHold 故障 販売店で点検してください」と表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→ P.372

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

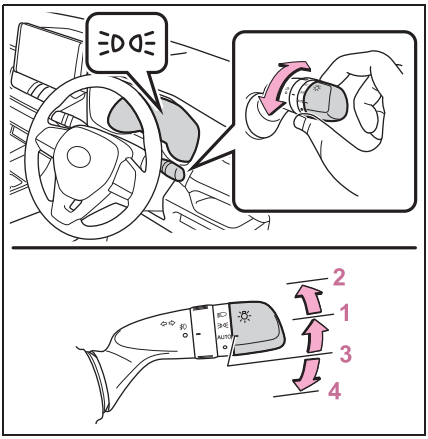
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

点灯させるには

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



1 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

2 上記ランプとヘッドランプを点灯

3 AUTOヘッドランプ・LED デイライト（→P.198）・車幅灯などを自動点灯・消灯

4 消灯

知識

■AUTO モードの作動条件

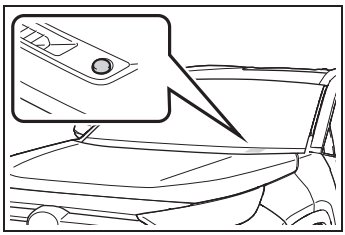
パワースイッチが ON のとき

■LED デイライト機能

日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを O またはAUTOにもどし、再度または の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で、パワースイッチを ACC または OFF にしてから運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

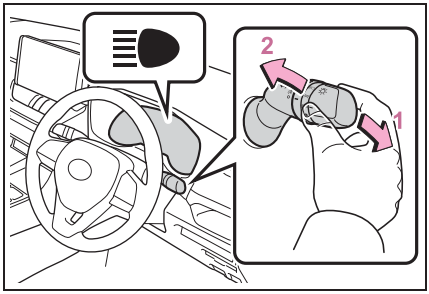
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.419）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

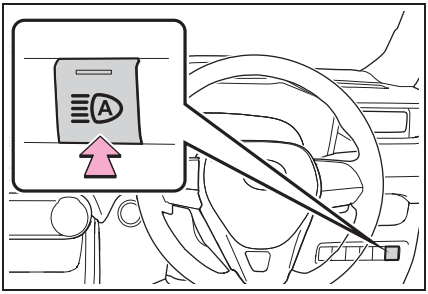
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

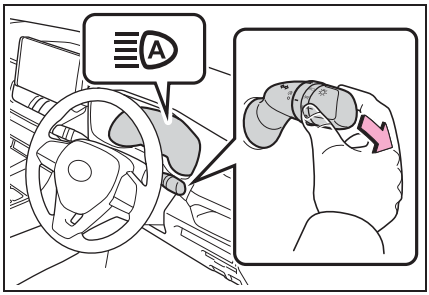
オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは にし、レバーを前方へ押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

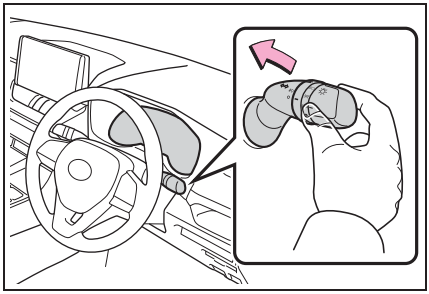
手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

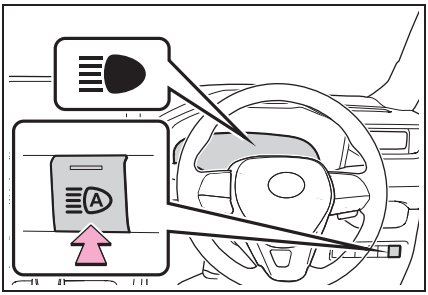


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



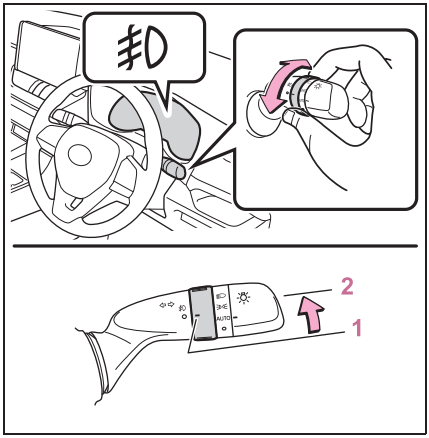
フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた

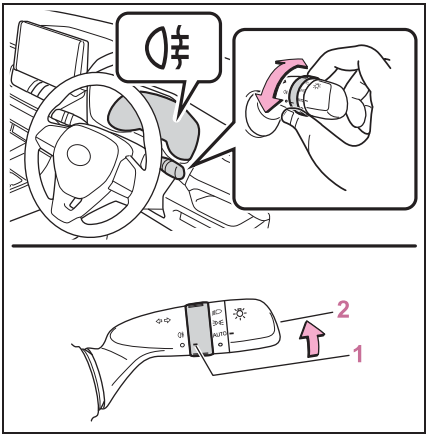
▶ フロントフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

▶ リヤフォグランプ装着車



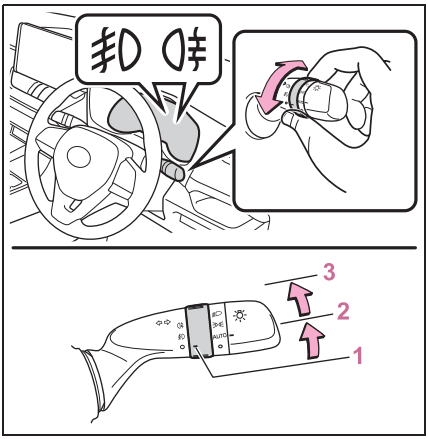
1 ○ 消灯する

2 リヤフォグランプを点灯する

手を離すと ○ の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。

▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

3 フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■**点灯条件**

▶ フロントフォグランプ装着車

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶ リヤフォグランプ装着車

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■**リヤフォグランプ★について**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

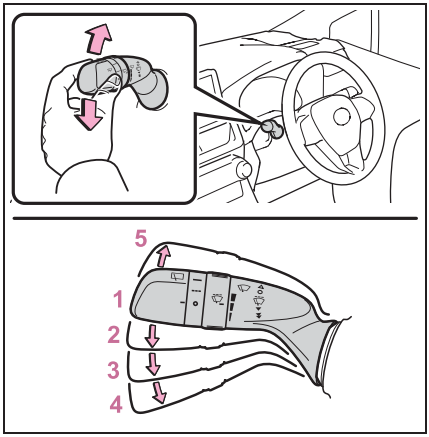
注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 ○ 停止

2 間欠作動（INT）

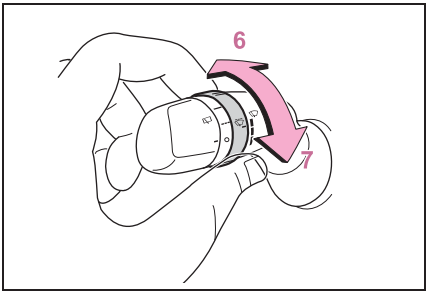
3 ▼ 低速作動（LO）

4 ▼▼ 高速作動（HI）

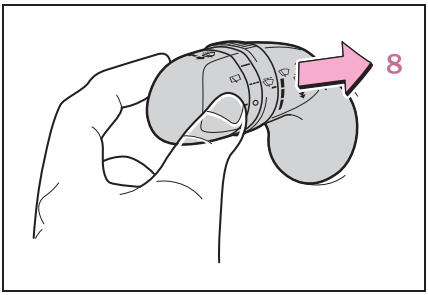
5 △ 一時作動（MIST）

間欠作動を選択しているとき、間

欠時間を調整することができます。



6 間欠ワイパーの作動頻度（増）
7 間欠ワイパーの作動頻度（減）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■**作動条件**

パワースイッチが ON のとき

■**ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

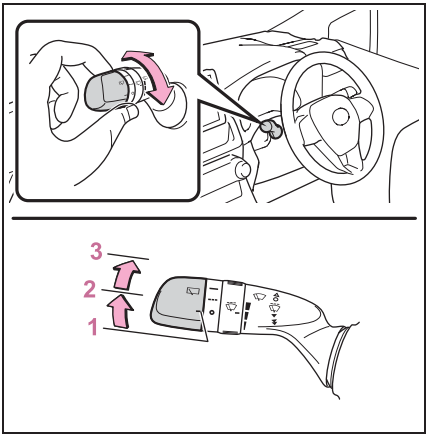
⚠注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

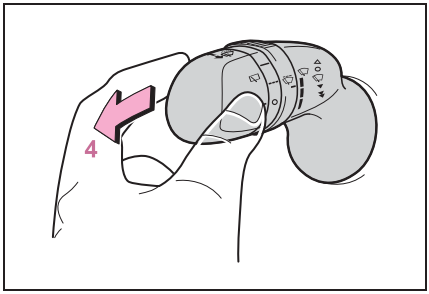
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 ○ 停止

2 ---間欠作動

3 ━━ 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■リバース連動機能

フロントワイパーが ・▼・▼▼ で作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトレバーを R の位置にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

■カスタマイズ機能

リバース連動機能などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.420）

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

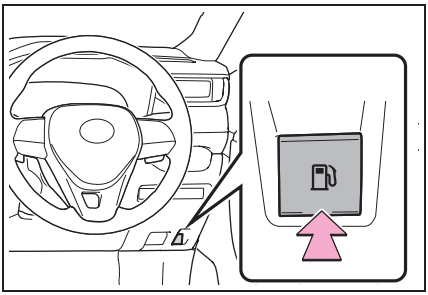
注意

●塗装が損傷する

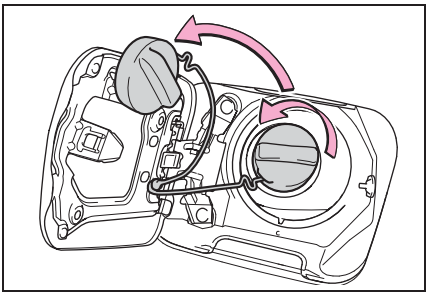
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

給油口を開けるには

1 給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開ける



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

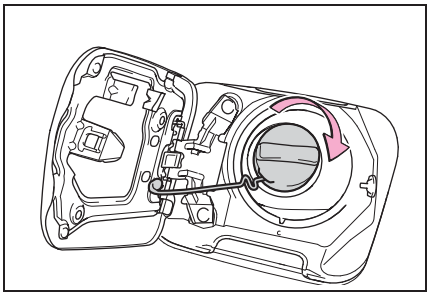
■給油扉が開かないとき

→P.397

給油口を閉めるには

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ **PCS（プリクラッシュセーフティ）**

→P.214

■ **LTA（レーントレーシングアシスト）**

→P.221

■ **オートマチックハイビーム**

→P.200

■ **RSA（ロードサインアシスト）**

→P.229

■ **レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）**

→P.232

■ **先行車発進告知機能**

→P.240

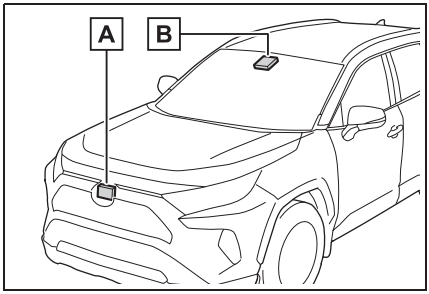
警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

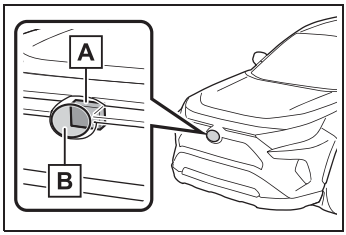
警告

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●レーダー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

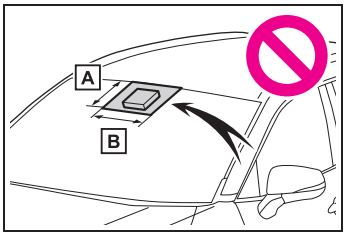
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.285）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
  - ・ワイパーゴムの交換：→P.340
  - ・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・汚れや付着物を取り除く ・前方カメラ周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.285）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.214）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.216）

システムの作動対象

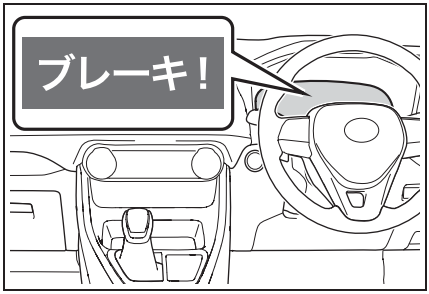
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
  プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.218

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.219

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。
対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。
運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●けん引されるとき

●けん引するとき

●トラック・船舶・列車などに積載するとき

●車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき

●点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

●事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●オフロード走行やスポーツ走行をするとき

●タイヤの空気圧が適正でないとき

●著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

警告

- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

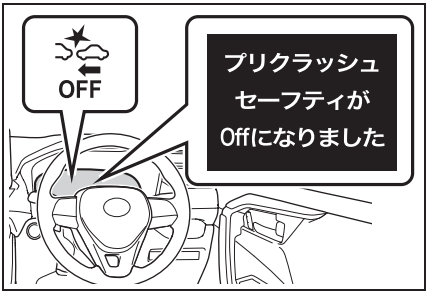
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティのON／OFFを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面（→P.105）から、プリクラッシュセーフティのON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチがONになるとシステムはONになります。

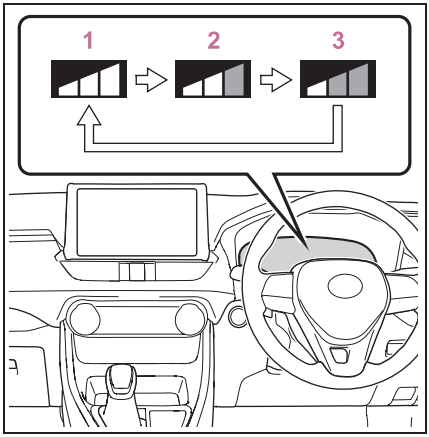
システムをOFFにすると、PCS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面（→P.105）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチをOFFにしても継続しますが、プリクラッシュセーフティをOFFからONの状態にすると「中間」に戻ります。



1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

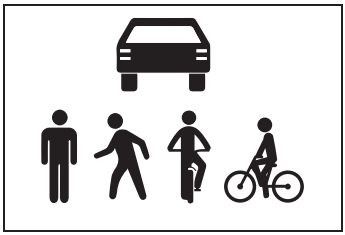
●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。
周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.219）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

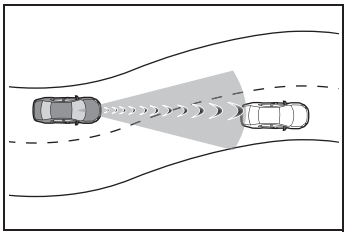
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

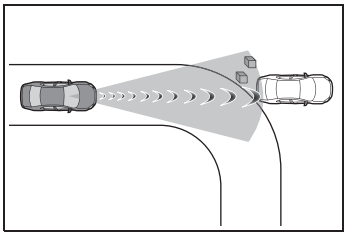
■**衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき**

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

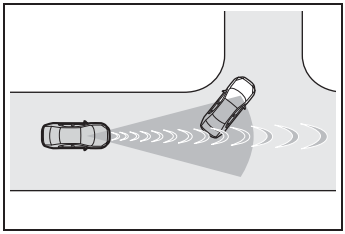
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



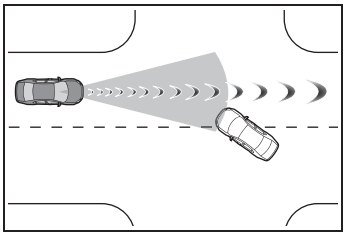
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



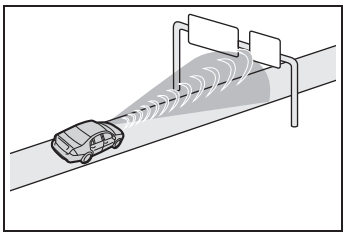
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



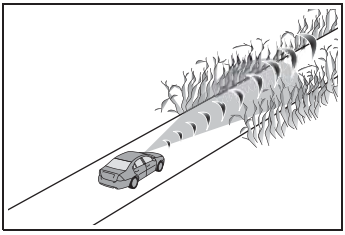
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



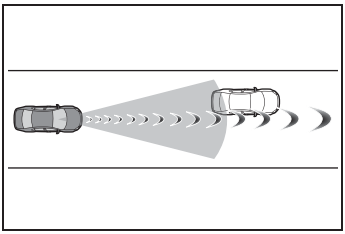
・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



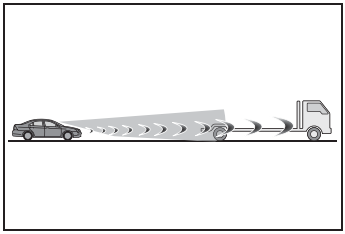
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

■**システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

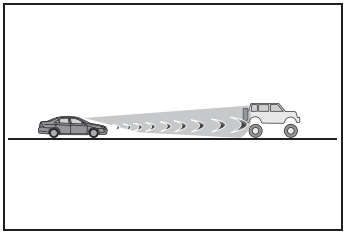
●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

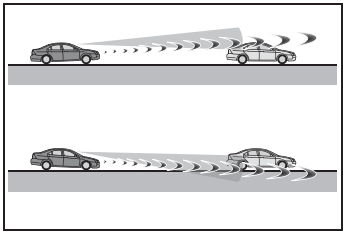


・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出して

いるとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→P.273）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

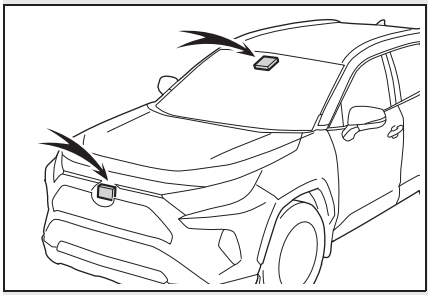
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

白（黄）線が整備された高速道路または自動車専用道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

●高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき

警告

●車両けん引時

■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

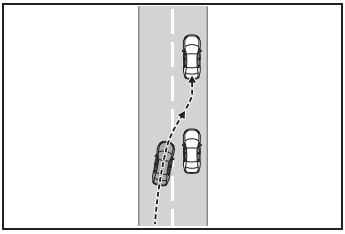
●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→P.226）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



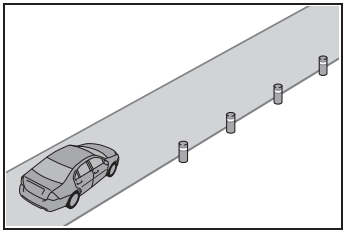
●先行車追従表示中（→P.226）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車追従表示中（→P.226）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

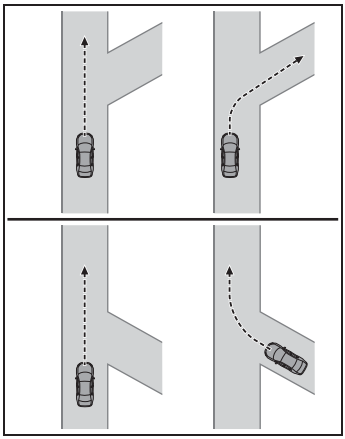
●先行車追従表示中（→P.226）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●急カーブを走行しているとき

●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）

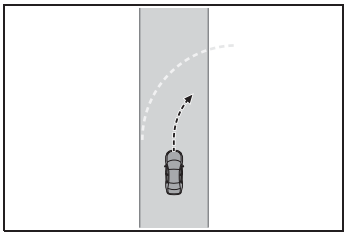


●分岐・合流路などを走行するとき



警告

- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

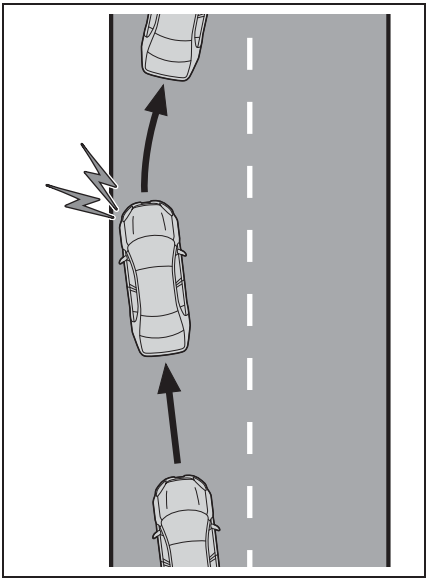
車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチ

インフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



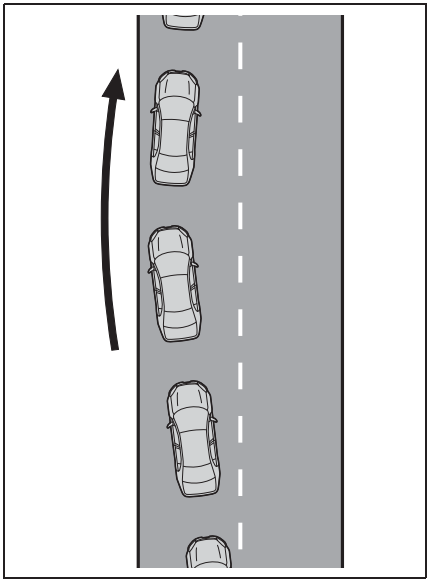
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

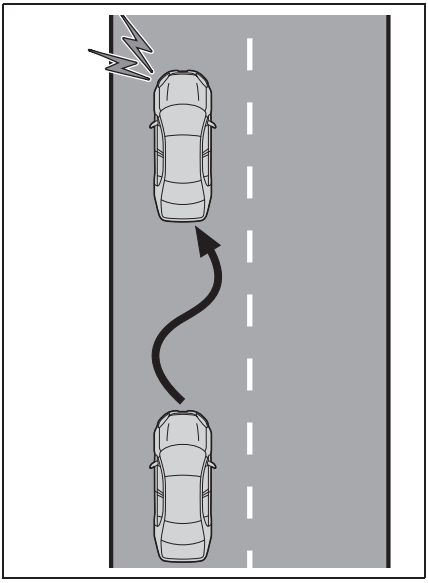
BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

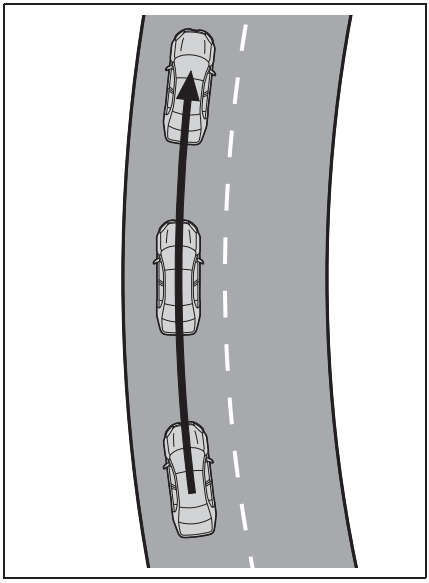
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。





■ **車線維持支援機能**

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

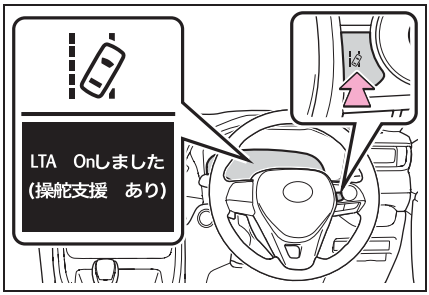
設定のしかた

LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

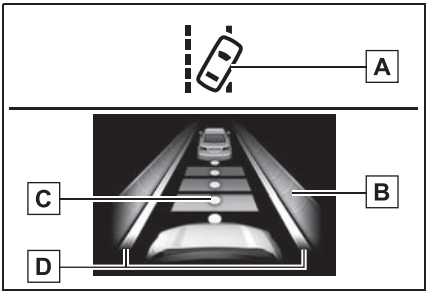
LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

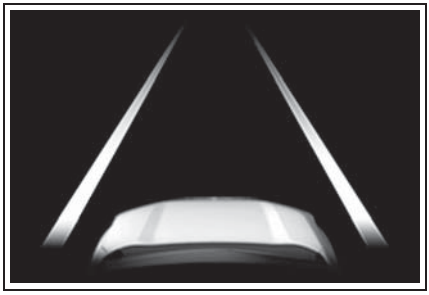
車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報表示画面に切りかえると表示されます。

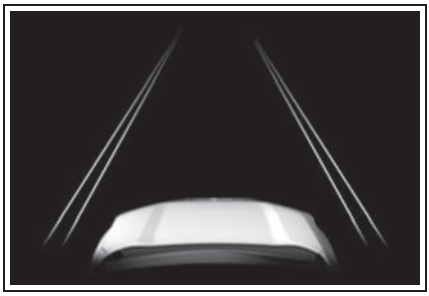
▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3 m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.229）

※1車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面で「操舵支援」を「ON」に設定しているとき（→P.99）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.228）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面で「ふらつき検知」を「ON」に設定しているとき（→P.99）
・車速が約 50 km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3 m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.229）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面で「操舵支援」を「ON」かつ「センタートレース」を「ON」に設定しているとき（→P.99）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.229）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.228）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→P.227）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.227）が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

●カーブを走行中に曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーショ

ンディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LTA 故障販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

●「LTA 現在の車速では使用できません」

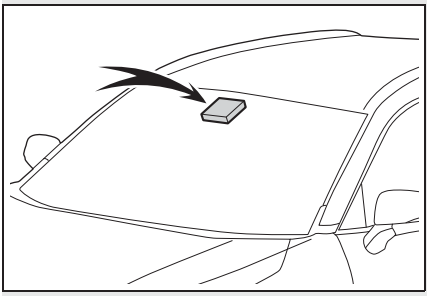
車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。(→P.105)

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラを使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイに表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

⚠警告

■RSA をお使いになる前に

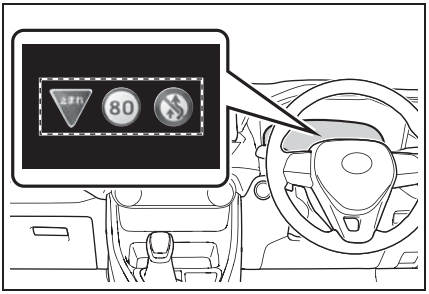
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

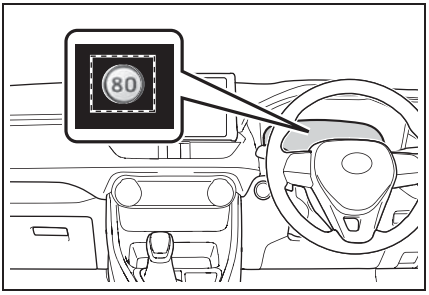
前方カメラによって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援機能情報表示画面を選択したときは、最大 3 つの標識

を表示できます。（→P.99）



● 運転支援機能情報表示画面以外を選択したときは、最高速度標識または車両進入禁止標識（告知時のみ）を表示します。（→P.99）



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

次の種類の道路標識は、電光標識も含めて認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された形式の標識は認識されません。

最高速度

車両進入禁止

一時停止

はみ出し通行禁止

終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

● 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されている最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。

● システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

● はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されているはみ出し通行禁止標識が点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常

に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

→P.105

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが悪いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（→P.105）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

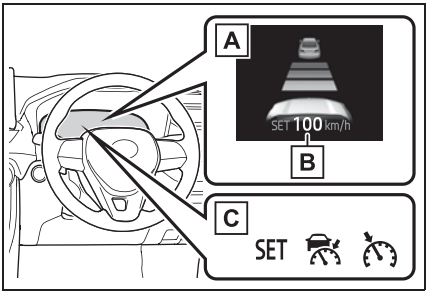
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.234）
- 定速制御モード（→P.237）

システムの構成部品

■ メーター表示

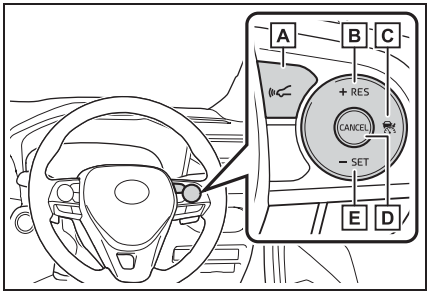


A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ



A 車間距離切りかえスイッチ

B “+RES” スイッチ

C クルーズコントロールメインスイッチ

D キャンセルスイッチ

E “-SET” スイッチ

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.239

・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.239

警告

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

- 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

- 運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

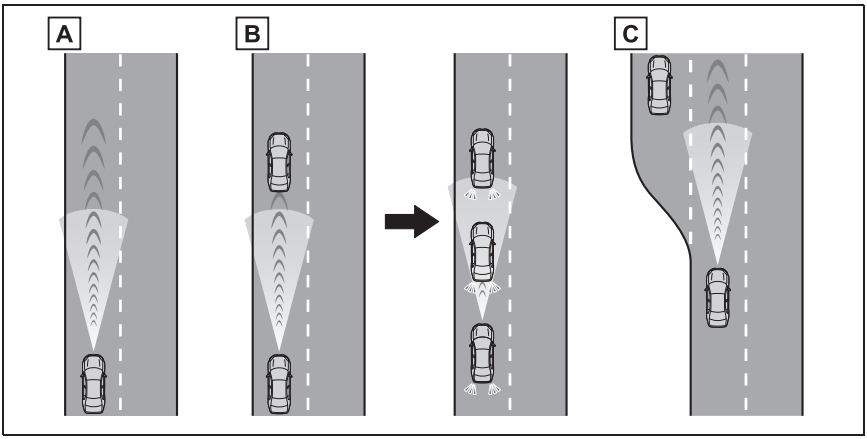
警告

- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行一追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

車速が約 80km/h 以上で自車が走行している車線より右車線へ車線変更する場合、方向指示レバーと連動して設定速度まで早めに加速することで、追い越しを支援します。

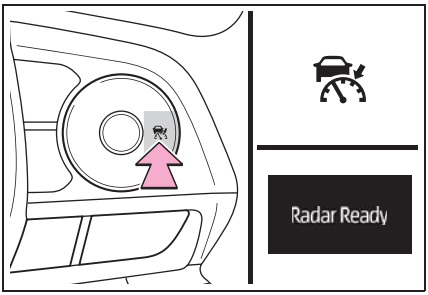
C 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

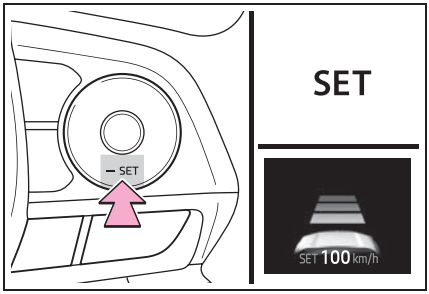
クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.237）



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

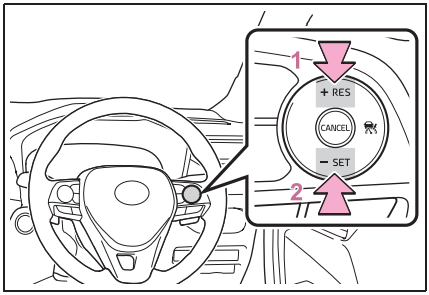
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+RES” スイッチまたは “-SET” スイッチを押します。



1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

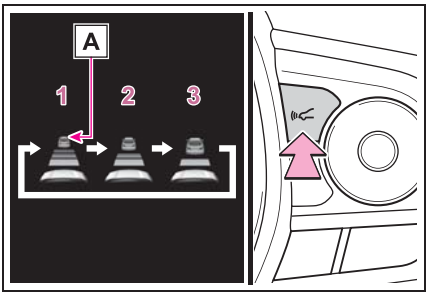
定速制御モード（→P.237）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



1 長い

2 中間

3 短い

パワースイッチを ON にするたびに車間距離は 1 にもどります。

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

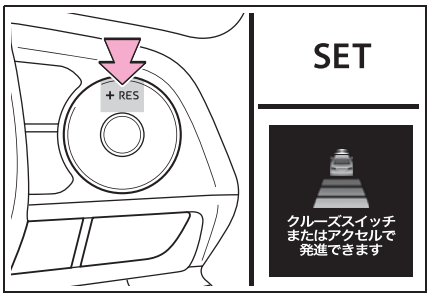
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

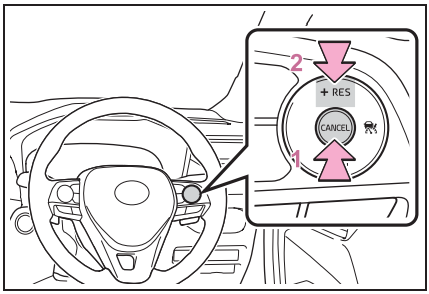
制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセ

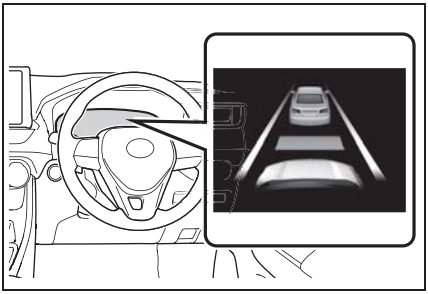
ルスイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

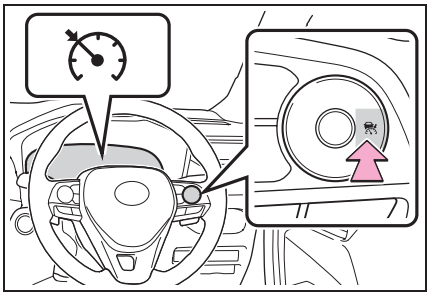
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。
レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



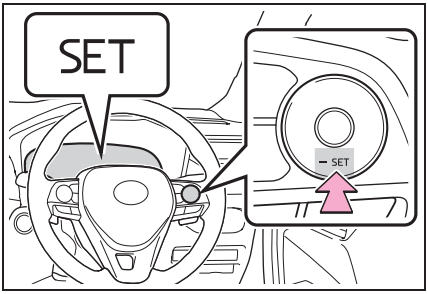
2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.235）

制御を解除する・復帰させる（→P.236）



知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中に “+RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示さ

れたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.213, 374）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

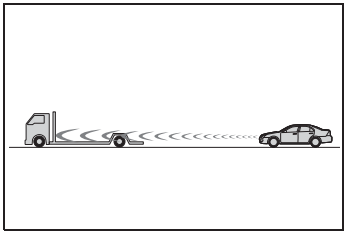
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.237）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

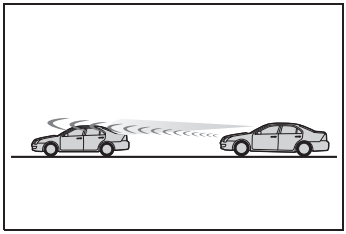
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



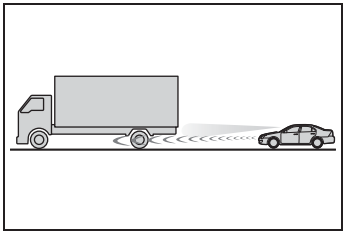
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



●先行車の車高が極端に高いとき

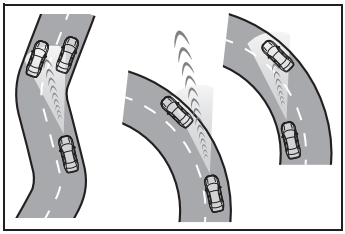


■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

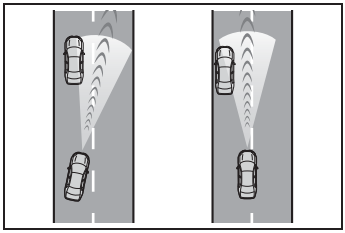
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

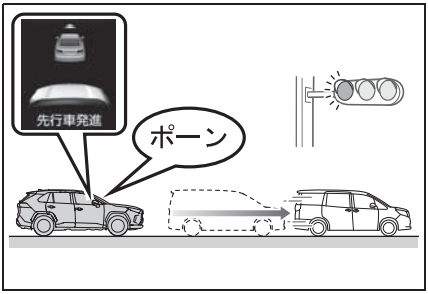
●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーがP･R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）によ

り、先行車の発進を誤認識したとき

- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■**先行車発進告知機能の設定を変更するには**

- 先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.105）

- 先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。（→P.105）

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能

運転者による車線変更時の判断を支援します。

- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能

後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

警告

■**BSM 機能を安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認を行う必要があります。

警告

■RCTA 機能を安全にお使いいただくために

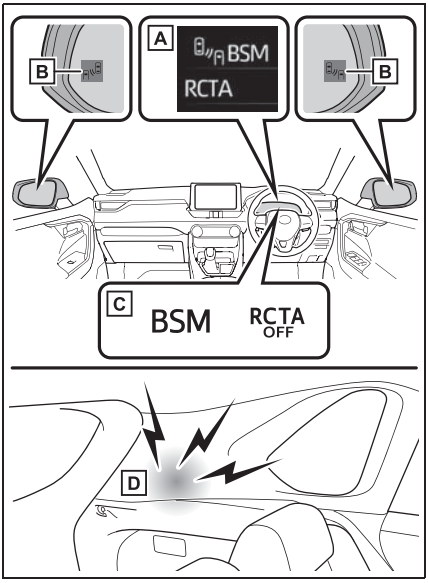
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認を行う必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

BSM 機能または RCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

BSM 機能：

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM 表示灯／ RCTA OFF 表示灯

BSM 機能を ON にすると、BSM 表示灯が点灯します。

RCTA 機能を OFF にすると、RCTA OFF 表示灯が点灯します。

D RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から、BSM 機能／ RCTA 機能の ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。（→P.105）

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーイン

ジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」または「RCTA　現在使用できません」が表示されたとき

電圧異常やセンサー周辺のリヤバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→P.243）センサー周辺のリヤバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障　販売店で点検してください」または「RCTA 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの故障や位置、向きのずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ドアミラーインジケーターの明るさなどの設定を変更することができます。（→P.105）

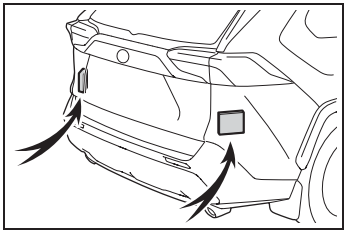
■レーダーセンサーの取り扱いについて

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく
  センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.243）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.245）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。

警告

次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部がはずれている

● センサーを分解しない

● センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼ったり、アクセサリー用品を取り付けたりしない

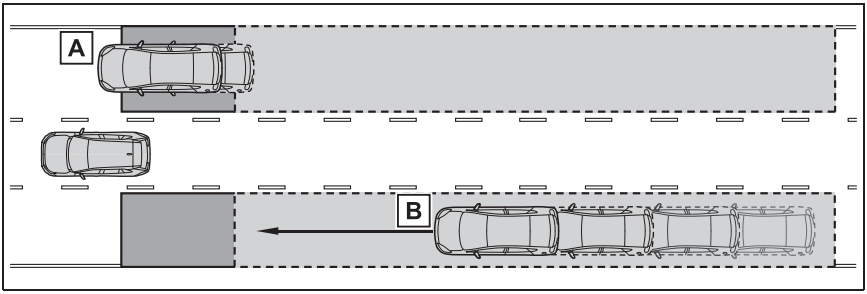
● センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

● リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

BSM 機能

■ BSM 機能で検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

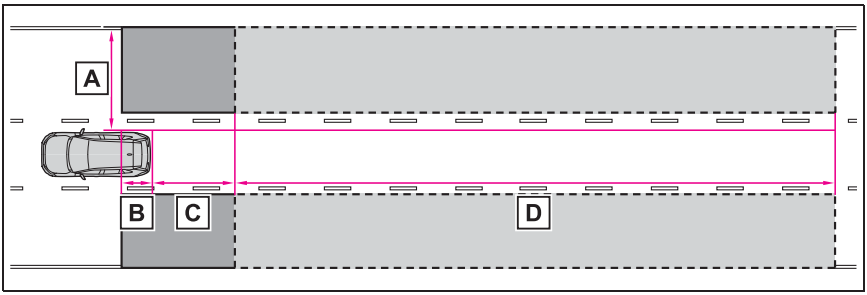


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5 m 離れた面から約 3.5 m の領域

車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

B リヤバンパーから約 1 m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3 m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3 m ～ 60 m の領域

自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- BSM 機能が ON のとき
- シフトレバーが R 以外の位置のとき
- 車速が約 16 km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型の二輪車、自転車、歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 同じ車線を走行する後続車 ※
- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※
- 自車が大きな速度差で追いこした車両

※ 状況によっては検知することがあります。

■BSM 機能が正しく作動しないおそれがある状況

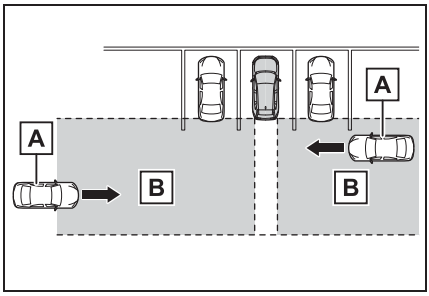
●BSM 機能は、次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・BSM 機能または RCTA 機能を ON にした直後

●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・雨や雪を後方に巻き上げているとき

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

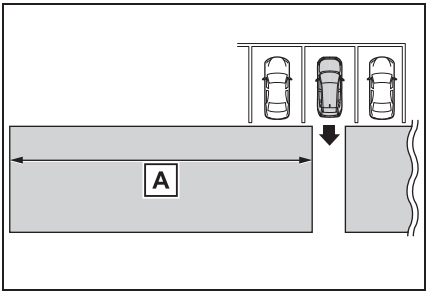


A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトレバーが R のとき

●自車の車速が約 8 km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約8～28 km/h のあいだのとき

■ブザー音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイから、ブザー音量を変更することができます。（→P.105）

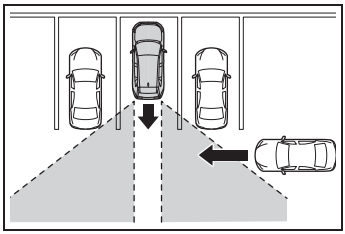
■RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真うしろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車・自転車・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

※ 状況によっては検知することがあります。

■RCTA 機能が正しく作動しないおそれがある状況

●RCTA 機能は、次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

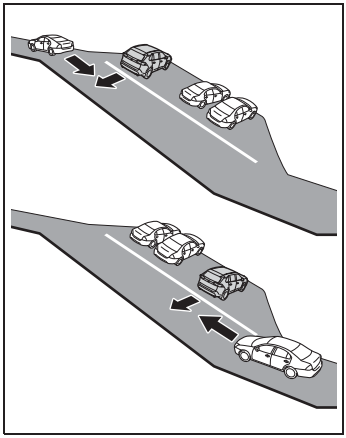
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

・高速で接近する車両

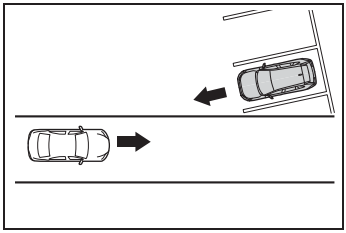
・坂道や平滑でない道などに駐車しているとき

・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

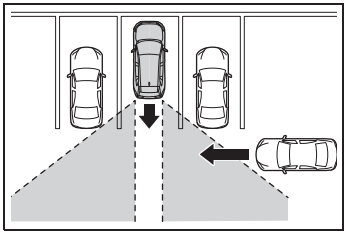
・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



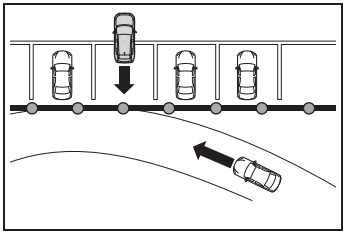
・浅い角度での駐車



・RCTA 機能を ON にした直後
・RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後
・障害物のためにセンサーが検知できない車両



●RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・自車の横を車両が通過するとき
・駐車場に面した道を車両が走行しているとき



・車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

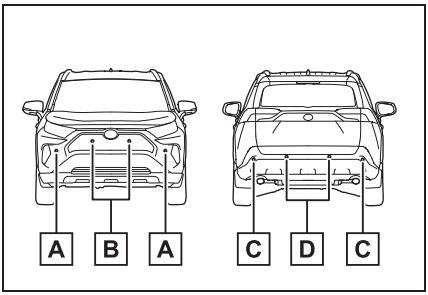
クリアランスソナー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの位置・種類



A フロントコーナーセンサー

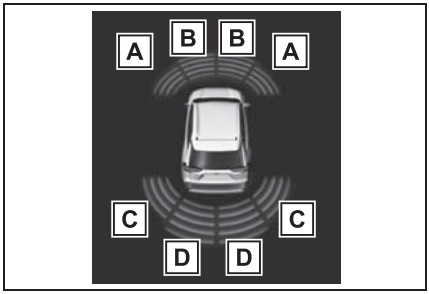
B フロントセンサー

C リヤコーナーセンサー

D バックセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンサー作動表示 ※1

C リヤコーナーセンサー作動表示 ※2

D バックセンサー作動表示 ※2

※1 シフトレバーが前進の位置にあるときに表示されます。

※2 シフトレバーが後退の位置にあるときに表示されます。

システムを作動させるには

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から、クリアランスソナーの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。（→P.105）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.88）が表示されます。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面からPを ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーの検知範囲であるバンパー周辺にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。
- バンパー真下付近は検知しません。センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 静止物を検知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点灯もしくは点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに作動表示が点灯もしくは点滅したままのとき（ミュート選択時は除く）

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が溶ければ、正常に復帰します。

氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが付近に存在するとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

■正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

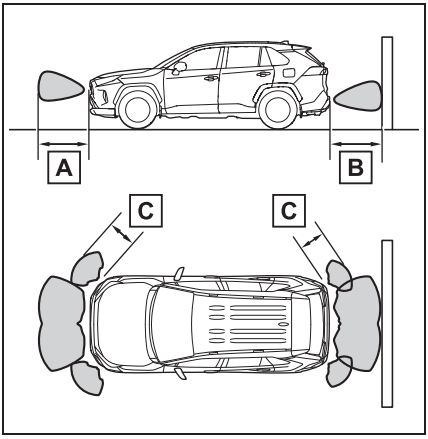
●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 63cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイが点灯（一部、枠が点滅）します。

イラストは説明のための例であり、検知している対象により、画面表示の状態はかわります。

画面表示	静止物までのおおよその距離
（点灯）	フロントセンサー：100cm ～ 63cm バックセンサー：150cm ～ 63cm
（点灯）	63cm ～ 48cm
（点灯）	48cm ～ 34cm
（点灯および枠が遅い点滅）	34cm ～ 15cm
（点灯および枠が速い点滅）	15cm 以下

■ ブザー音について

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 34cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物

を検知しているときは、最も近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

● ブザー吹鳴後、自動でブザーがミュート（消音）されることがあります。（自動ミュート機能）

（→P.105）

知識

■ **ブザー音のミュート（消音）について**

●自動ミュート（消音）機能：

静止物を検知してブザーが吹鳴しているとき、次の状態になると、ブザーが自動的に停止します。

・ 検知対象との距離が変化しないとき（検知対象との距離が約 34cm 以下の場合を除く）
・ 検知対象から自車が遠ざかるとき
・ 自車の進路内に静止物がないとき

ただし、ブザーの停止中に新たな静止物を検知したり、周囲の状況が変化したりすると、再度ブザーが吹鳴します。

●手動操作でミュート（消音）させるとき：

マルチインフォメーションディスプレイにミュート可能を示す表示が出ているときに、メーター操作スイッチの OK を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

●ミュート（消音）が解除されるとき：

次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。

・ シフトポジションを切りかえたとき
・ 車速が一定以上になったとき
・ クリアランスソナーを OFF にし、再度 ON にしたとき
・ パワースイッチを OFF にし、再度 ON にしたとき

■ **カスタマイズ機能**

ブザーの音量を変更することができます。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）があります。

駐車支援機能

■ **パーキングサポートブレーキ（静止物）**

→P.258

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）**

→P.264

警告

■**PKSB（パーキングサポートブレーキ）を安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から、パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の ON（作動）／ OFF（非作動）を一括で変更することができます。（→P.105）

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.88）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面から

を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

ハイブリッドシステム出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「加速抑制中です」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：“ポーン”（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「ブレーキ！」

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：“ポーン”（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示：「アクセルが踏まれています　ブレーキを踏み直してください」
アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏み続けてください」が表示されます。

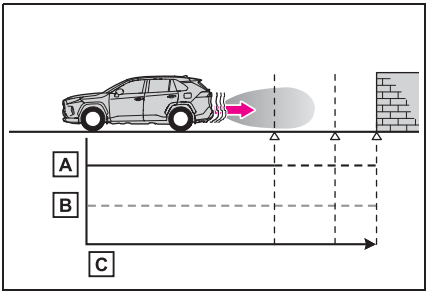
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：“ポーン”（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）。また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます（ブレーキ制御：図 3）。

● 図 1（PKSB[パーキングサポートブレーキ] 非作動時）

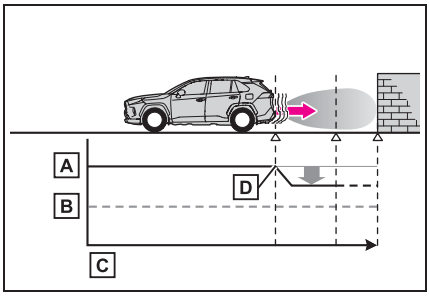


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



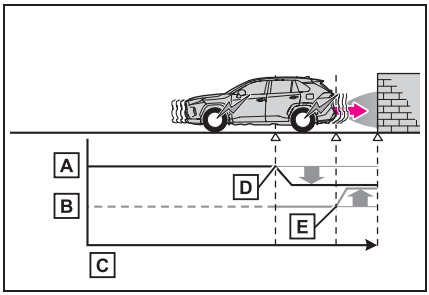
A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止した場合に、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にする（→P.255）か、パワースイッチ をいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。また、進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

●同時に「クリアランスソナー使用できません　ソナーの汚れを除去してください」が表示されている場合は、センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。その場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れてなくても表示が出るときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●センサーが凍結している可能性があります。氷が溶ければ正常に復帰します。

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

●補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。（→P.257）初期化を行っても表示が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

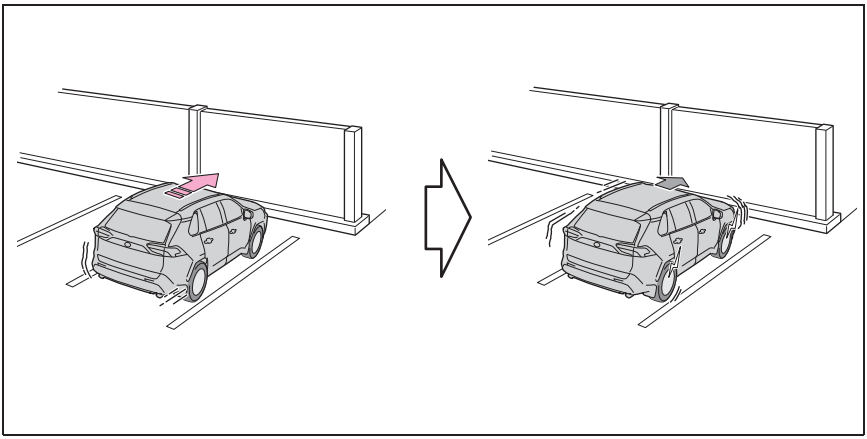
パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

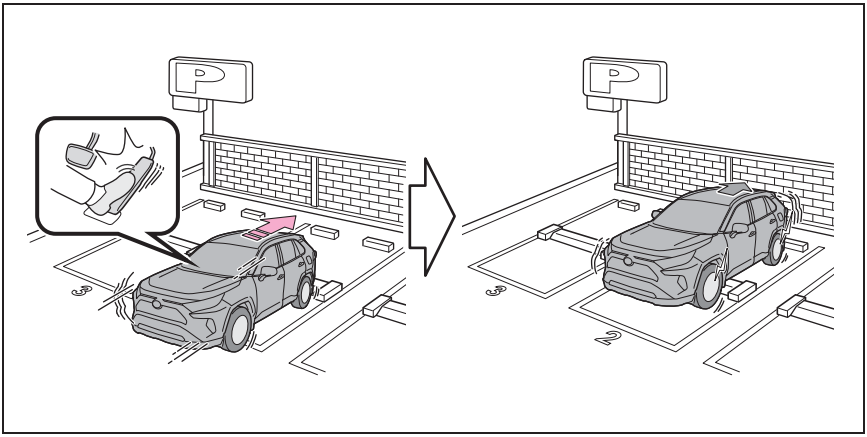
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

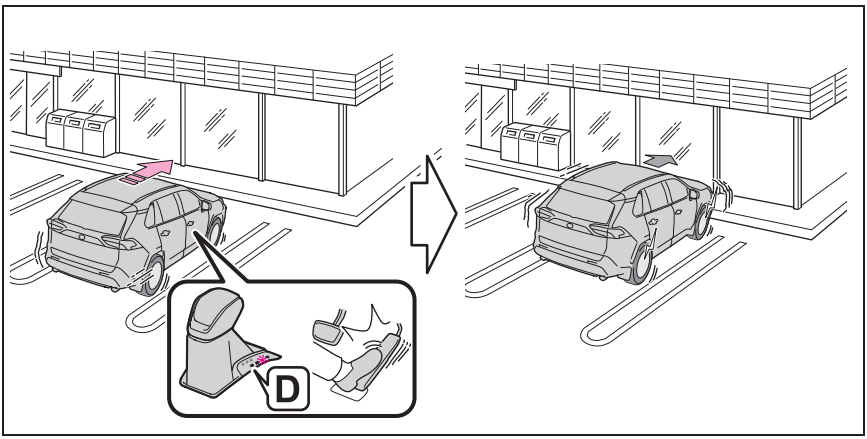
■ **低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

→P.249

警告

■パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムを正しく作動させるために

センサー（→P.249）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●改造・分解・塗装などをしない

警告

- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく
- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏むことで、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- けん引フックを取り付けた場合
- 洗車機を使用する場合

知識

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.87, 88）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
  - PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
  - 車速が 15km/h 以下
  - 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（2 ～ 4m 先まで）
  - 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
  - ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
  - 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要

とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.252）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■パーキングサポートブレーキ（静止物）が検知しないおそれのある作動対象について

次のようなものは、センサーが検知しない場合があります。

●歩行者

●綿・雪など音波を反射しにくいもの

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの

●背の低いもの

●針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの

●バンパーに非常に近いもの

●鋭角的な形のもの

●背が高く上部が張り出しているもの

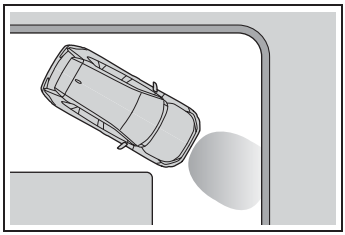
■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON ／ OFF に関係なく（→P.249）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→P.255）、前側センサーまたは後側センサーが作動対象を検知してブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

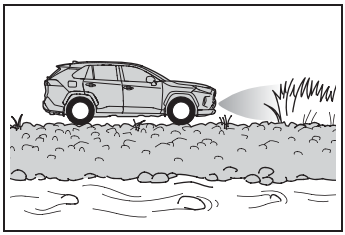
■衝突の可能性がなくてもパーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響
・狭い道路を走行するとき



・砂利道・草むらなどを走行するとき



・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・道路脇に構造物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・縦列駐車時
・地面にわだちや穴がある場合
・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・急な登坂路や降坂路を走行するとき
・冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
・船舶やトラックに積載時
・移動式洗車機
・リフト式駐車場や立体駐車場
・地下駐車場
・地面の工作物（スピードブレーカー、キャッツアイなど）
・段差
・直進時や右折時
・消雪パイプ
・信号機などの車両検出器、渋滞検出器や駐車場空き検出器
・線路
・H 型鉄筋
・両側の車両や自車と似た車

●天候の影響
・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況
・強風

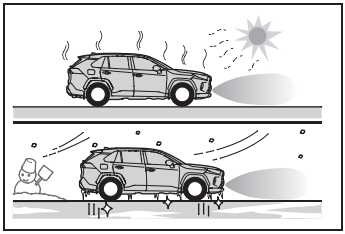
●他の音波の影響を受けたとき
・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けているとき

●車両の変化
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

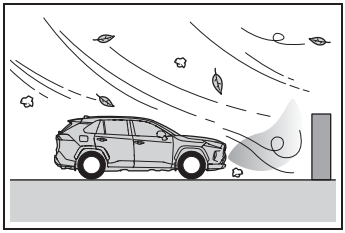
■パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●天候の影響
・炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合



・風が強いとき



・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況
・センサー部が凍結したとき（溶ければ、正常に復帰します）

●周辺環境の影響

・作動対象物と車両のあいだに、検知できない対象物がある場合
・車・二輪車・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
・背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
・凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
・センサーに静止物が近付きすぎたとき

●他の音波の影響
・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき
・けん引フック・バンパプロテクター・バンパトリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・センサーにペイントやステッカーなどを貼ったとき
・シフトレバーがＮにあるとき

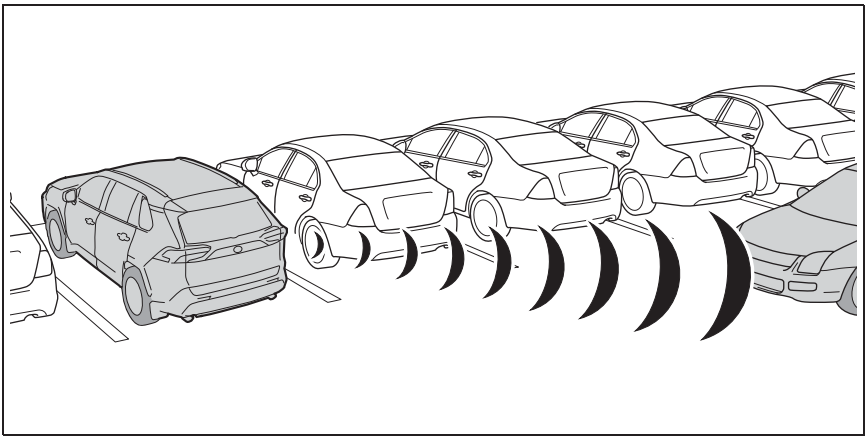
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→P.243

警告

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）のシステムを正しく作動させるために**

センサー（→P.243）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 改造・分解・塗装などをしない
- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく
- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 後側方レーダーセンサーの取り扱い（→P.243）をお守りください。

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.87, 88）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・後側方から接近する車両の車速が 8km/h 以上
・シフトレバーが R にあるとき
・接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.243）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

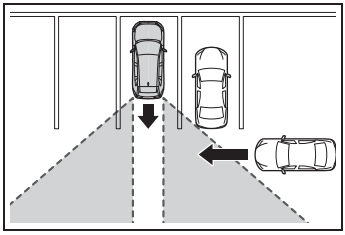
■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）が検知しない車両について

次のような車両や車両以外のものは検知対象としません。

●真うしろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●自車近くで急加速または急減速した車両

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車・自転車・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

●レーダーセンサーと接近物との距離が近すぎる場合 ※

●自車後側方から接近車両の速度が約8km/h 未満のとき

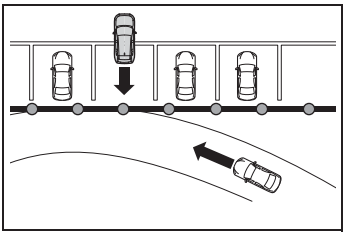
●自車後側方から接近車両の速度が約24km/h より大きいとき

※ 状況によっては検知することがあります。

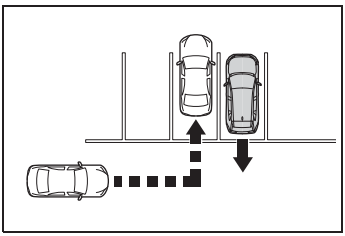
■**衝突の可能性がなくてもパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）のシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

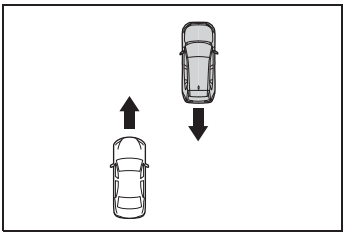
●駐車場に面した道を車両が走行しているとき



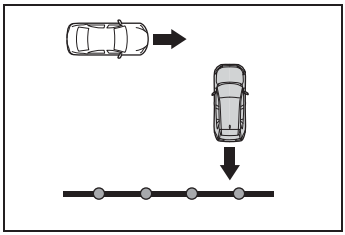
●自車近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車の横を車両が通過するとき



●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体が存在するとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

■**パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）のシステムが正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、レーダーセンサーが作動対象を正しく検知せず、システムが正常に作動しない場合があります。

●作動対象が停止しているとき

●炎天下や寒冷時

●リヤバンパーに氷・雪・泥などが付着したとき

●リヤバンパーに大雨や水しぶきが掛ったとき

●隣接車両などでレーダーから接近車両が遮蔽されているとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

●レーダーセンサー付近にけん引フック・バンパプロテクター・バンパトリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化している場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●レーダーセンサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグ

ランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）やステッカーを貼り付けたとき

●レーダーセンサーの位置や向きがずれているとき

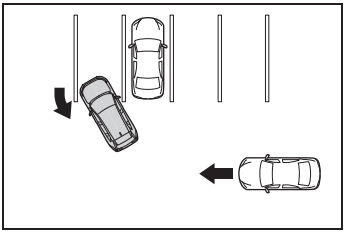
●複数台の車両が狭い間隔で連続で接近するとき

●車両が高速で接近するとき

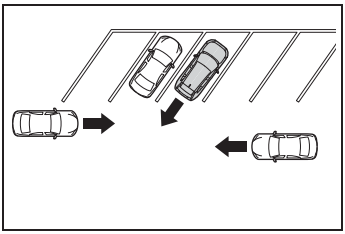
●レーダーセンサーが検知しない可能性がある状況または作動対象

・自車角度がついた場合など、後方付近からの接近車両

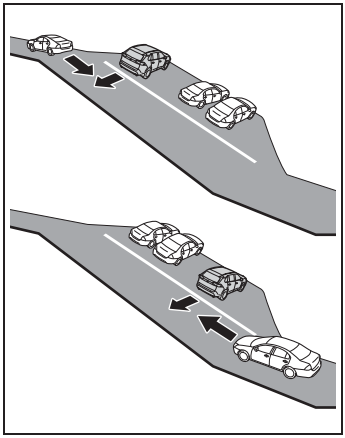
・自車が旋回しているとき



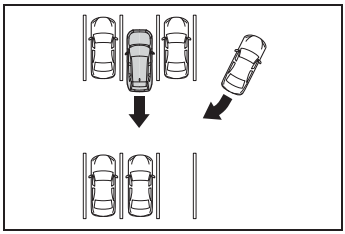
・斜めの駐車場から出庫するとき



・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



・旋回しながら車両が近付いてきた場合

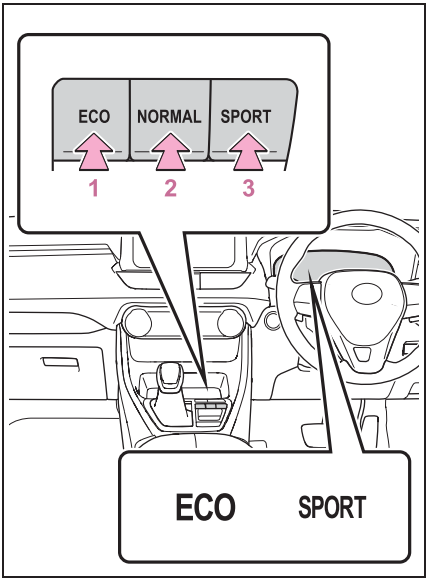


ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

走行モードを選択するには

■ FF 車



1 エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを押すとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにエコドライブモード 表示灯が点灯します。

2 ノーマルモード

通常の走行に適しています。

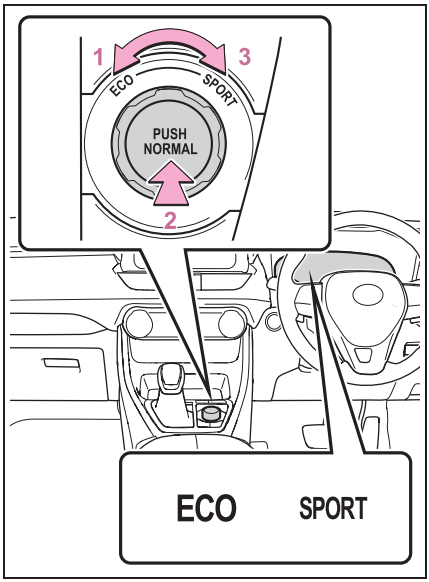
エコドライブモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

3 スポーツモード

ステアリングのフィーリング・およびハイブリッドシステムの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを押すとスポーツモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにスポーツモード表示灯が点灯します。

■ 4WD 車



1 エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにエコドライブモード表示

灯が点灯します。

2 ノーマルモード

通常の走行に適しています。

エコドライブモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

3 スポーツモード

ステアリングのフィーリング・およびハイブリッドシステムの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにスポーツモード 表示灯が点灯します。

知識

■ノーマルモード以外の走行モードに切りかえたとき

●選択した走行モードに従って、マルチインフォメーションディスプレイの背景色が変化します。

●スピードメーターがアナログ表示の状態のときは、スピードメーターの表示色も変化します。
（7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車のみ）

●選択した走行モードに従って、スイッチの照明色が変化します。（7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車のみ）

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

●エコ空調モードを OFF にする
（→P.285）

●風量を調整する（→P.284）

●エコドライブモードを解除する

■走行モードの解除について

●スポーツモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。

●ノーマルモード、およびエコドライブモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）

トレイルモード（4WD車）

トレイルモードは、凹凸のある路面などで4WD・ブレーキ・駆動力などの各制御を統合制御し、駆動力を補助する機能です。

警告

■トレイルモードをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

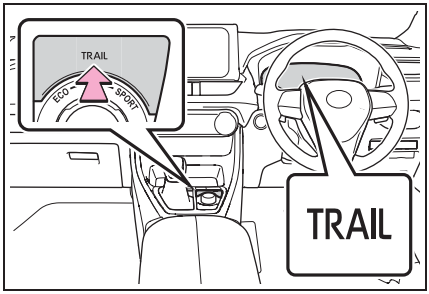
- トレイルモード表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。表示灯が消灯している状態では、トレイルモードが作動しません。
- トレイルモードは、車両の限界性能を高める装置ではありません。路面状況をよく確認した上で、安全に注意して走行してください。
- 路面状況をよく確認の上、走行してください。トレイルモード は地面の凹凸により片方のタイヤが空転するような路面での走行に適していますが、路面状況によっては十分な効果を発揮できない場合があります。

トレイルモードを ON にするには

トレイルモードスイッチを押す

スイッチを押すとトレイルモードが ON になり、マルチインフォメーションディスプレイにトレイルモード表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、トレイルモード表示灯が OFF になります。



知識

■トレイルモードについて

- トレイルモードは凹凸のある悪路を走行する場合のみに使用し、それ以外ではスイッチを ON にしないでください。
- トレイルモードは、凹凸のある路面での走行で駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、トレイルモードが OFF の状態にくらべて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。
- トレイルモードを長時間連続で使用すると、関連部品の負荷が高くなり、システムが十分な効果を発揮しなくなる場合があります。

■トレイルモードが解除されるとき

次の場合は、トレイルモードを ON にしていても自動で解除されます。

- 走行モードを切りかえたとき（→P.268）
- パワースイッチを OFF にしたとき

■トレイルモードの作動中は

次のようなことが起こる場合がありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- エンジンルームから作動音が聞こえる

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

次の場合は、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受

けてください。

- トレイルモードがONの状態でスリップ表示灯が点灯しているとき
- トレイルモードスイッチを押してもトレイルモード表示灯が点灯しないとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS ・TRC ・VSC ・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車

両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側にふくらむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four（電気式 4WD システム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面などさまざまな走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

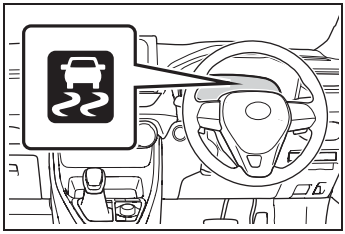
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

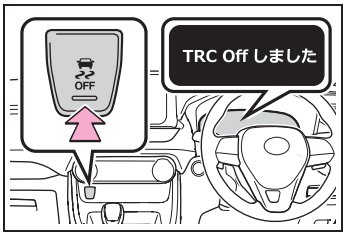


■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す



マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.220）

■ OFF を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる

・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの

音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側にふくらんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

●車速が約 10km/h 未満のとき

●構成部品が破損したとき

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車速が約 10km/h 未満になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき（4WD 車）

それぞれ、次のように対処してください。

メッセージ	状況
4WD 高負荷 走行を控えてください 2WD 走行に切替わります	4WD システムが過熱している **→ しばらくのあいだ安全な場所に停車してください。** しばらくして表示が消えれば問題ありません。 表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
4WD システム高温 2WD 走行に切りかわりました	過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわった **→ しばらくのあいだ安全な場所に停車してください。** しばらくして表示が消えたら、4WD システムが自動的に復帰します。 表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検してください	4WD システムに異常が発生した **→ すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

警告

●アクティブコーナリングアシストがひんぱんに作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。
（→P.268）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。
（→P.91, 96）

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早

めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル

・ 冷却水

・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.331）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後0.5 ～ 1.0km走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをＰに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。
(→P.192)
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをＰに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにする

と、凍結するおそれがあります。

※1輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン 284

ステアリングヒーター／シートヒーター（快適温熱シート）..... 289

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 291

5-3. 収納装備

収納装備一覧 294

ラゲージルーム内装備..... 298

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 302

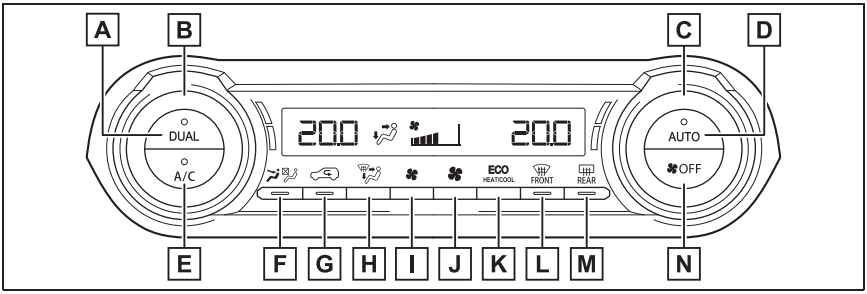
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）..... 309

非常時給電システム..... 314

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



A DUAL スイッチ

B 助手席側温度調整スイッチ

C 運転席側温度調整スイッチ

D AUTO スイッチ

E 冷房・除湿スイッチ

F S-FLOW モードスイッチ

G 内外気切りかえスイッチ

H 吹き出し口切りかえスイッチ

I 風量減スイッチ

J 風量増スイッチ

K エコ空調スイッチ

L フロントデフロスタースイッチ

M リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒータースイッチ

N OFF スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量増スイッ

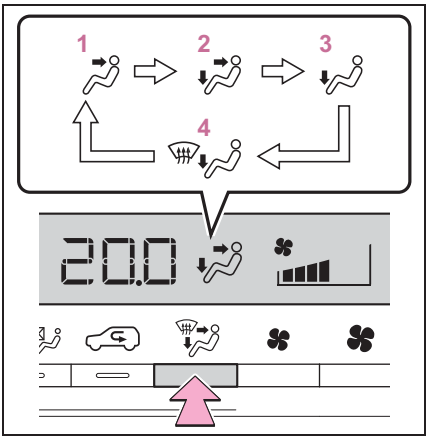
チを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



1 上半身に送風
2 上半身と足元に送風
3 足元に送風
4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ S-FLOW モード

S-FLOW モードでは、運転席への送風を優先させ、助手席・リヤ席への送風および空調の効きを抑えます。

S-FLOW モードスイッチを押すたびに S-FLOW モードの作動／非作動が切りかわる

S-FLOW モードが作動中のときは、作動表示灯が点灯し、助手席側の温度表示は消灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラー

ヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。
エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する
・エコ空調モードを解除する

●エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でもエコ空調スイッチを押すとエコ空調モードを解除することができます。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動で外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.334

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.422）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す
2 温度を設定する
3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定時、湿度センサーでフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

注意

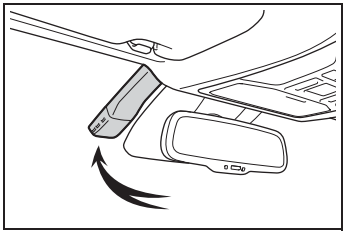
■湿度センサーについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスの曇り検知のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

・湿度センサーを分解しない
・ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
・湿度センサーにシールなどを貼らない



運転席と助手席の設定温度を別々に設定するには（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

● DUAL スイッチを押す

● 助手席側の温度調整スイッチで設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

作動表示灯が点灯しているときに DUAL スイッチを押すと、左右独立モードが OFF になり、助手席の設定温度が運転席と同じ設定温度になります。

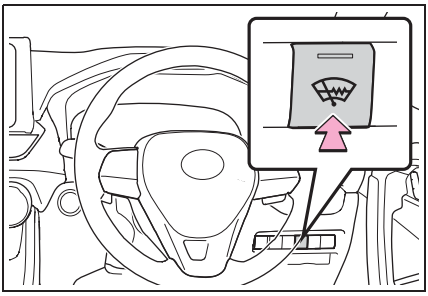
フロントワイパーデアイサー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。



警告

■ **フロントワイパーデアイサー★が作動しているとき**

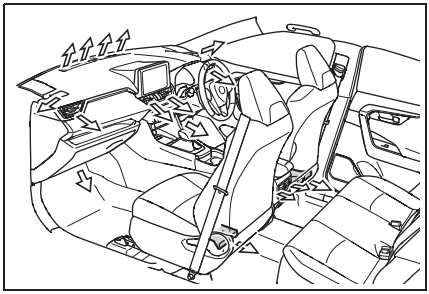
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

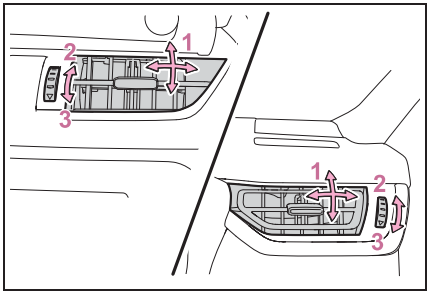
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



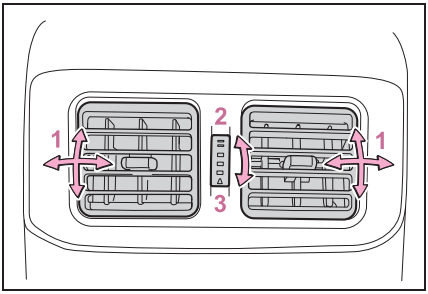
1 風向きの調整

2 吹き出し口を開く ※

3 吹き出し口を閉じる ※

※ 中央部吹き出し口の開閉については装着車のみ

▶ リヤ

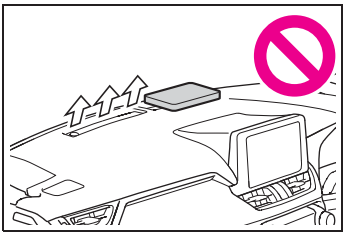


1 風向きの調整
2 吹き出し口を開く
3 吹き出し口を閉じる

警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター★／シートヒーター（快適温熱シート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター
ハンドルの左右のグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター
フロントシートの表面を暖めることができます。

警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

注意

■シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

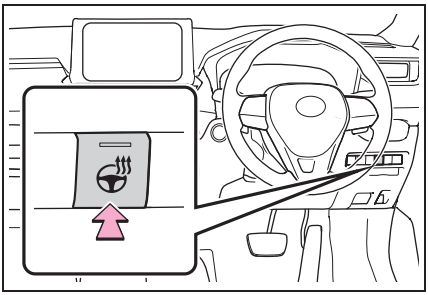
■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

スイッチを押してシステムの ON ／ OFF を切りかえる

作動中はインジケーターが点灯します。



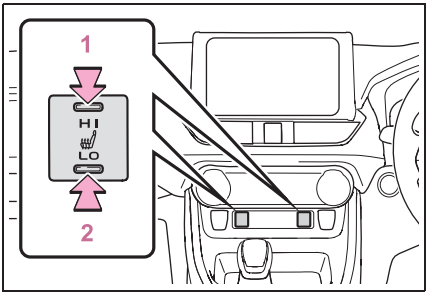
知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

シートヒーターを使うには

スイッチを押してシートヒーターを作動させる



1 HI（強）

2 LO（弱）

作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

警告

■異常過熱や低温やけどを防ぐために

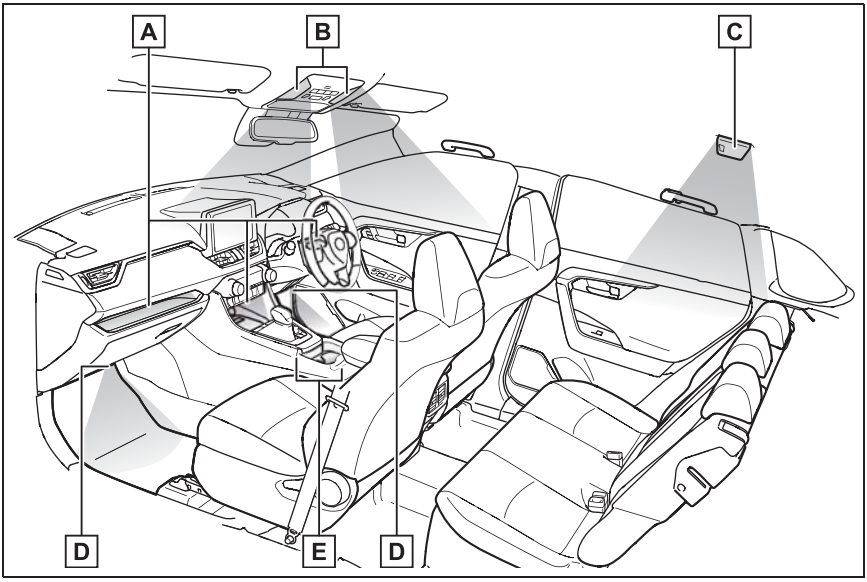
シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しない

●毛布・クッションなどを使用しない

室内灯一覧

室内灯の位置



A オープントレイ照明★※

B フロントインテリアランプ・パーソナルランプ（→P.291, 292）

C リヤインテリアランプ（→P.292）

D 足元照明★※

E フロントカップホルダー照明★※

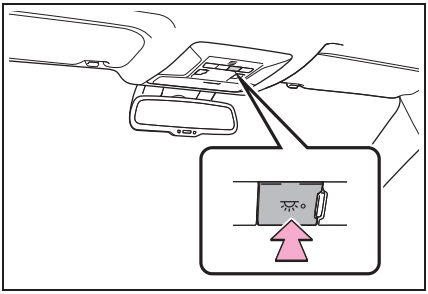
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ いずれかのドアを解錠したとき点灯し、シフトレバーが P 以外のときに明るさが暗くなります。

インテリアランプを操作するには

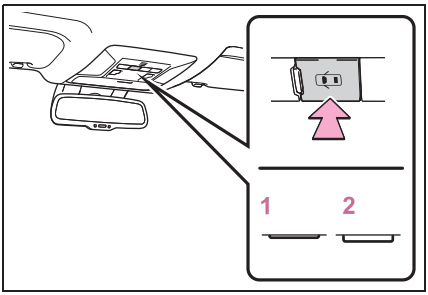
■ フロントインテリアランプ

ランプを点灯・消灯する



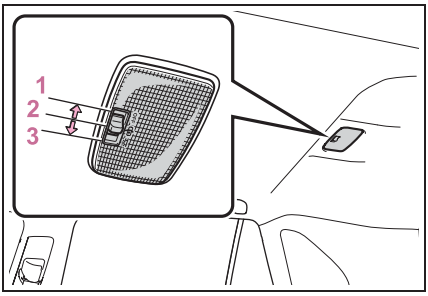
ドア連動の ON/OFF を切りかえる

ドア連動が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。



1 ON
2 OFF

■ リヤインテリアランプ

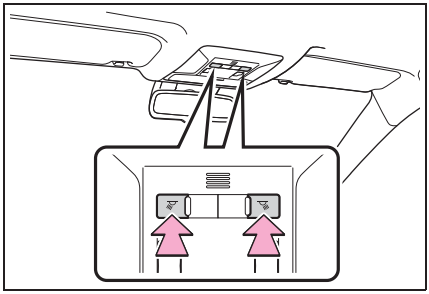


1 ランプを消灯する
2 ドアポジション（ドア連動）
3 ランプを点灯する

スイッチがドアポジションのときは、ドアが開くとランプが点灯します。

パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合は、約 20 分後に自動消灯します。

■SRS エアバッグが作動すると

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります）

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.422）

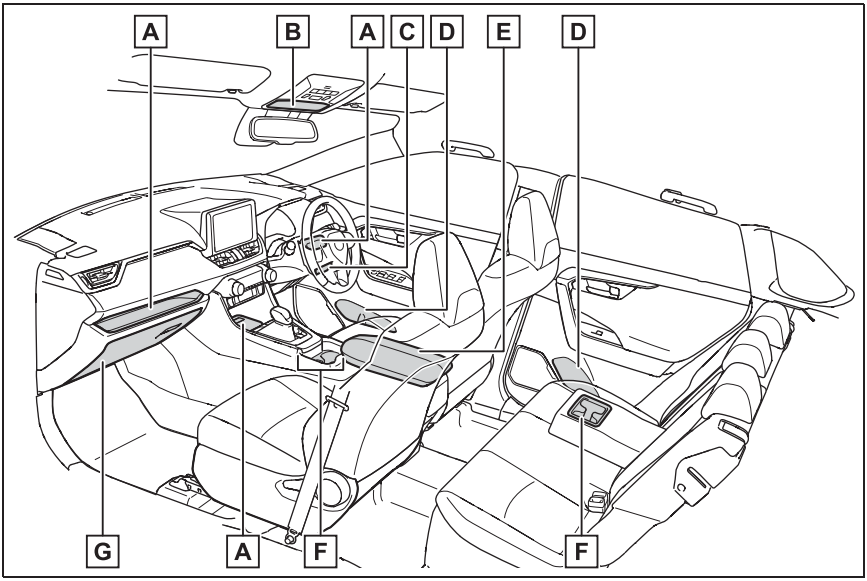
注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



A オープントレイ（→P.297）

B 小物入れ（→P.296）

C カードホルダー（→P.297）

D ボトルホルダー（→P.296）

E コンソールボックス（→P.295）

F カップホルダー（→P.296）

G グローブボックス（→P.295）

警告

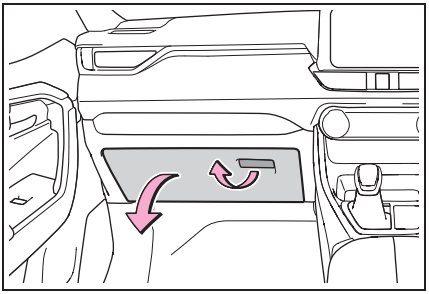
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックスを使うには

レバーを引いて開ける



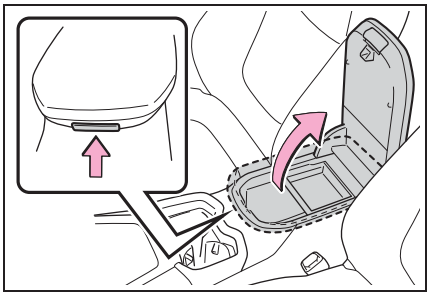
警告

■グローブボックスを使用しないときは

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックスを使うには

ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

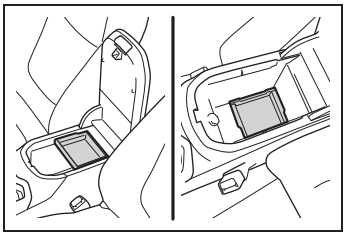


知識

■コンソールボックス内のトレイについて★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コンソールボックス内のトレイを引き上げて取りはずしたり、ボックスの底面に収納したりすることができます。



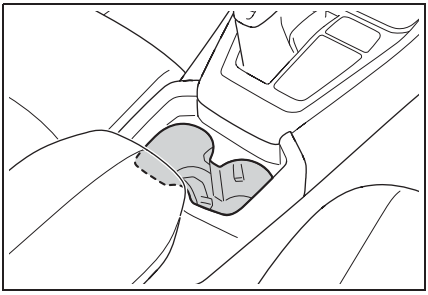
警告

■コンソールボックスを使用しないときは

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

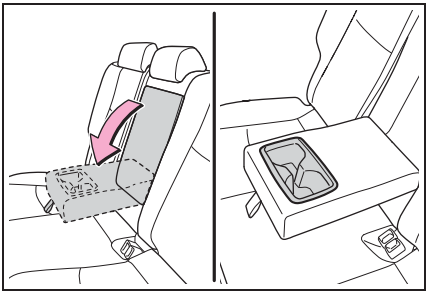
カップホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ

アームレストを手前に倒す



警告

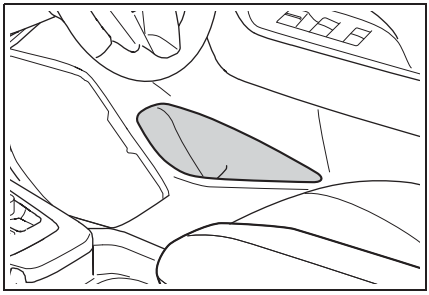
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

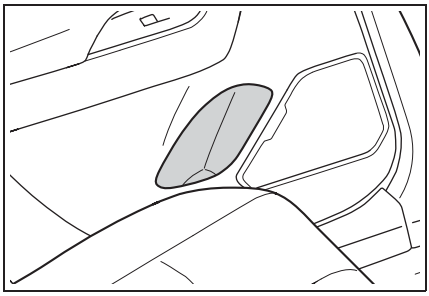
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ



知識

■ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

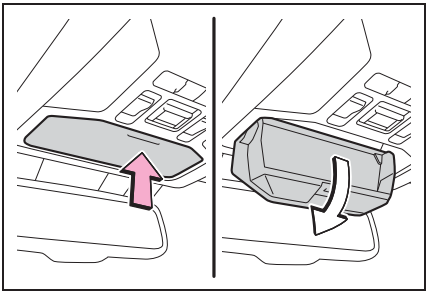
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れを使うには

フタを押して開ける



警告

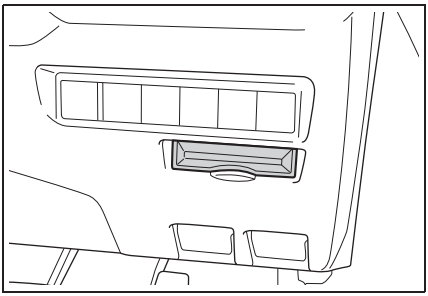
■小物入れを使用しないときは

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■収納してはいけないもの

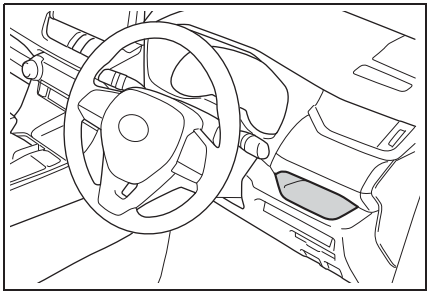
小物入れには 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カードホルダーを使うには

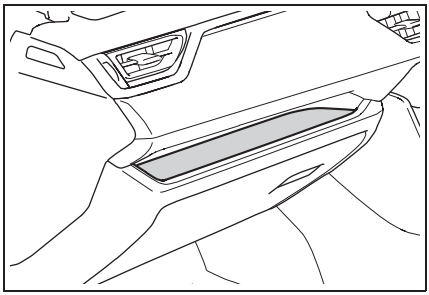


オープントレイを使うには

■ 運転席右側

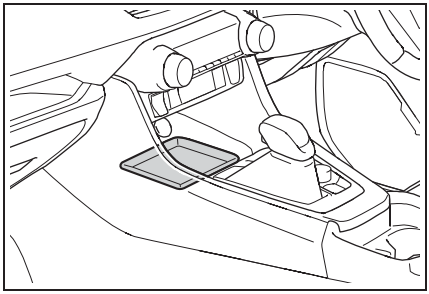


■ 助手席



■ フロントコンソール

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）装着車は、P.304 を参照してください。



警告

■収納してはいけないもの

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛びだし、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

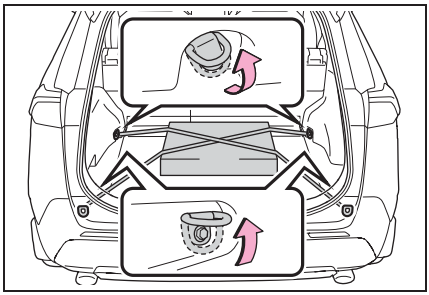
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

ラゲージルーム内装備

デッキフックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



警告

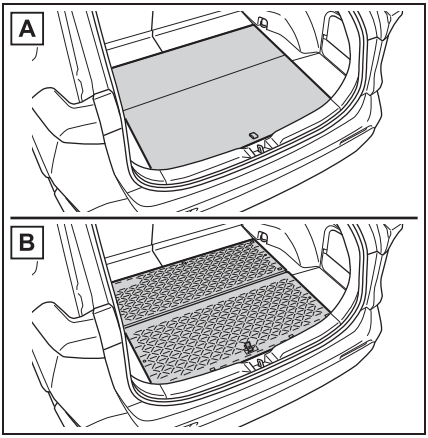
■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

デッキボードを使うには

■ デッキボードの表裏を入れかえる

用途に応じて、デッキボードの裏面（樹脂面）を上側にして使用することもできます。

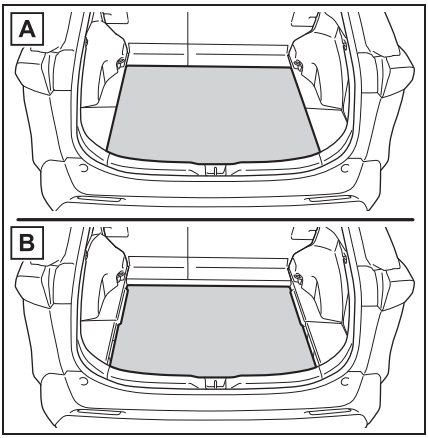


A 表面

B 裏面（樹脂面）

■ 床面の高さを調節する

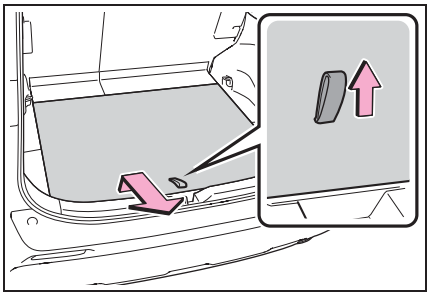
デッキボードのセット位置を変更することで、床面の高さを調節できます。



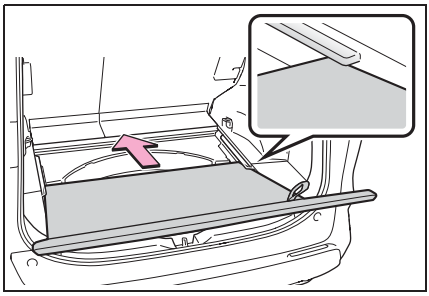
A 上段

B 下段

1 ストラップを引き、デッキボードを取りはずす

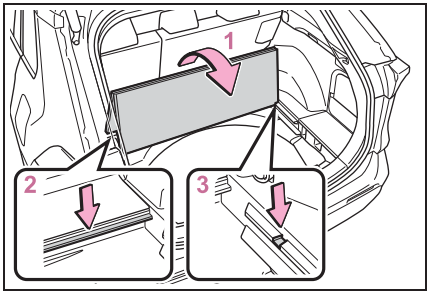


2 デッキボードの端を下段の溝に入れて前方へスライドさせる



■ デッキボードを立てる

工具の取り出しやデッキアンダートレイ★を使用するときなど、デッキボードを立てた状態で保持することができます。



1 デッキボードを取りはずす（→P.299）

2 デッキボードの裏面（樹脂面）が上を向くようにして折りたた

み、先端を溝に挿し込む

3 デッキボードを立て、反対の端を溝に挿し込む

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■デッキボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。指をはさむなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の警告

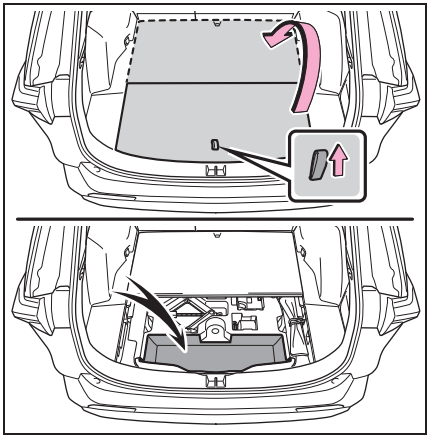
デッキボードを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

デッキアンダートレイ★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ストラップを引き上げ、車両前方に向けてデッキボードを折りたたむ

デッキボードを裏面（樹脂面）で使用しているときは、デッキボードを取りはずしてください。



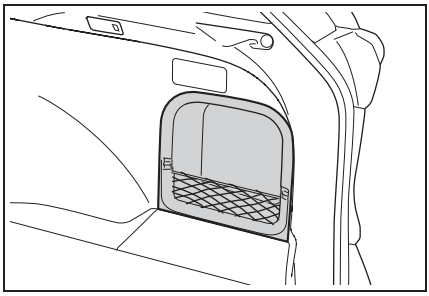
警告

■走行中の警告

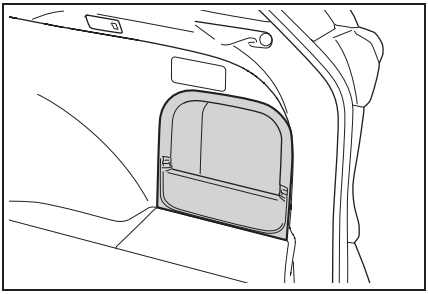
デッキボードを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、デッキアンダートレイに収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージサイドトレイを使うには

▶ A タイプ



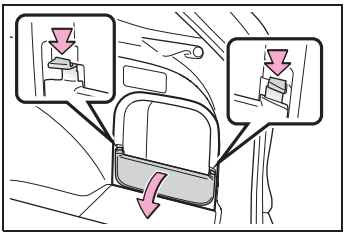
▶ B タイプ



知識

■ ラゲージサイドトレイのセパレーターについて

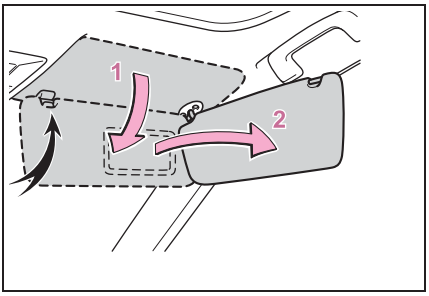
セパレーターを取りはずすことができます。



ツメを押しながら取りはずす

その他の室内装備

サンバイザーを使うには



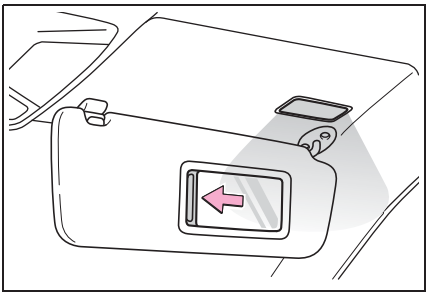
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

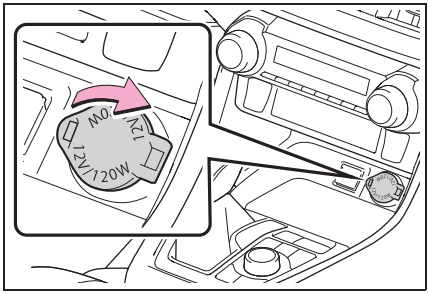
アクセサリーソケットを使うには

DC12 V/10 A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

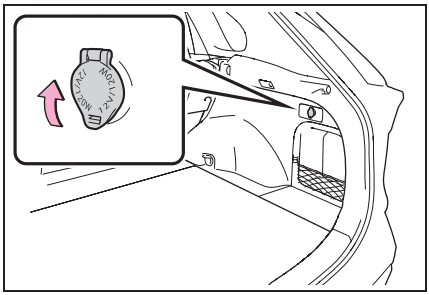
■ フロント

フタを開ける



■ ラゲージルーム内

フタを開ける



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■アクセサリーソケットを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12 V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

充電用 USB 端子を使うには

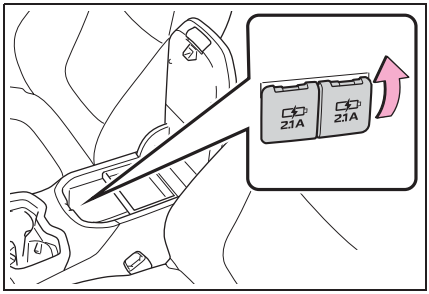
DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

■ 充電用USB端子を使用するには

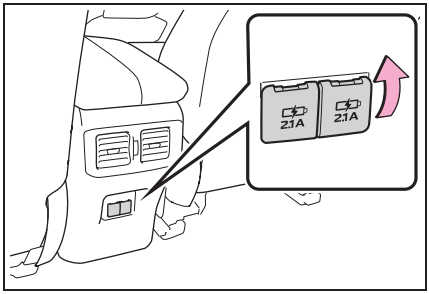
▶ コンソールボックス内

フタを開ける



▶ リヤ

フタを開ける



知識

■充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠注意

■充電用USB端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●充電用USB端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用USB端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格Qiに適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

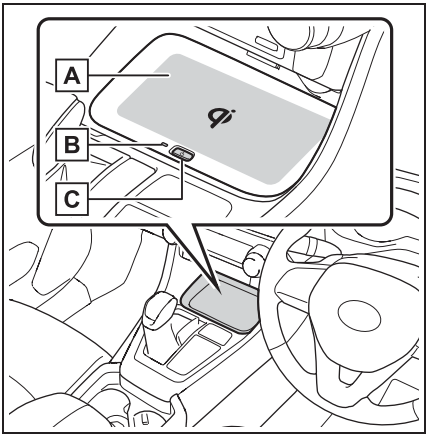
■「Qi」マークについて

「Qi」、Qiマークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社NTTドコモの登録商標です。

■ 各部の名称



A 充電エリア

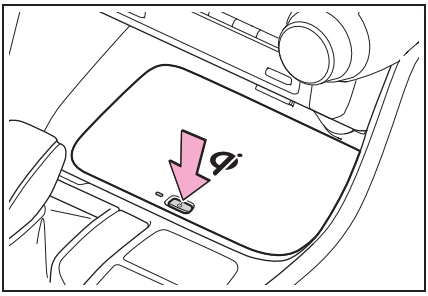
B 作動表示灯

C 電源スイッチ

■ 充電する

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。
ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。
ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）はパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

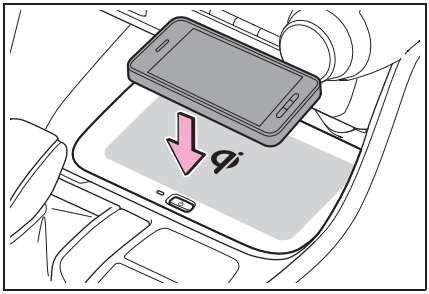


2 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。
充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時 ※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対

処方法は次のとおりです。

● 1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
車両とワイヤレス充電器の通信不良	トヨタ販売店へお問い合わせください。

● 3 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
異物検知：携帯機器と充電エリアのあいだに異物がある	携帯機器と充電エリアのあいだにある異物を取り除いてください。
携帯機器のずれ：充電エリアの中央付近から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。

● 4 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
ワイヤレス充電器内の温度上昇	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■ **使用条件**

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ **使用できる携帯機器について**

● ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

● 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■ **携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは**

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■ **充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは**

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■ **充電中の留意事項**

● 車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

● 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■ **作動中の音について**

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は “ジー” と作動音がしますが、異常ではありません。

警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 飲用水などが入った容器をワイヤレス充電器の上に置かない
- 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 布などをかぶせて充電しない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

注意

■故障やデータ破損を防止するために

●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

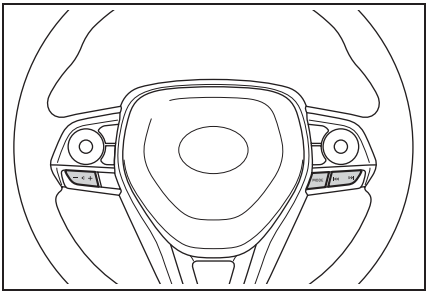
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

ステアリングスイッチを使うには

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



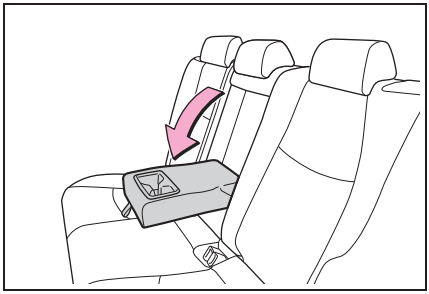
警告

■運転中の操作について

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用する



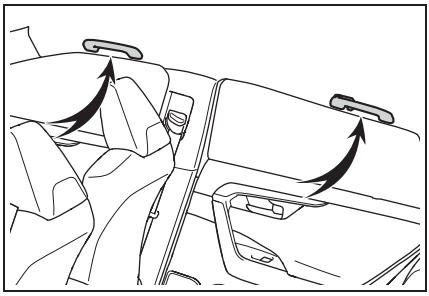
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

■アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

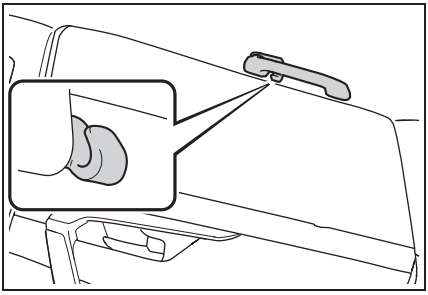
注意

■アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。



警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

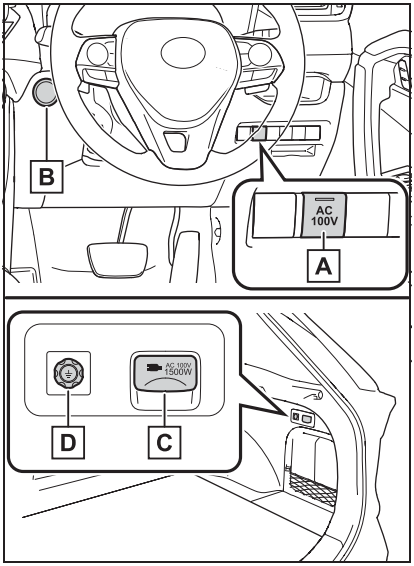
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

各部の名称



A AC100V スイッチ

B パワースイッチ（→P.182）

C コンセント

D アース端子

コンセントを ON するとき

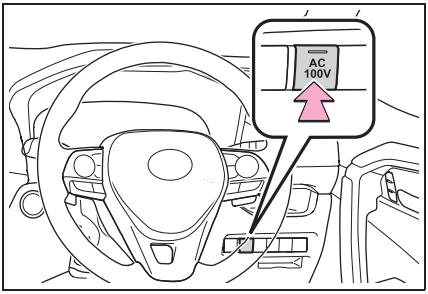
1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパ

ワースイッチを押す
（→P.182）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

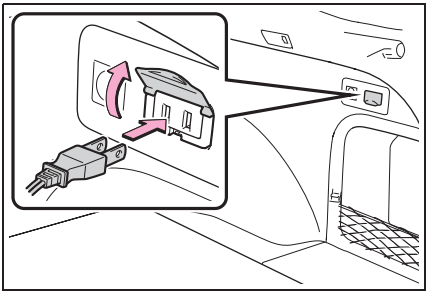
AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON ／ OFF が切りかわります。



電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。



コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 AC100V スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはずす

4 コンセントのフタを閉める

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例にふれるおそれがありますのでご注意ください。アセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■アクセサリーコンセントについて

- コンセント（AC100V/1500W）の使用電力合計が AC100V で最大 1500W 以下となるよう電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなります。
- 使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
  この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがありますが故障ではありません。
- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの電圧は市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●コンセントを使用中、リヤ席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

●電気製品の電源プラグを抜き、コンセントの使用電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。

●電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。

●駆動用電池の残量を確認してください。（→P.110）残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するためコンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■駐車中または停車中に使用するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

●パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーを P にしていることを確認してください。

●電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。

警告

- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
  状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
  過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→P.36）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- 災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.314）

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

- 医療機器
  車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。
  熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
  走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
  コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線はしないでください。

注意

■特に外気温が高いとき

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

■特に外気温が低いとき

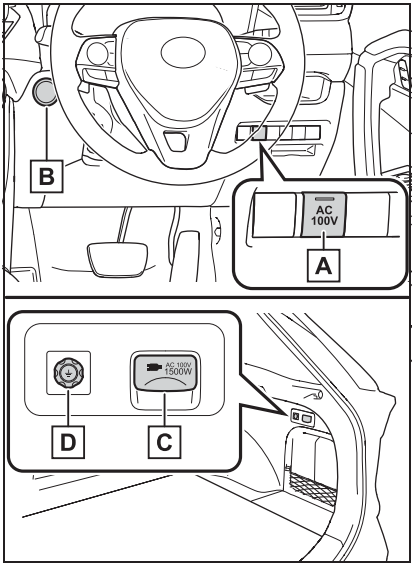
特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するためコンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

非常時給電システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法を行うことで、車両の走行機能を停止した状態で給電ができます。

システムの構成部品



A AC100V スイッチ

B パワースイッチ（→P.182）

C コンセント

D アース端子

給電作業をする前に

給電作業は、次の内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- パーキングブレーキがかかっていること
- ヘッドランプなどが OFF になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

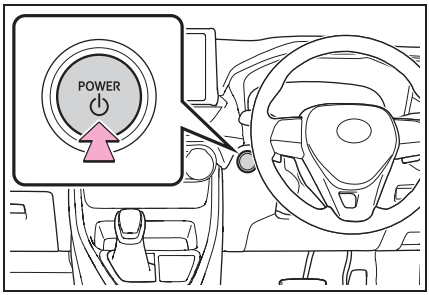
輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- 給電中はオートアラームを設定することができないので、盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと
- ボンネットが閉まっていること

非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON にする（→P.185）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押すと、非常時給電システムは使用できません。

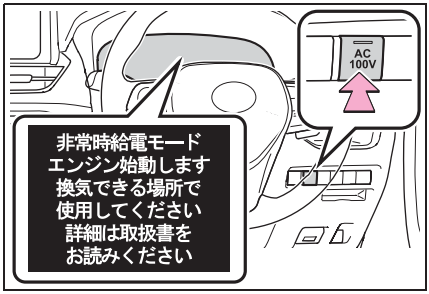


2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



3 非常時給電システムを起動後、エアコンを ON にする（→P.284）

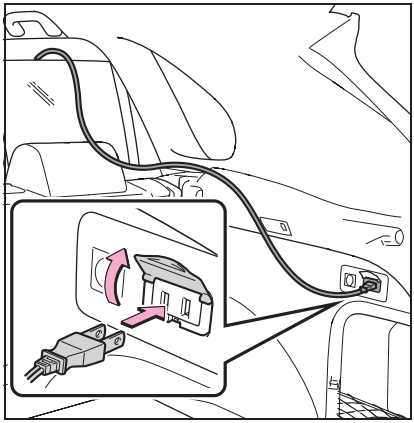
電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電気製品の接続されていることがわかるように窓から延長コードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線をアース端子に接続してください。

窓ガラスを上昇させるときはパワーウィンドウスイッチで自動全閉を行わずに上昇させ、コードを窓枠とガラスで挟み込まないようにすき間を確保してください。(→P.162)



非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源をOFF にする

2 AC100V スイッチを押してOFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはずす

4 コンセントのフタを閉める

5 パワースイッチを OFF にする

知識

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例にふれるおそれがありますのでご注意ください。非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■非常時給電システムについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなります。
- 使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、保護機能が働き、コンセントが使用できなくなることがありますが故障ではありません。
- 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの電圧は市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。
- 長時間給電直後には、動力性能や燃費などが一時的に悪化することがありま

すが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■非常時給電システムが使用できないとき

●コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

・電気製品の電源プラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
・電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
・駆動用電池の残量を確認してください（→P.110）。残量が少ない場合は、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。
・車内が高温になると、給電システムを保護するためコンセントが使用できない場合があります。その場合は外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。不要なドアやドアガラスを閉めると、効率的に車内温度を下げることができます。
・炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
・特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用して駆動用電池をあたためてから使用してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされていない場合、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに下記のメッセージが表示されたとき

・「燃料の残量低下により給電停止しました」

燃料が少なくなったため、非常時給電モードを停止しました。燃料を給油後、再度非常時給電モードを起動することが可能になります。ガソリンスタンドで給油することをおすすめします。

・「シフトポジション切りかえにより給電停止しました」

シフトポジションが P から切りかわったため、非常時給電モードを停止しました。パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■非常時給電システムの使用中

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●電子キーでドアの施錠・解錠をすることはできません。メカニカルキーのみでドアの施錠・解錠ができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりませんキーの所在を確認してください」と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に該当する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●非常時給電システムの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。

●非常時給電システムの使用中は車両から離れないでください。また、給油や洗車は行わないでください。

●車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の侵入などに注意してください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

- ボンネットが閉まっていることを確認してください。状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→P.36）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。また、次のような機器は使用しないでください。

- 医療機器

車両状態によっては、一時的にコンセントの出力が断たれることがあります。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障したりするおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障や、ショートのおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線はしないでください。

■非常時給電システムの使用中

- エアコンを使用してください。

注意

●長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

■特に外気温が高いとき

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

●給電システムを保護するためコンセントが使用できない場合があります。その場合は外気導入でエアコンを使用して車内温度を下げながら使用してください。不要なドアやドアガラスを閉めると、効率的に車内温度を下げることができます。

■特に外気温が低いとき

●駆動用電池を保護するため、数十分間コンセントを使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

●排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいを発生する場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 322
内装の手入れ 324

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 327
ガレージジャッキ 329
ウォッシャー液の補充..... 330
タイヤについて 331
タイヤ空気圧について..... 333
エアコンフィルターの交換..... 334
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃 336
ワイパーゴムの交換..... 340
電子キーの電池交換..... 343
ヒューズの点検・交換 344
電球（バルブ）の交換..... 347

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：
・ドアミラーを格納する
・パワーバックドア★を停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー＆スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.138）

■アルミホイールについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにし

てください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。
やけどをするおそれがあります。

■ブラインドスポットモニター★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと

・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと

・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと

・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
  高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
  - 駆動系部品
  - ステアリング部品
  - サスペンション部品
  - ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1 % にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→P.79）駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.30）電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★（→P.304）をぬらさないでください。
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。（→P.210）

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5 % にうすめて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
  特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

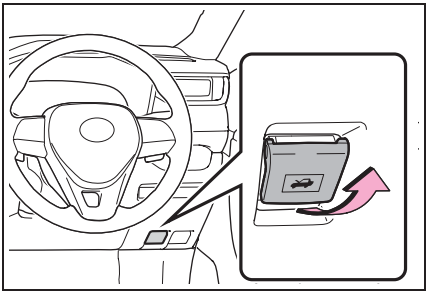
- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

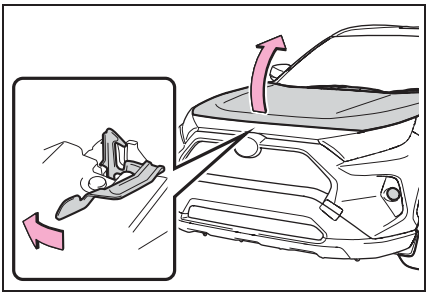
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

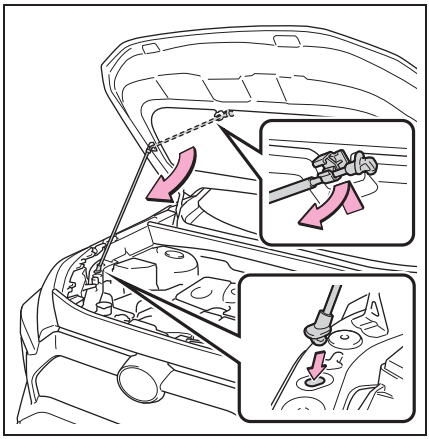
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引いてボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

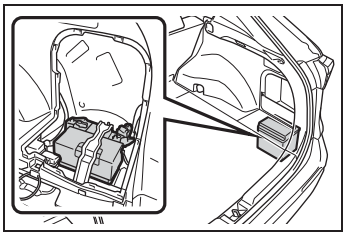


知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（運転席側）のラゲージサイドトレイ内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P.400）



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

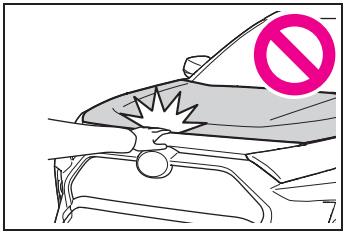
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■補機バッテリーの取り扱いについて

→P.327

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

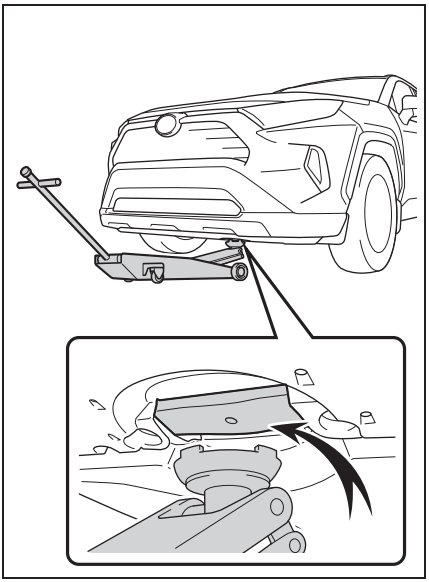
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

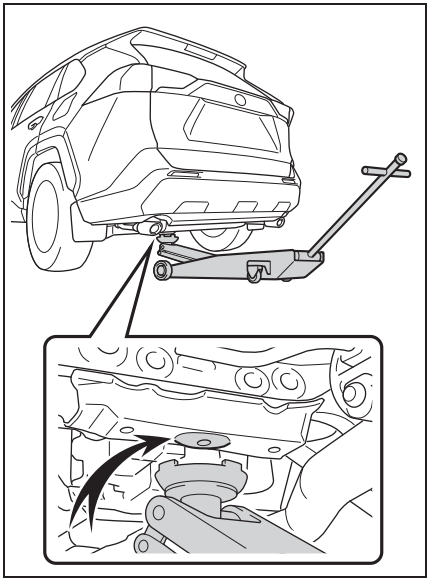
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



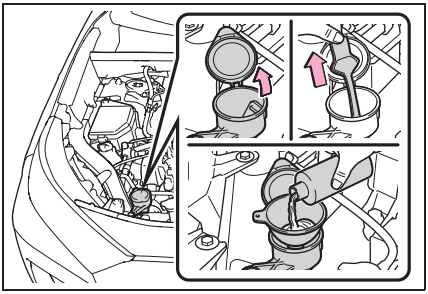
■ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充するには

液面が LOW の位置まで低下したら、ウォッシャー液を補充してください。

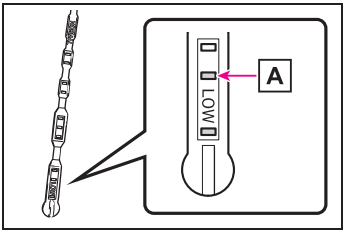


知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補充してください。



A 現在の液量

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステムが作動しているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

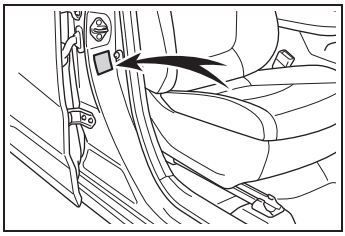
前輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

後輪：230kPa（2.3kg/cm^2）※

応急用★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない

●他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

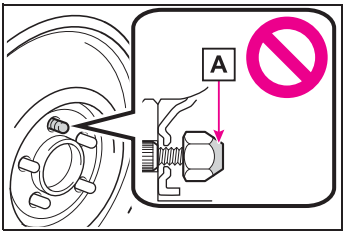
■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。

テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



A テーパー部

- ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

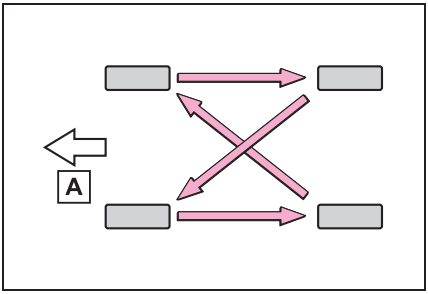
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



A 前側

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

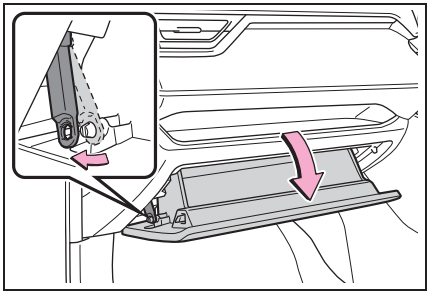
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

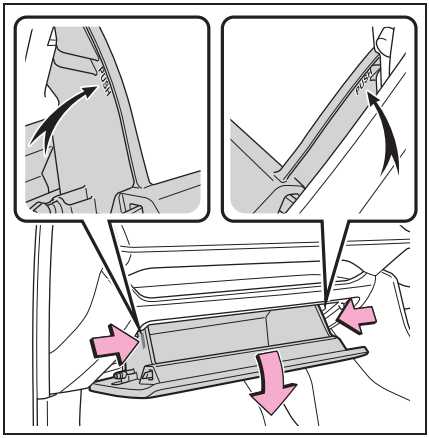
交換するには

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



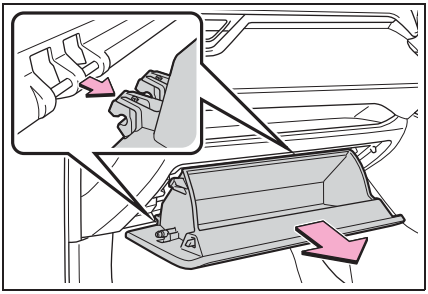
3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



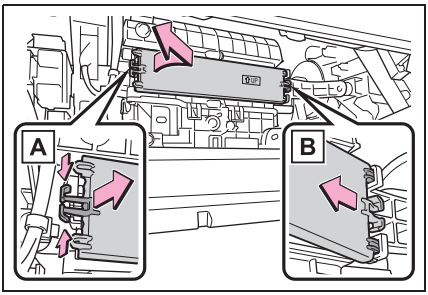
4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持

ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

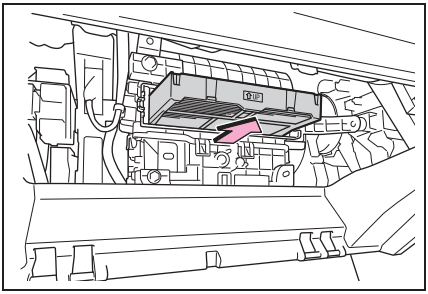
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



5 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

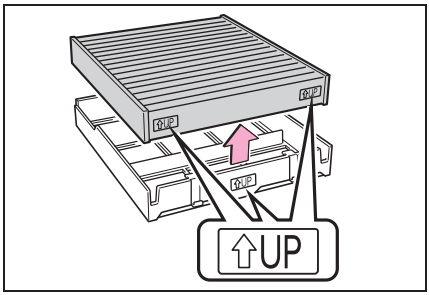


6 フィルターケースを取りはずす



7 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「⇧UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



8 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20000km[10000km※1] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

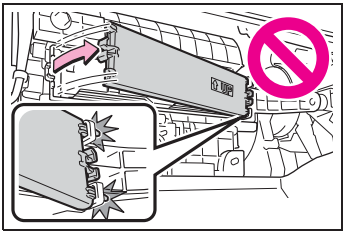
●フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→P.334）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの損傷を防ぐために

フィルターカバーを取りはずす際にフィルターカバーのツメに無理な力が加わらないように注意してください。ツメが損傷すおそれがあります。



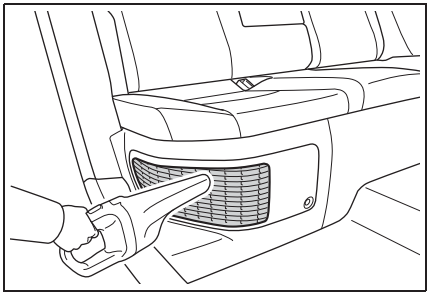
駆動用電池冷却用吸入口／フィルターの清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口にほこりがたまっていたり、目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

吸入口の清掃

掃除機などを使用して吸入口／フィルターのほこりを取り除く

必ず吸引してほこりを取り除いてください。エアガンなどを使用すると、ほこりが押し込まれてしまいます。（→P.339）

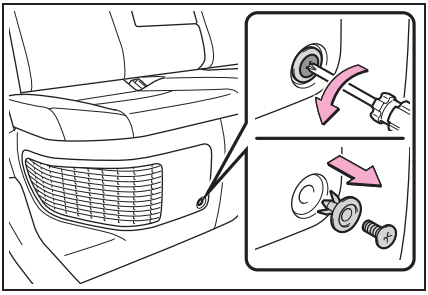


ほこりを取り除ききれないときは

次の要領で吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。

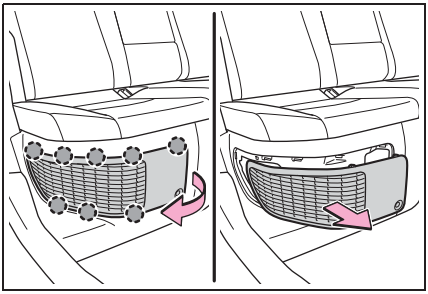
1 パワースイッチを OFF にする

2 プラスドライバーを使用してクリップを取りはずす



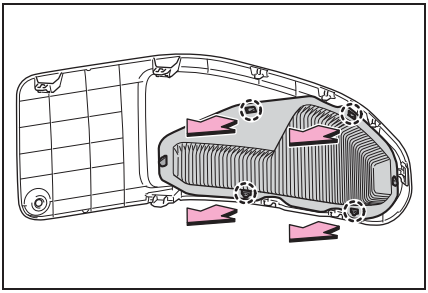
3 吸入口カバーを取りはずす

吸入口カバーを手前に引いて、図で示す8ヶ所のツメを右端からはずし、吸入口カバーを手前に引いて取りはずします。

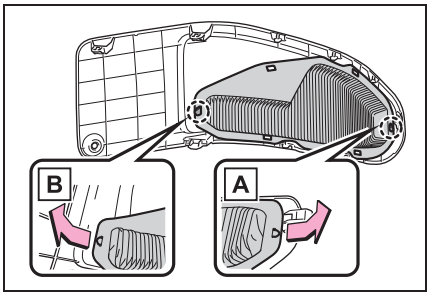


4 フィルターを取りはずす

吸入口カバーのツメからフィルター中央部（4ヶ所）をはずします。

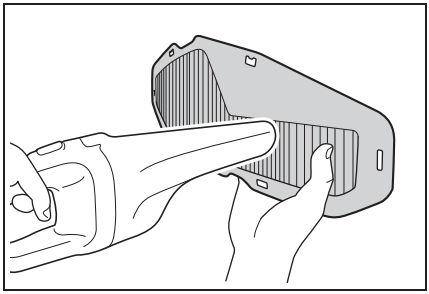


吸入口カバーのツメ**A**部をはずしてから**B**部をはずし、フィルターを取りはずします。



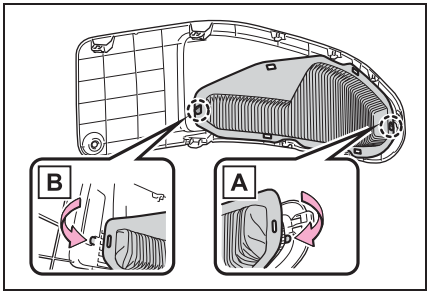
5 掃除機などでほこりを吸い込み、フィルターを清掃する

フィルターの清掃と併せて、吸入口カバーにたまったほこりも掃除機などで清掃してください。



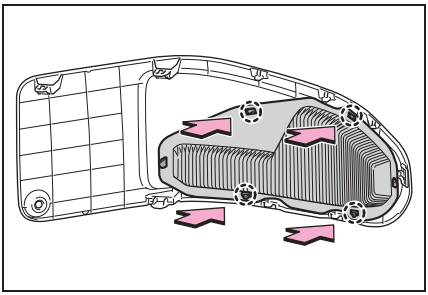
6 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

フィルターを吸入口カバーのツメ**B**部に取り付けてから**A**部を取り付けます。



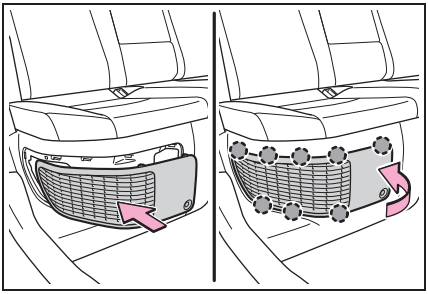
フィルター中央部（4ヶ所）を吸入口カバーのツメに取り付けます。

フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。

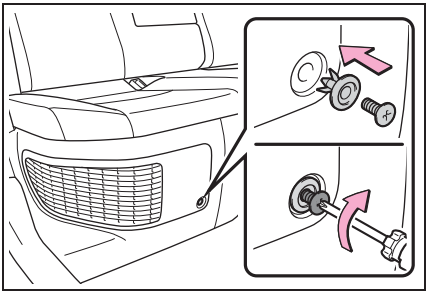


7 吸入口カバーを取り付ける

吸入口カバーの左端のツメを挿し込み、図で示す 8ヶ所のツメを取り付けてください。



8 プラスドライバーを使用してクリップを取り付ける



知識

■**定期的な清掃が必要なとき**

お車の仕様頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■**吸入口の清掃について**

●吸入口／フィルターにほこりがたまるなどして目づまりした状態で走行し続けると、駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかるなどすると、電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費性能の低下につながります。吸入口にほこりなどがたまらないよう、定期的に点検・清掃をしてください。

●誤った取り扱いをすると、吸入口のカバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■**マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは**

●吸入口カバーを取りはずして、フィルターを清掃してください。（→P.336）

●清掃したあとは、ハイブリッドシステムを始動してマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消えたことを確認してください。始動後に警告メッセージが再び表示され、表示が消えるまでに 20 分ほど走行が必要な場合があります。しばらく走行しても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**吸入口の清掃をするときは**

●水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

●清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。

■吸入口カバーを取りはずすときは

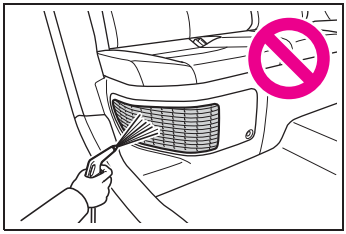
吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。（→P.78）

注意

■吸入口の清掃をするときは

必ず掃除機などで吸引してほこりを取り除いてください。

エアガンなどを使用するとほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の性能が低下したり、故障の原因になったりするおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

●吸入口カバーを取りはずしたときは、吸入口に水や異物などが入らないように注意する

●取りはずしたフィルターは損傷しないよう、慎重に取り扱う
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

●清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける

●この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

警告メッセージが表示されている状態（駆動用電池に入出力の制限がかかった状態）で走行を続けると、駆動用電池の故障の原因になる場合があります。
警告メッセージが表示されたときは、すみやかに清掃してください。

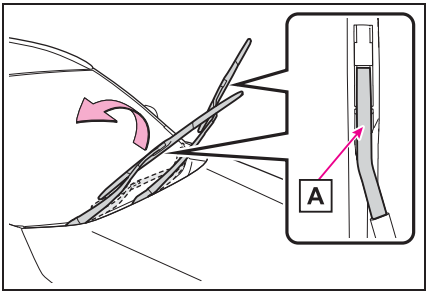
ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領で作業を行ってください。

フロントワイパー

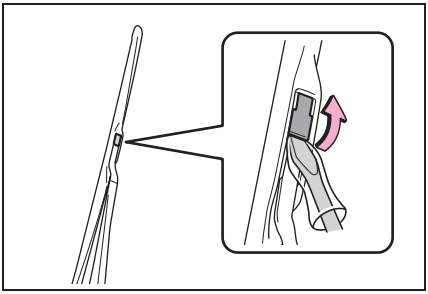
■ フロントワイパーブレードの脱着

1 フック部（A）を持ってワイパーアームを起こす



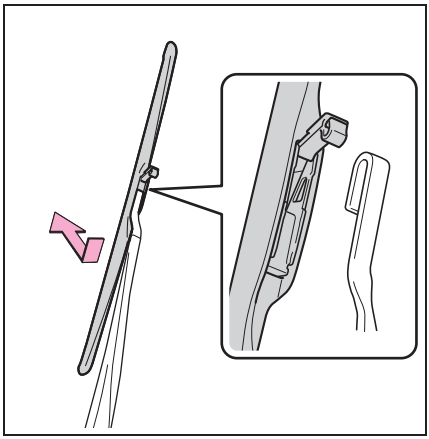
2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



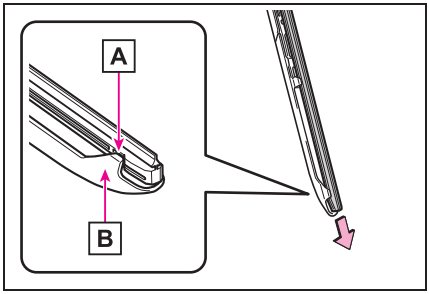
3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。



■ ワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



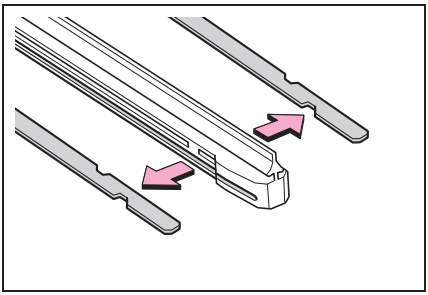
A ストッパー

B ツメ

2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認して

ください。

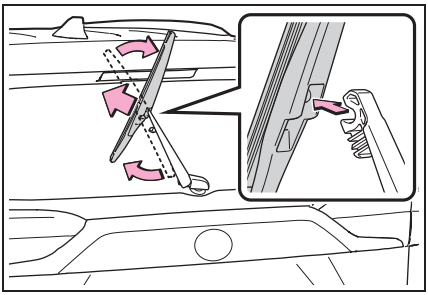


3 ストッパーがない側を先にして、ワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

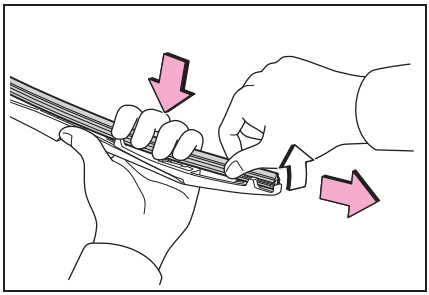
リヤワイパー

1 “カチッ” と音がしてツメのかみ合いがはずれる位置までワイパーブレードを起こし、ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

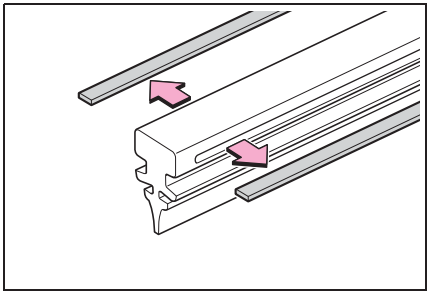


2 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

ワイパーブレードのツメとツメの中央付近を軽く握って押すとワイパーゴムが浮き上がり、引き抜きやすくなります。

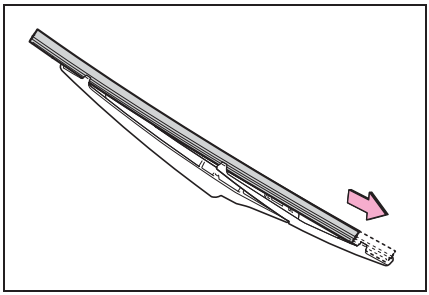


3 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



4 ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3 つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った 1 つのツメに通す

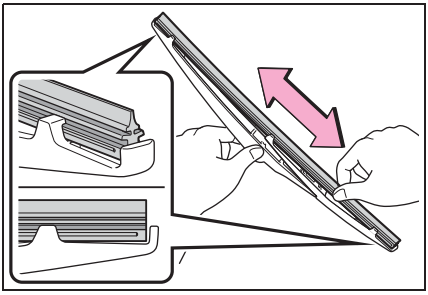
ワイパーゴムにウォッシャ液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



5 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。

ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



6 ワイパーブレードを取り付けるときは、**1** と逆の手順で取り付ける

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ワイパーアームを起こすときは

- ワイパーアームのフック部を持って引き上げてください。ワイパーブレードのみを持って引き上げるとブレードが変形するおそれがあります。
- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉したり、ワイパーが倒れたりして傷が付くおそれがあります。

■損傷を防ぐために

- ワイパーゴムを交換するときは、ツメの破損に注意してください。
- ワイパーブレードからワイパーアームを取りはずしたあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出して、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■**電子キーの電池が消耗していると**

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

● マイナスドライバー

● 小さいマイナスドライバー

● リチウム電池：CR2032

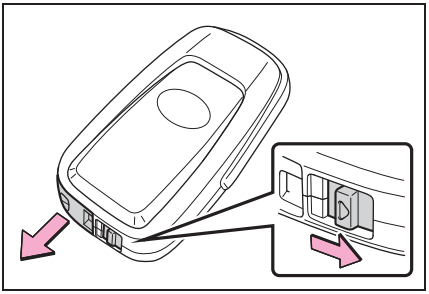
知識

■**リチウム電池 CR2032 の入手**

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

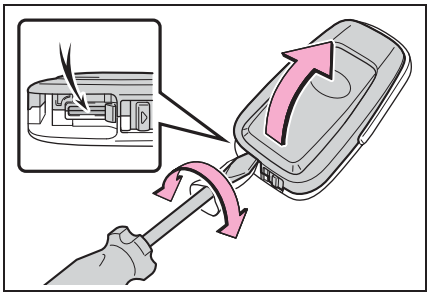
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

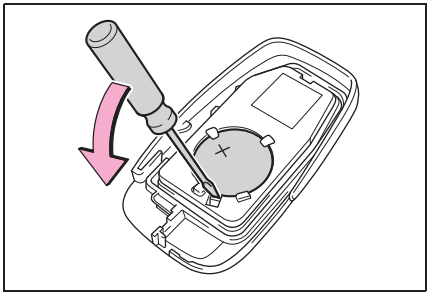


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

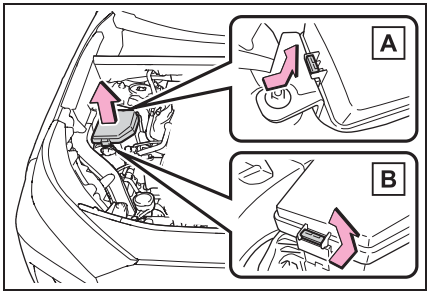
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

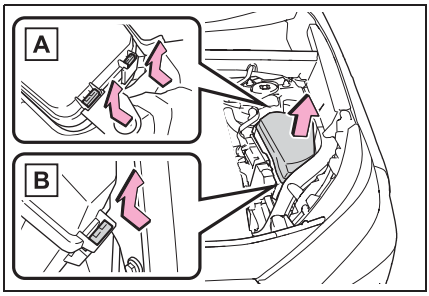
▶ エンジンルーム（運転席側）

ツメ A と B を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



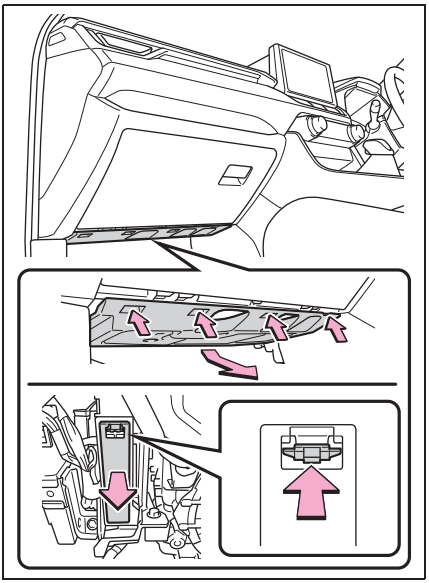
▶ エンジンルーム（助手席側）

ツメ A と B を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



▶ 助手席足元

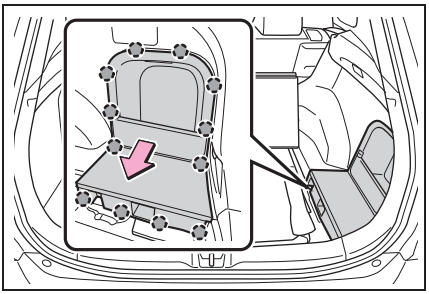
足元のカバーを取りはずします。



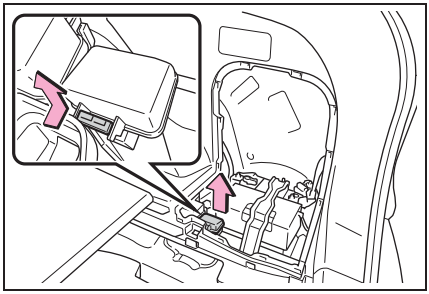
▶ ラゲージルーム

デッキボードを引き上げます。
(→P.298)

12 ケ所ツメを引いてはずし、サイドデッキボードを取りはずします。

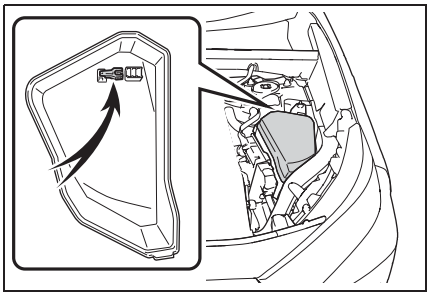


ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げます。



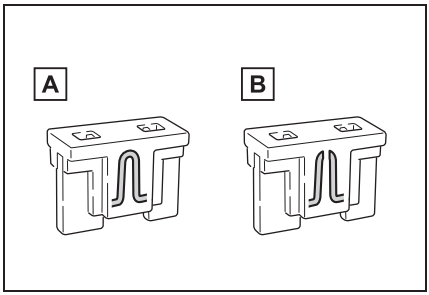
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

●カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.347)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンルームのヒューズボックスの損傷を防ぐために

ヒューズボックスを開けるときは、ツメのロックを完全にはずしてからカバーを持ち上げてください。ツメが損傷するおそれがあります。

電球（バルブ）の交換

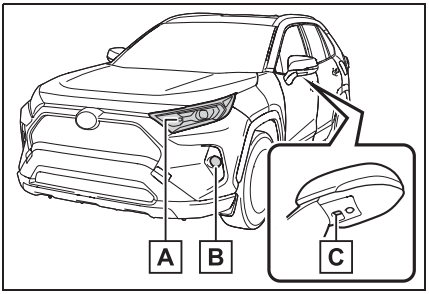
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.413）

電球の位置

▶ フロント



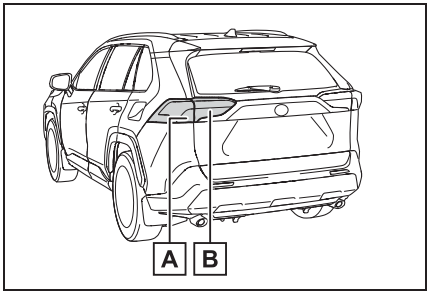
A フロント方向指示灯／非常点滅灯

B フロントフォグランプ★

C ドアミラー足元照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リヤ



A リヤ方向指示灯／非常点滅灯

B 後退灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ トヨタ販売店で交換が必要なランプ

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯／ LED デイライト
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- リヤフォグランプ★
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

次のランプ以外のランプは LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

- フロント方向指示灯／非常点滅灯

●フロントフォグランプ★

●ドアミラー足元照明★

●リヤ方向指示灯／非常点滅灯

●後退灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

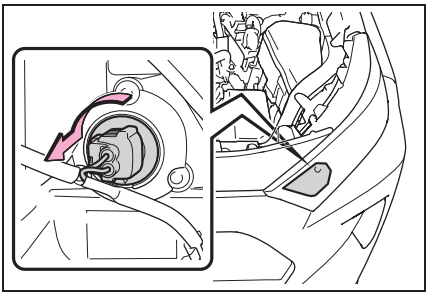
●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

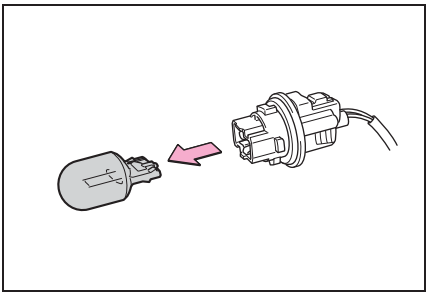
電球交換をするには

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

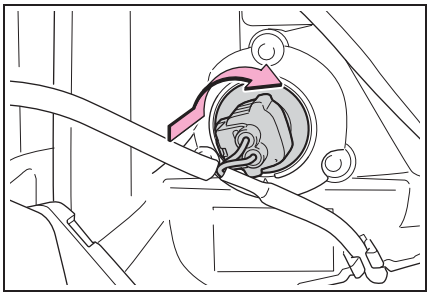
1 ソケットを左にまわして取りはずす



2 電球を取りはずす

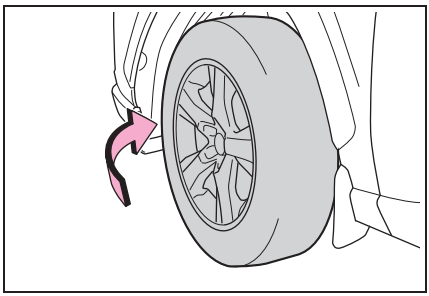


3 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

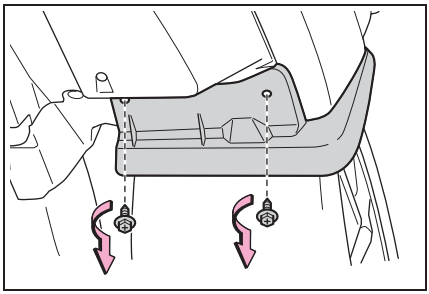


■ フロントフォグランプ★

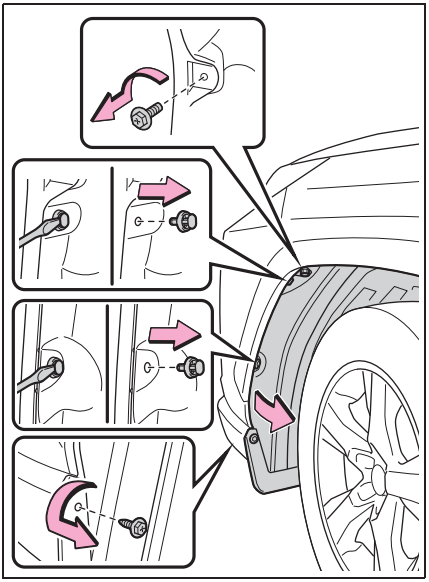
1 ハンドルをまわし作業スペースを確保する



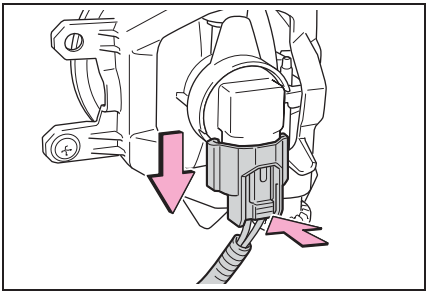
2 ネジを取りはずす



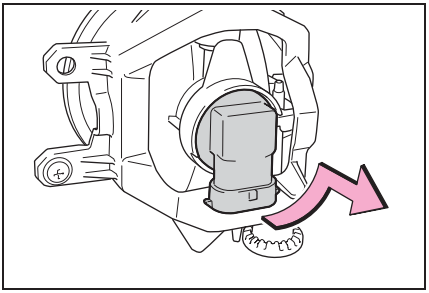
3 クリップとネジを取りはずしフェンダーライナーをめくる



4 コネクターを取りはずす

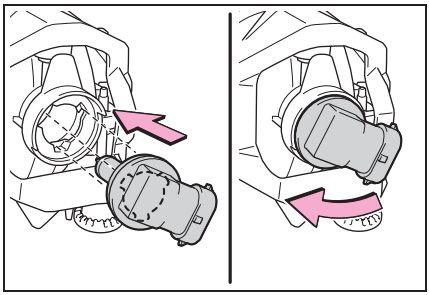


5 電球を左にまわして取りはずす



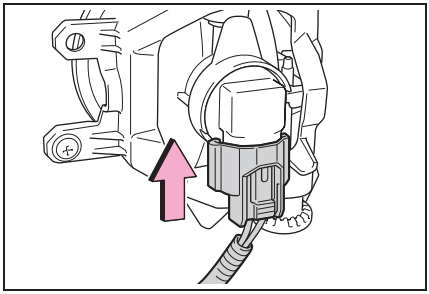
6 新しい電球を取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込みます。

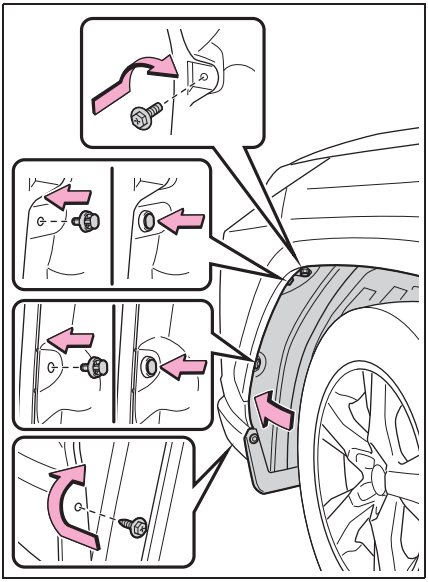


7 コネクターを取り付ける

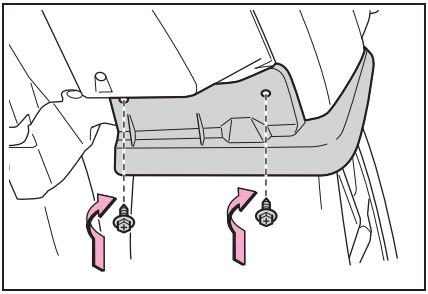
電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



8 フェンダーライナーをもとどおり取り付ける



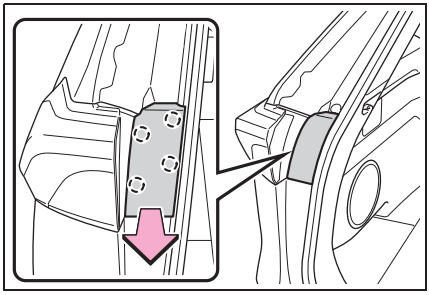
9 ネジを取り付ける



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

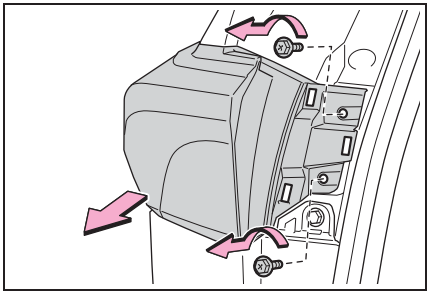
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

1 バックドアを開け、ランプ本体のカバーを取りはずす

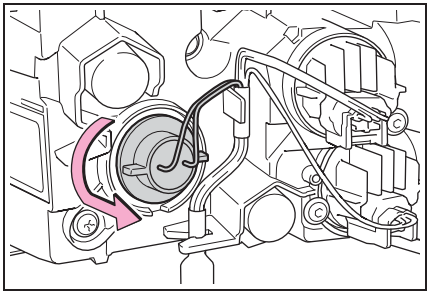


2 ネジを取りはずし、ランプ本体を取りはずす

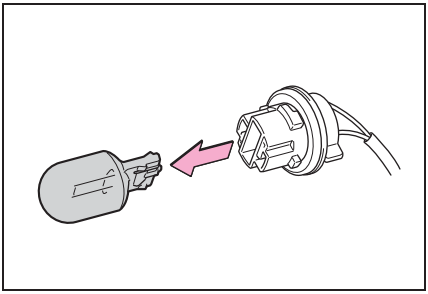
ランプ本体に手をかけて車両後方に引いて取りはずします。



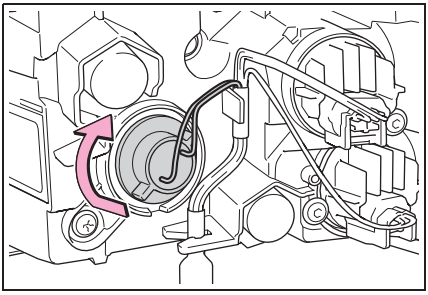
3 ソケットを左にまわして取りはずす



4 電球を取りはずす

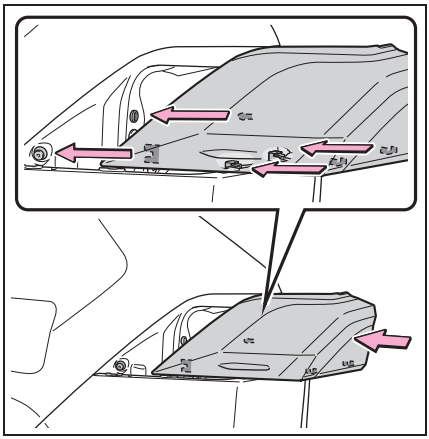


5 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける

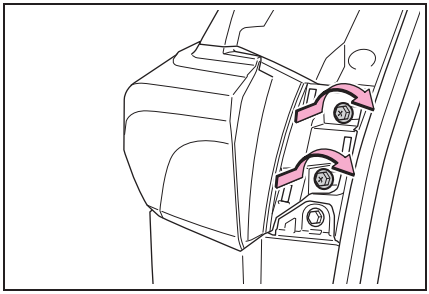


6 車体側のクリップをランプ本体の溝の位置に合わせてから、裏側にあるピンがはまるように、ランプ本体をまっすぐ押し込む

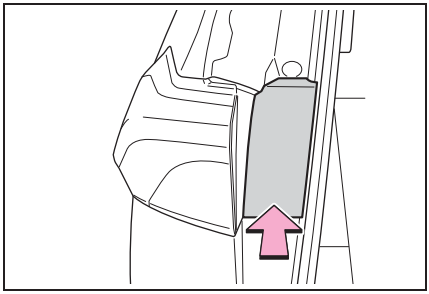
押し込んだあと、ランプ本体がしっかり固定されたことを確認してください。



7 ネジを取り付ける



8 ランプ本体のカバーを取り付ける

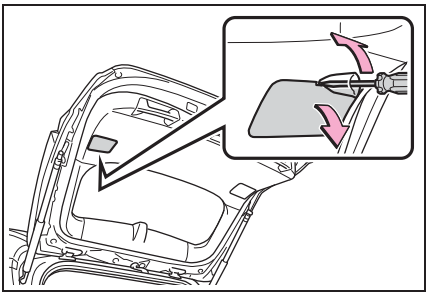


■ 後退灯

1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

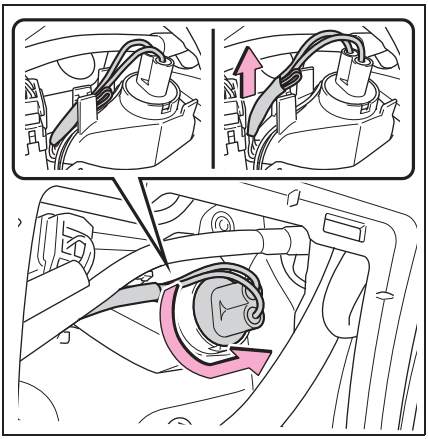
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護

してください。

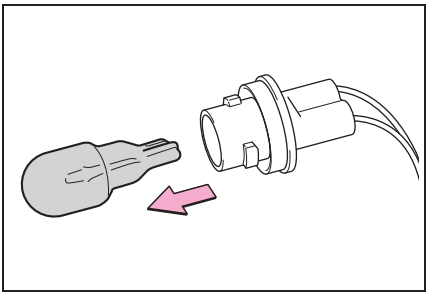


2 ソケットを左にまわして取りはずす

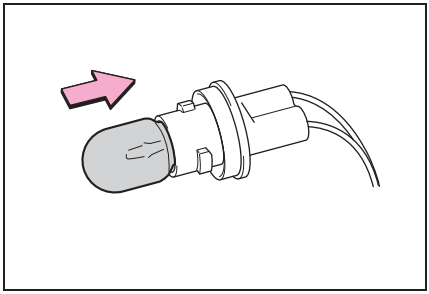
ソケットをまわす前に、配線をクリップからはずします。



3 電球を取りはずす

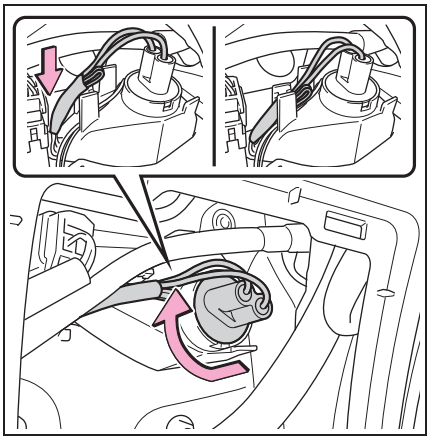


4 新しい電球を取り付ける

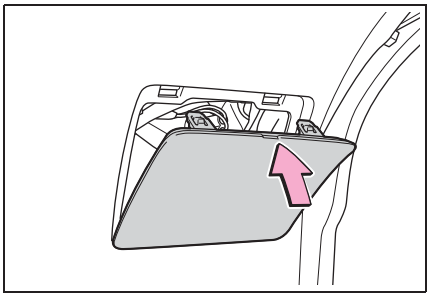


5 ソケットを挿し込み右にまわして取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、配線をもとどおりクリップで固定します。



6 カバーを取り付ける

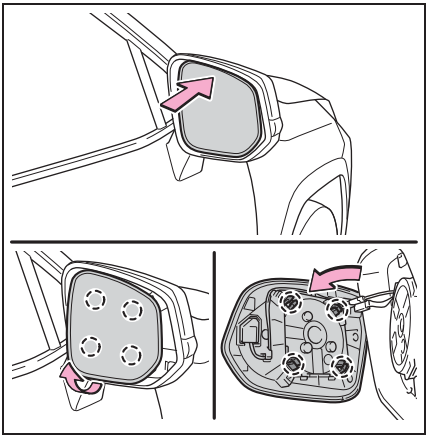


■ ドアミラー足元照明★

1 ミラーの上端を押して鏡面を上向きにし、ミラー裏側のツメ（4ヶ所）をはずす

ミラーを手前に引き出すようにして、2ヶ所ずつツメをはずします。

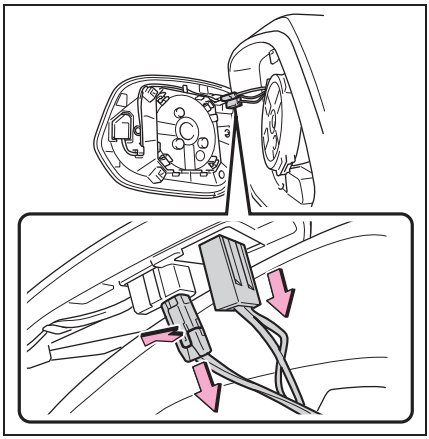
ミラーが急に落下しないよう、慎重に作業してください。



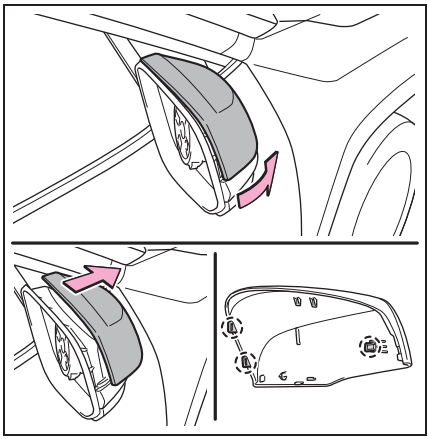
2 裏面にあるコネクターの接続をはずし、ミラーを取りはずす

組み付け時にコネクターの接続方向を間違えないように位置を確認しておきます。

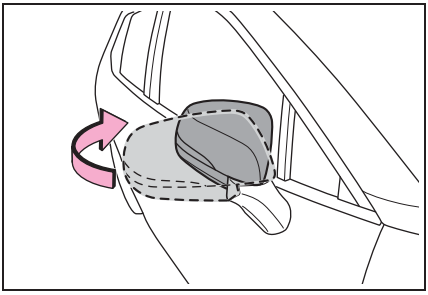
ミラーを落とさないように、慎重に作業してください。



3 ミラーカバーの裏側のツメをはずして、ミラーカバーを取りはずす



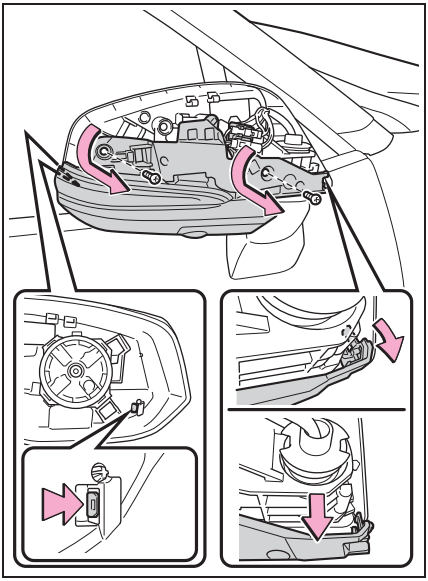
4 ランプユニットを取りはずす前に、ミラー本体を格納する



5 ランプユニットを取りはずす

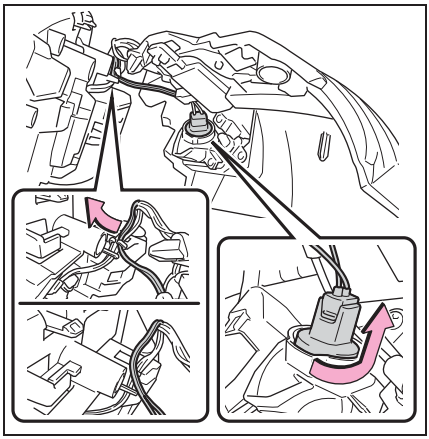
ネジ（2 本）を取りはずし、マイナスドライバーでツメ（2ヶ所）をはずして、ランプユニットを取りはずします。

ツメを損傷しないよう、慎重に作業してください。

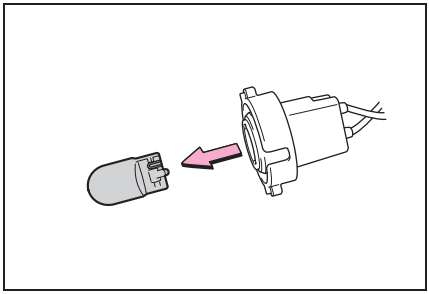


6 ソケットを取りはずす

ソケットをまわす前に、配線をクリップからはずします。



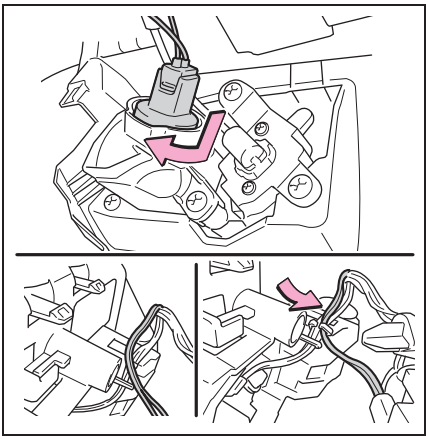
7 電球を取りはずす



8 新しい電球を取り付け、ソケットをランプユニットに挿し込み右にまわして取り付ける

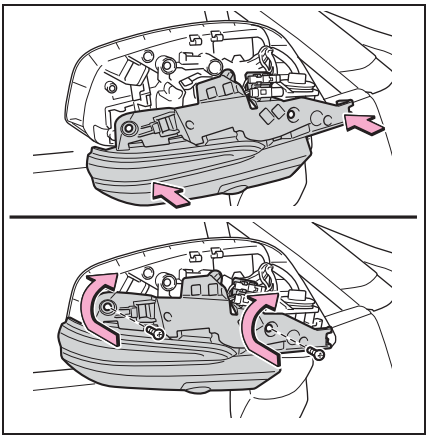
ソケットを取り付けたあとは、配線をも

とどおりにクリップで固定します。

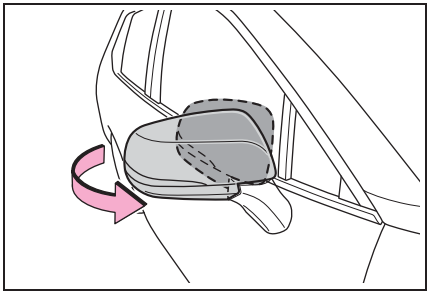


9 ランプユニットを取り付ける

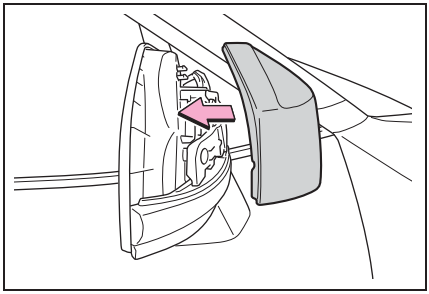
ランプユニットのツメ（2ヶ所）がしっかりとかみ合っていることを確認し、ネジ（2 本）を取り付けます。



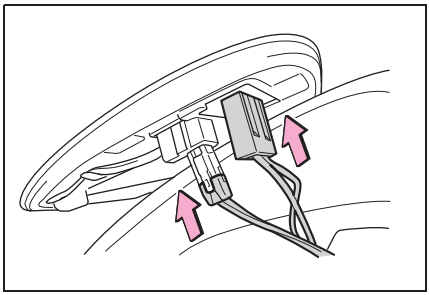
10ミラー本体を復帰状態にもどす



11ミラーカバーを取り付ける



12ミラーのコネクターを接続する

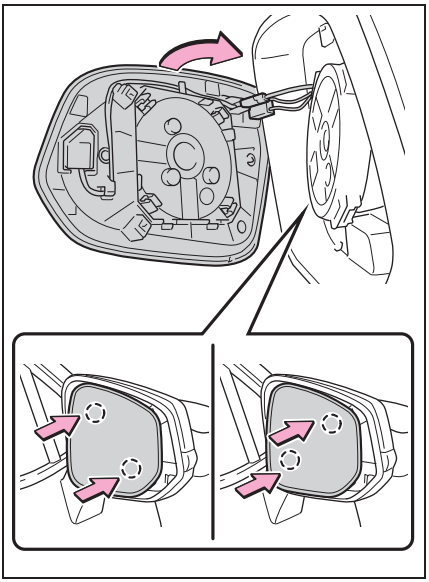


13ツメの位置を合わせ、対角の2ヶ所ずつ順番に鏡面を押し込んで、ミラーを固定する

必ず図の順序で 2ヶ所を同時に押し込み、パチッと音がしてツメが固定されたことを確認してください。

音が確認できないときは、無理に押し込まずにいったんミラーをはずして、ツメ

の位置が合っているか確認してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■電球を交換するとき

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは 358
非常点滅灯（ハザードランプ）359
発炎筒..... 359
車両を緊急停止するには..... 360
水没したときは 361

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 362
警告灯がついたときは..... 367
警告メッセージが表示されたときは 374
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 377
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）..... 388
ハイブリッドシステムが始動できないときは 395
キーをなくしたときは..... 397
給油扉が開かないときは..... 397
電子キーが正常に働かないときは 398
補機バッテリーがあがったときは 400
オーバーヒートしたときは..... 404
スタックしたときは..... 407

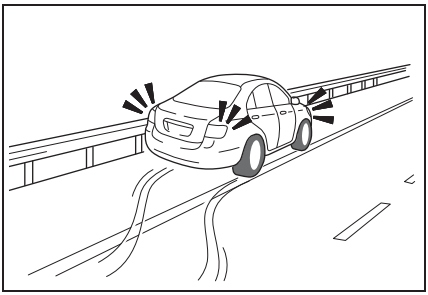
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.359）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

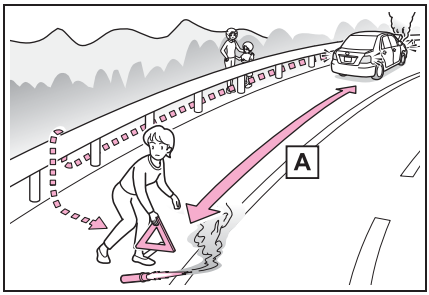
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.359）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

3 その後、ガードレールの外側などに避難する

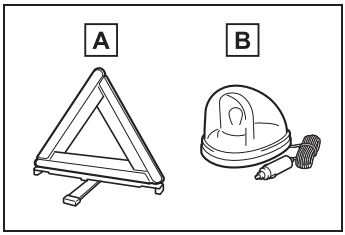


知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



A 停止表示板

B 停止表示灯

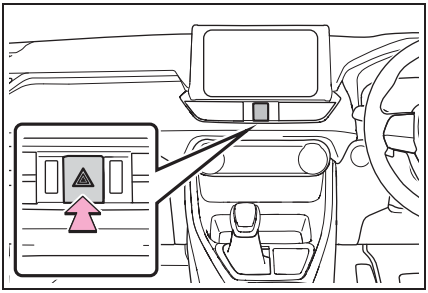
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります

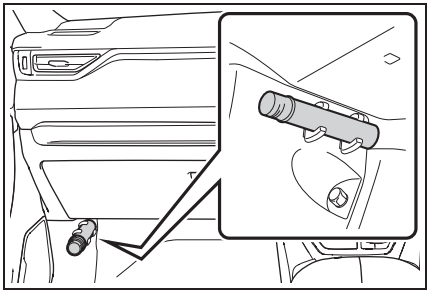
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

発炎筒

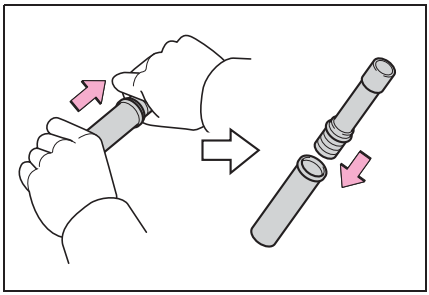
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



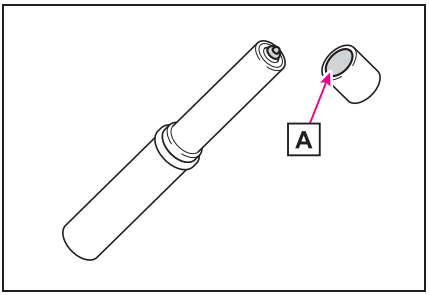
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

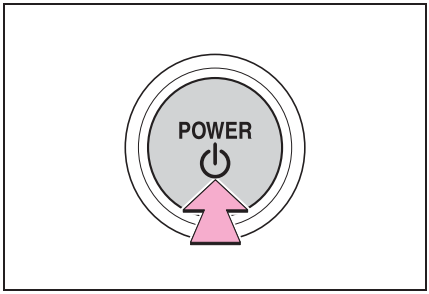
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

警告

■**緊急脱出用ハンマー※の使用について**

この車両のフロントドアガラス・リヤドアガラス・リヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー※で割ることはできますが、フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■**窓から車外に出るときは**

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

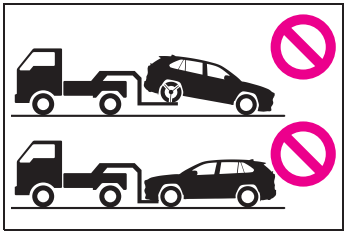
警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

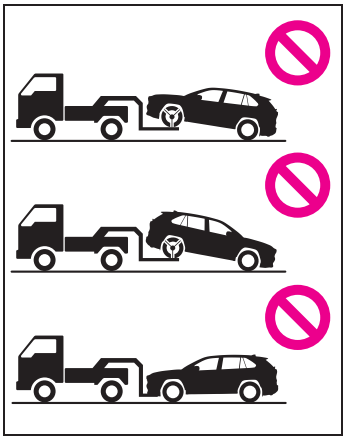
▶FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

▶ FF 車

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

▶ 4WD 車

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

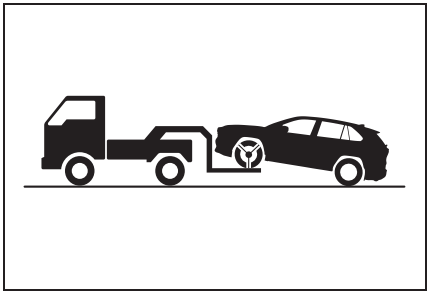
次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

● ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない

● 異常な音がする

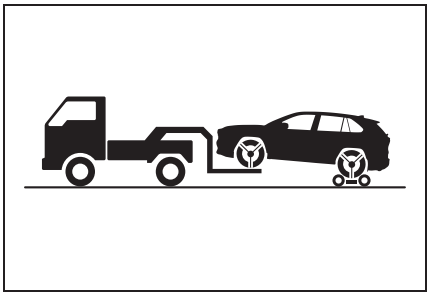
レッカー車でけん引するには

▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）



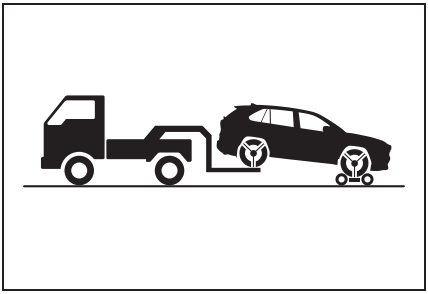
パーキングブレーキを解除する

▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

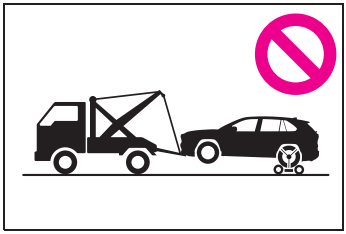


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

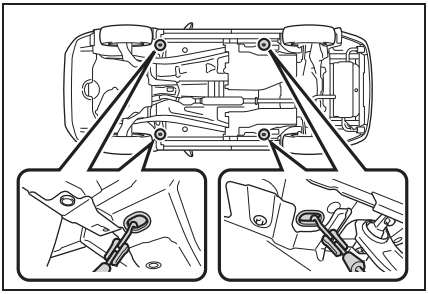
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

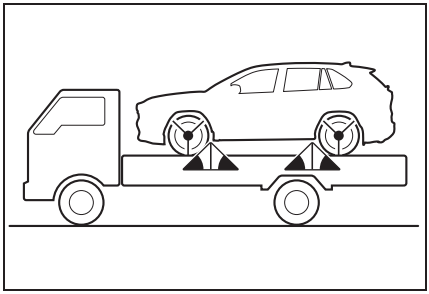


車両運搬車を使用するには

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



⚠ 注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

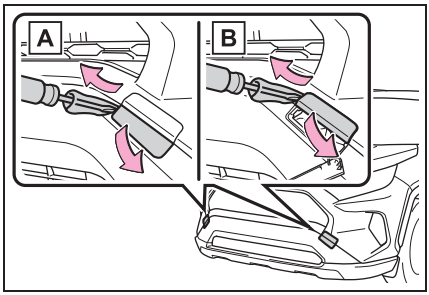
他車にけん引してもらうには

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

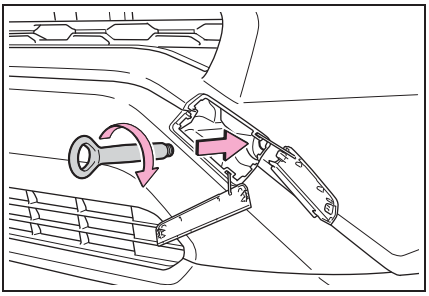
1 けん引フックを取り出す (→P.379, 389)

2 マイナスドライバーを使って A のフタをはずしてから B のフタをはずす

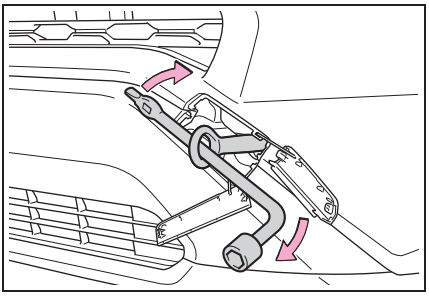
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

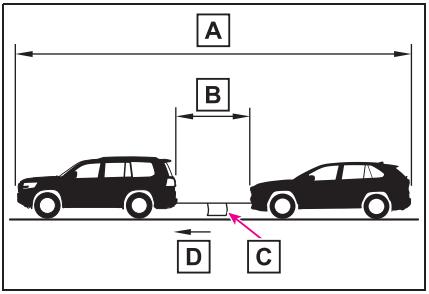


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.189

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

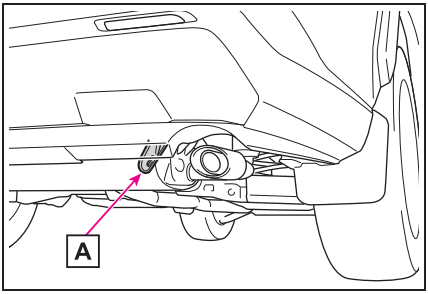
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。
（→P.379, 389）

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



A 緊急用フック

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	●パーキングブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●回生ブレーキシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 充電警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	マルチインフォメーションディスプレイに「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください」が表示されているか確認する メッセージの表示がない場合： 充電系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。** メッセージが表示されている場合： 補機バッテリーあがりのおそれ → P.375

■ 高水温警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.404）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの過熱 **→ 安全な場所に停車し、対処方法（→P.406）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色／黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.213, 376）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P.220**

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.213）**

■ クリアランスソナー OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
P OFF（点滅）	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.251, 374）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
OFF（点滅）	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.251, 374）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
RCTA OFF（点滅）	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.243）に汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.243, 374）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC システムの異常 ●TRC システムの異常 ●トレイルモードの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／PKSB★警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	ブレーキオーバーライドシステム アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことによりブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ドライブスタートコントロール アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールが作動（警告ブザー） **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	PKSB★ PKSB（パーキングサポートブレーキ［静止物］）が作動した（→P.258） **→ 表示された画面の指示に従ってください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 8.3L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のままの場合は、ブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
いったん着用したリヤ席シートベルトをはずした状態で、かつ、車速が約 20km/h 以上のとき、警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。断続音が鳴り終わるまでにリヤ席シートベルトを再着用しなかった場合は、ブザーの音がかわり、さらに 30 秒間鳴ります。

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき ※

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

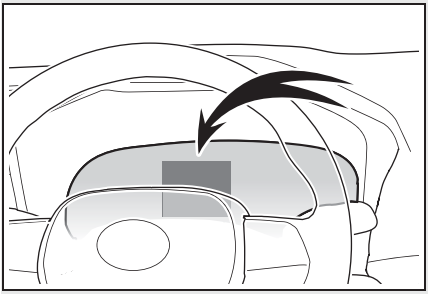
※ 警告灯は赤色と黄色が、警告ブザーは単発音と断続音があります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

ブレーキオーバーライドシステム・ドライブスタートコントロール・PKSB（パーキングサポートブレーキ）★が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.175, 175, 254）。
画面の指示に従って対処してください。

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けて

ください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●「エンジン冷却水高温」が表示されたときは、対処方法に従ってください。（→P.404）

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
・「ハイブリッドシステム故障」
・「エンジン系故障」
・「バッテリー系故障」
・「アクセル系故障」
・「ハイブリッドシステム停止」
・「エンジン停止」
・「スマートエントリー＆スタートシステム故障」

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・「エンジン油圧不足」
・「故障のためブレーキ力が低下」

●「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、冷却用の吸入口／フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。
・駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れている場合は、P.336 を参考に清掃を行ってください。
・駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。
・数秒後※に表示が消えたときは：
約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
・表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→P.400）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

■「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたときは

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂の走行中や、後退方向での登坂中など）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.404

■「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたときは

一定時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたときは

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時は P にしてください。

■「N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切りかえてください」が表示されたときは

シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D または R にしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を off しました」が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。
この場合、次回のハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■「エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください」が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■「前方カメラ一時使用不可　しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可　取扱書を確認ください」が表示されたときは

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法 →P.213, 367）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●オートマチックハイビーム

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール一時使用不可 取扱書を確認ください」が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法：→P.213）

■「クルーズコントロール現在使用できません」が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■警告ブザーについて

→P.373

警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは

→P.373

⚠注意

■「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です」がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「補機バッテリー（始動用）充電不足取扱書確認ください」がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.378）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠警告

■タイヤがパンクしたとき

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する

● 非常点滅灯を点滅させる（→P.359）

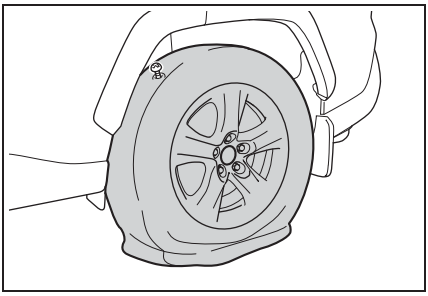
● パワーバックドア装着車は設定を OFF にする（→P.135）

● タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■ **応急修理キットで修理できないパンク**

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

● タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

● タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

● タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

● タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

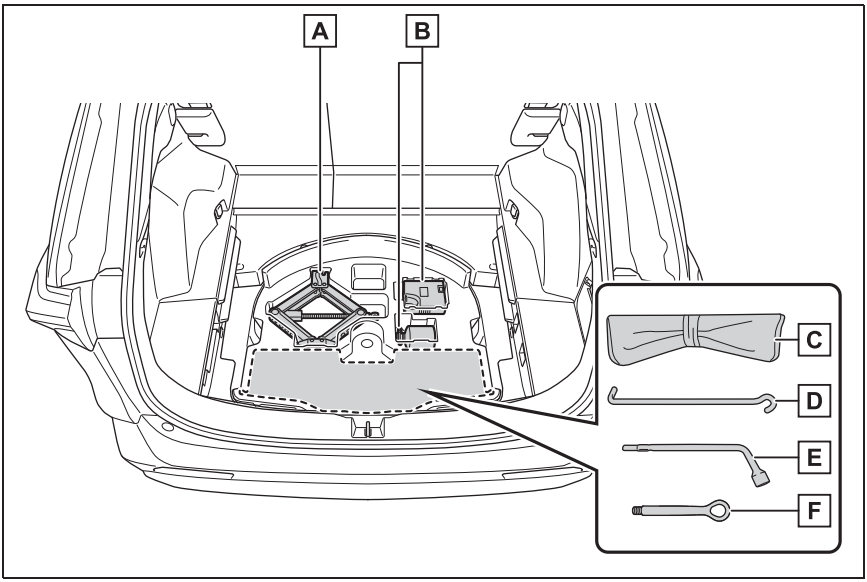
● ホイールが破損しているとき

● 2本以上のタイヤがパンクしているとき

● 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

● 補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



A ジャッキ ※

※ ジャッキの使い方（→P.391）

B タイヤパンク応急修理キット

C 工具袋★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

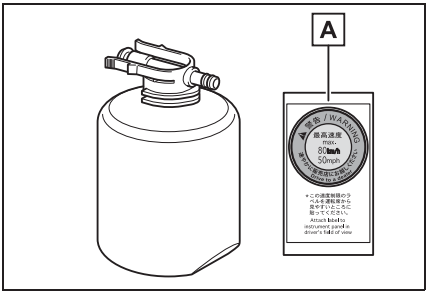
D ジャッキハンドル

E ホイールナットレンチ

F けん引フック

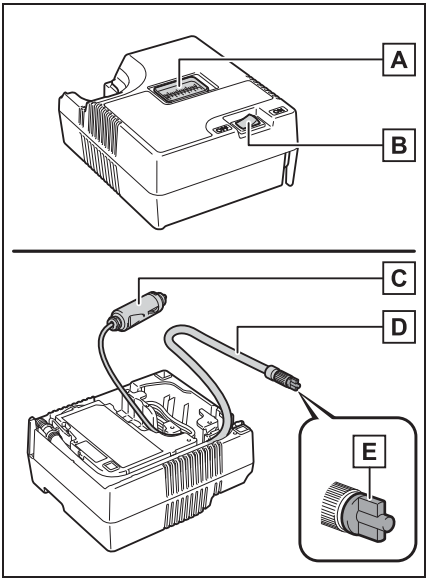
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル



A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、ま

たは都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出して破損し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

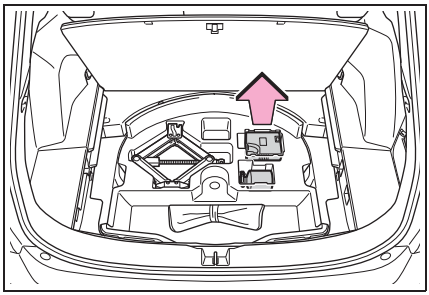
●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットを取り出すには

1 デッキボードを開く
(→P.298)

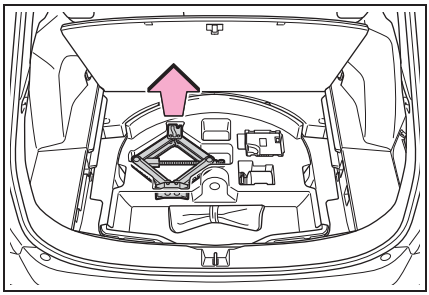
2 デッキアンダートレイから応急修理キットを取り出す



ジャッキを取り出すには

デッキアンダートレイからジャッキを取り出す

ジャッキのねじ部に付いているグリースにふれないように注意してください。

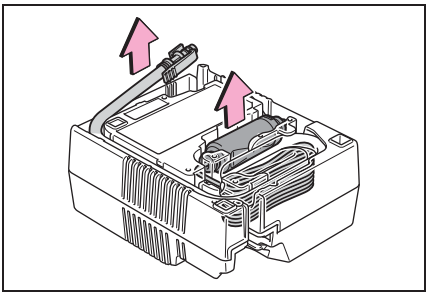


応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

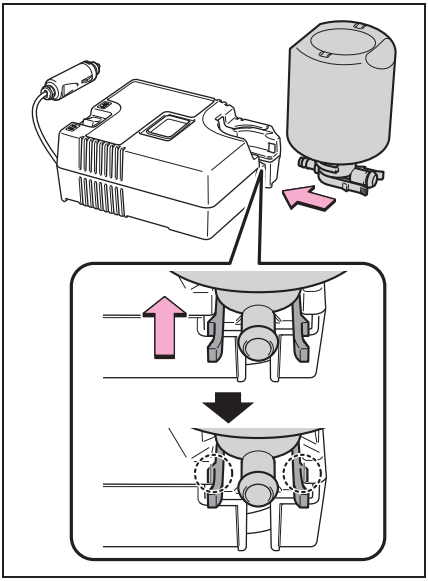
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



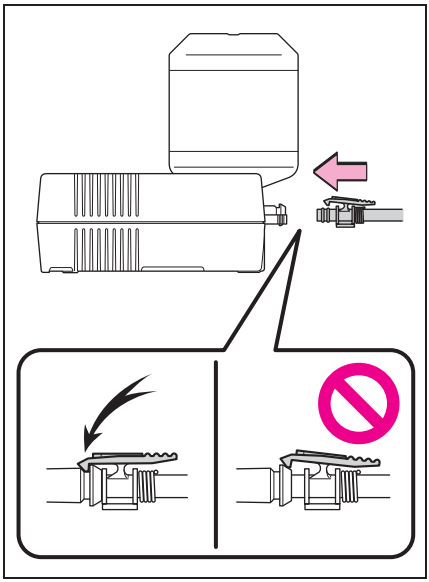
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

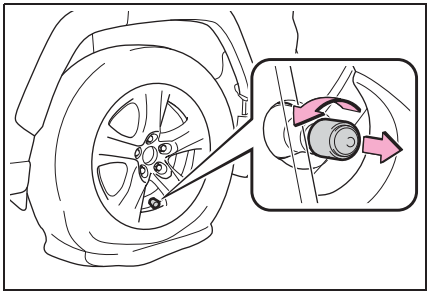


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。



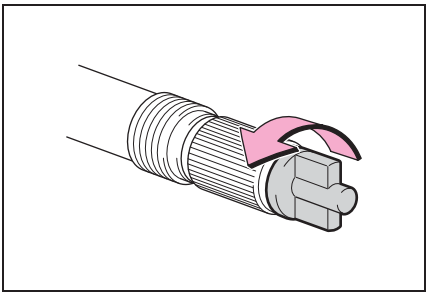
5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

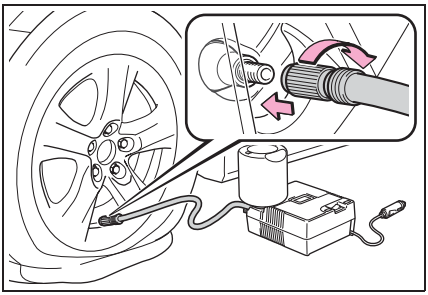
空気逃がしキャップは再度使用するため、

なくさないように保管してください。

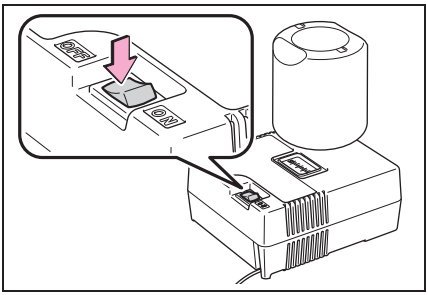


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

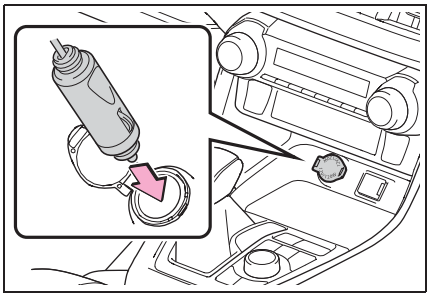
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



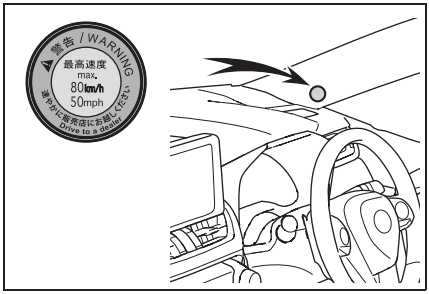
8 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.302）

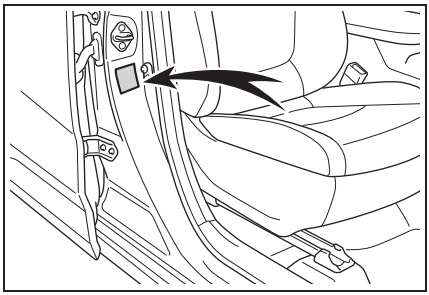


10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



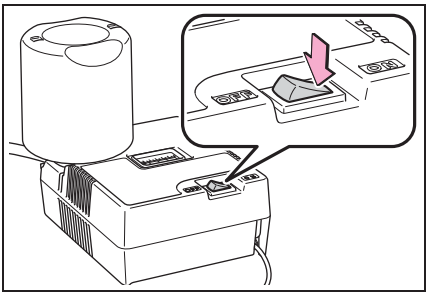
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.331）

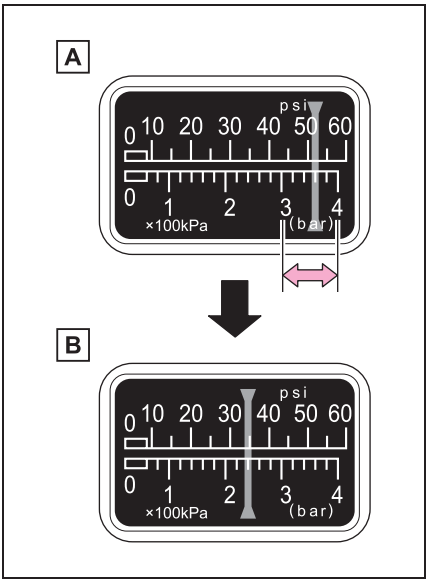


12 ハイブリッドシステムを始動する（→P.182）

13 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が300～400kPa（3.0～4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチをONにしてから約1～5分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチをOFFにしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約5～20分です（外気温により異なります）。25分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチをOFFにして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P.331, 385）

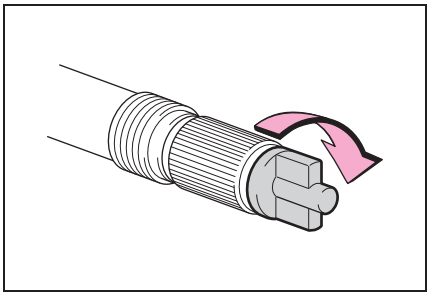
15 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

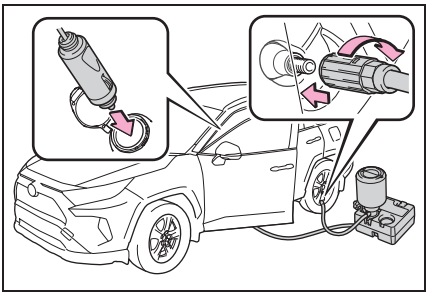


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

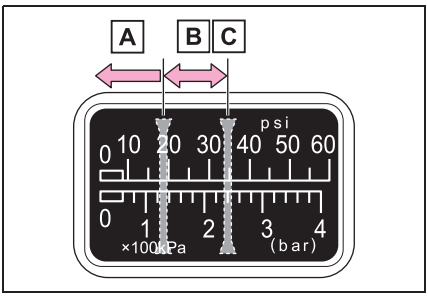
19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度80km/h以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください。



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにしてから再度OFFし、空気圧を確認する



A 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

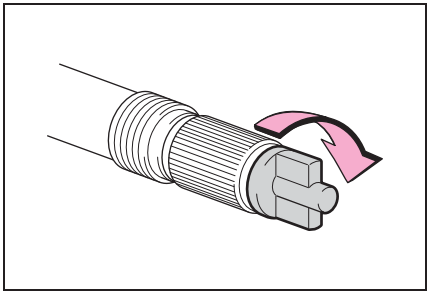
B 空気圧が130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順**22**へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.331）の場合：手順**23**へ

22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順**20**から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約100km以内、80km/h以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

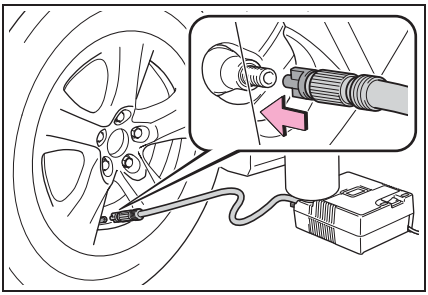
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P.331 を参照してください）

警告

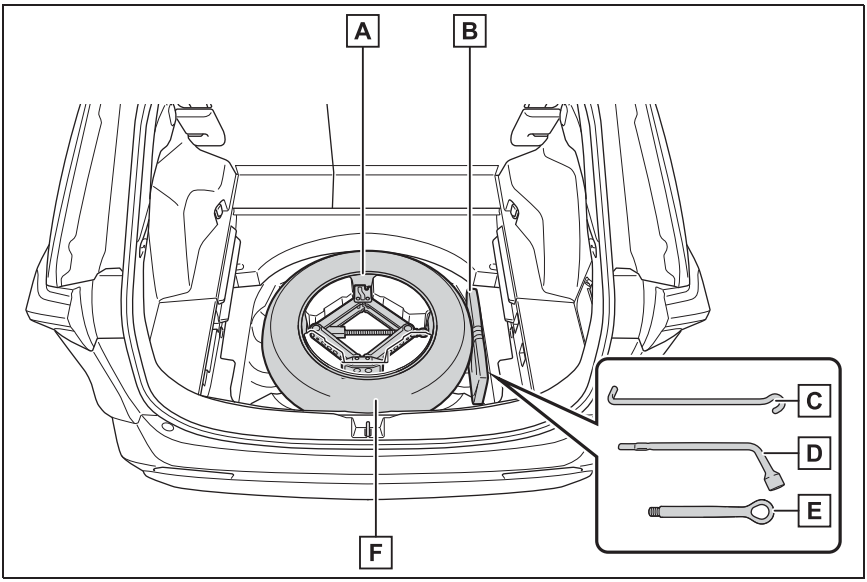
■タイヤがパンクしたとき

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.359）
- パワーバックドア装着車はパワーバックドアの設定を OFF にする（→P.135）

工具とジャッキの位置



A ジャッキ

B 工具袋

C ジャッキハンドル

D ホイールナットレンチ

E けん引フック

F 応急用タイヤ

警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

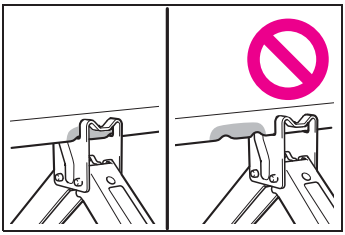
●備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない

●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない

警告

- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける



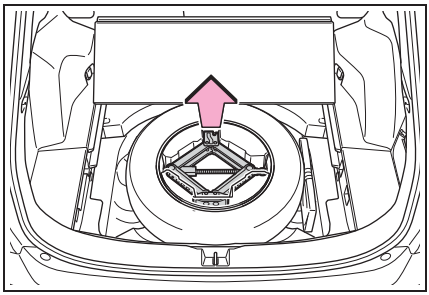
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキを取り出すには

1 デッキボードを開く（→P.298）

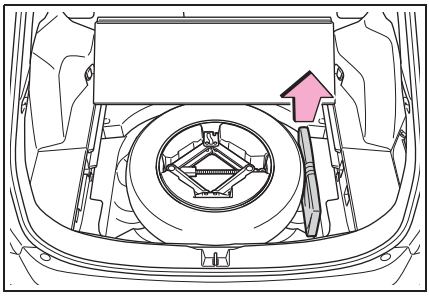
2 ジャッキホルダーからジャッキを取りはずす

ジャッキのねじ部に付いているグリースにふれないように注意してください。



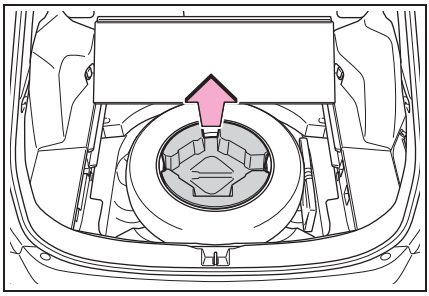
工具を取り出すには

工具袋を引き上げる

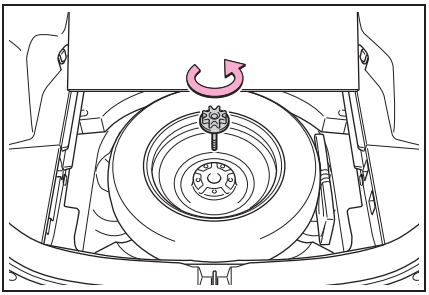


応急用タイヤを取り出すには

1 ジャッキホルダーを取り出す



2 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



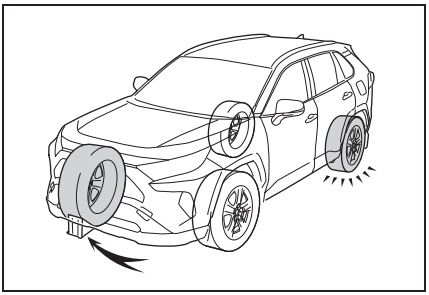
警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤを交換するには

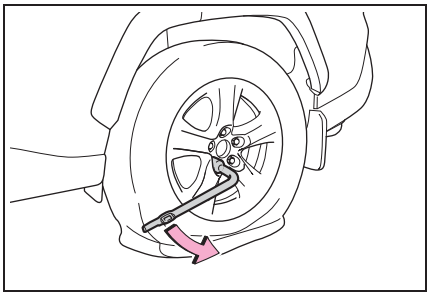
1 輪止め※をする



パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

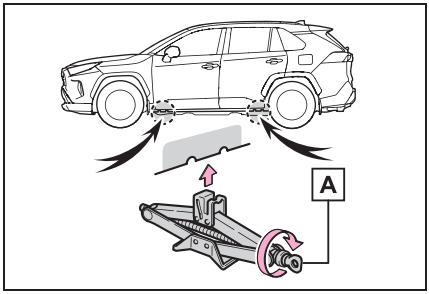
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



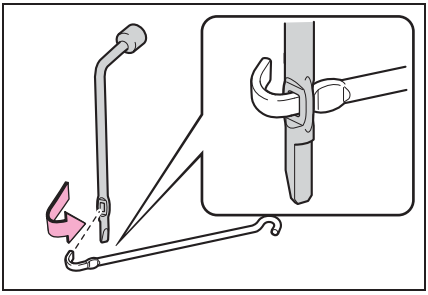
3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける

ジャッキホルダーからジャッキを取り出したときは、ジャッキの A 部を逆方向にまわしてジャッキの高さを下げてからジャッキセット位置に合わせてください。

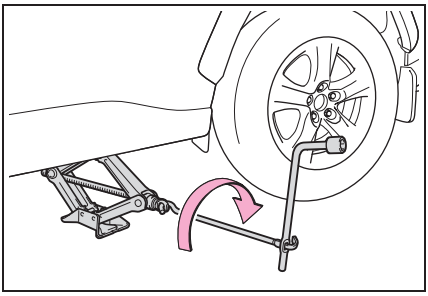
ジャッキセット位置は車両下部の図の位置にあります。



4 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる

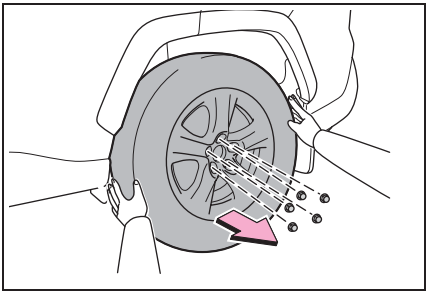


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→P.332）

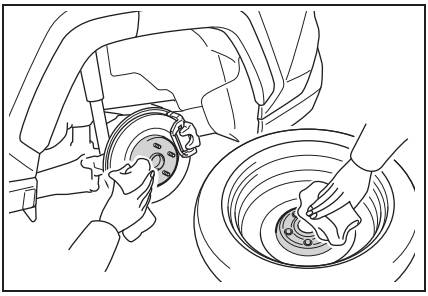
■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.135）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

応急用タイヤを取り付けるには

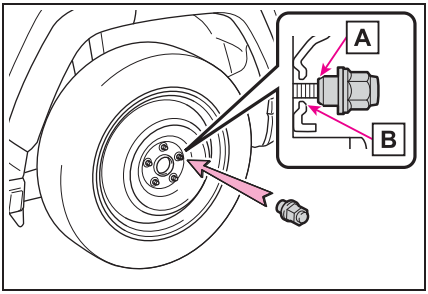
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

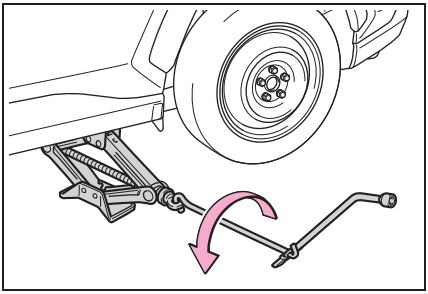


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤがたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部（A）がホイールのシート部（B）に軽くあたるまでまわします。

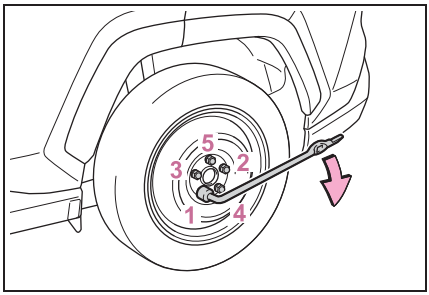


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P.412）

■応急用タイヤを装着しているとき

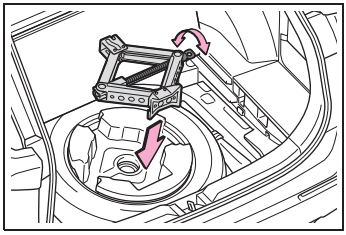
応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときはご注意ください。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤと交換する
2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■ジャッキを収納するときは

ジャッキをジャッキホルダーに収納するときは、ジャッキホルダーの形状に合わせてジャッキの高さを調整してください。



警告

■応急用タイヤを使用するとき

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・TRC
・EPS
・オートマチックハイビーム
・PCS（プリクラッシュセーフティ）
・LTA（レーントレーシングアシスト）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
・BSM（ブラインドスポットモニター）★
・クリアランスソナー★
・パーキングサポートブレーキ★

また、4WD システム★は、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.182）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.137）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.82）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.396）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.400）

● 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.400）

● 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.192）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 パワースイッチを ACC にする

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

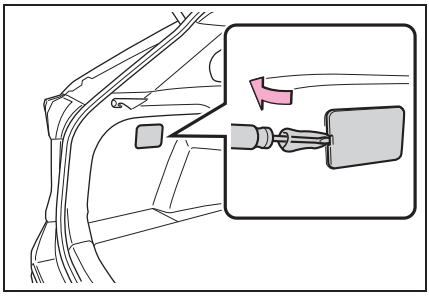
給油扉が開かないときは

給油扉オープナースイッチを押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

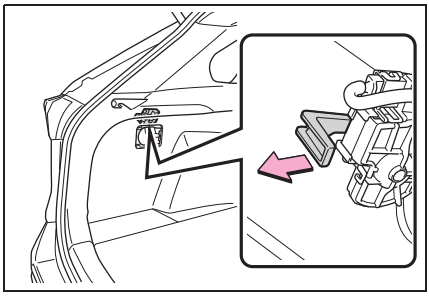
給油扉を開くには

1 ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバーを引く



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.138）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないとき

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.417）

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.138）

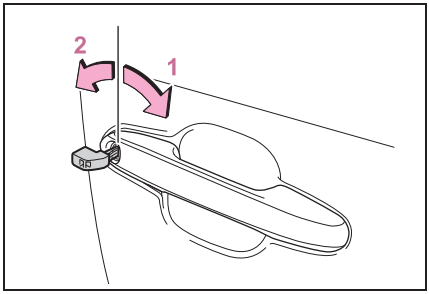
注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

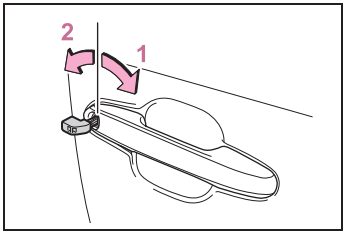
メカニカルキー（→P.118）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスとムーンルーフ★／パノラマムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

2 ドアガラスとムーンルーフ★／パノラマムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

警告

■**メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフ★／パノラマムーンルーフ★を操作するとき**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

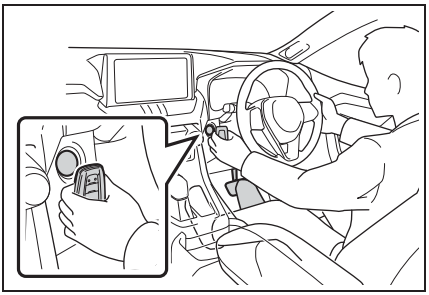
ハイブリッドシステムを始動するには

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■**ハイブリッドシステムの停止方法**

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけてパワースイッチを押します。

■**電子キーの電池交換**

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.343）

■**オートアラームについて**

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.83）

■**パワースイッチのモードの切りかえ**

ハイブリッドシステム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.185）

補機バッテリーがあがったときは

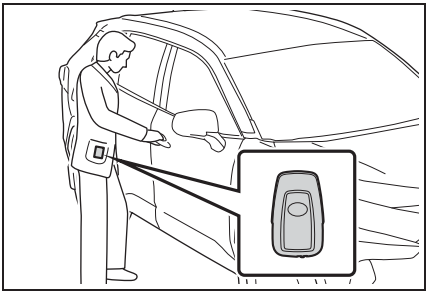
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

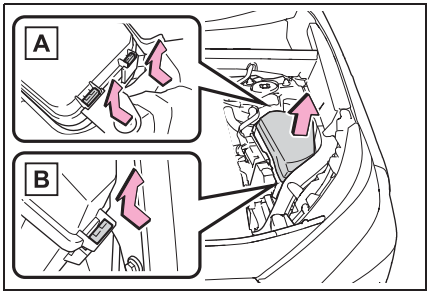
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.84）

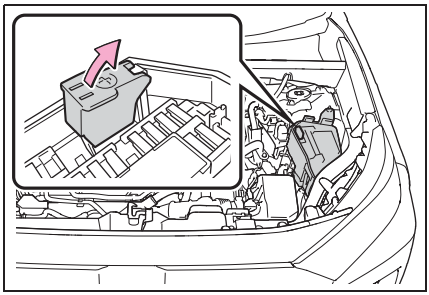


2 ボンネットを開けて（→P.327）、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメ A と B を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。

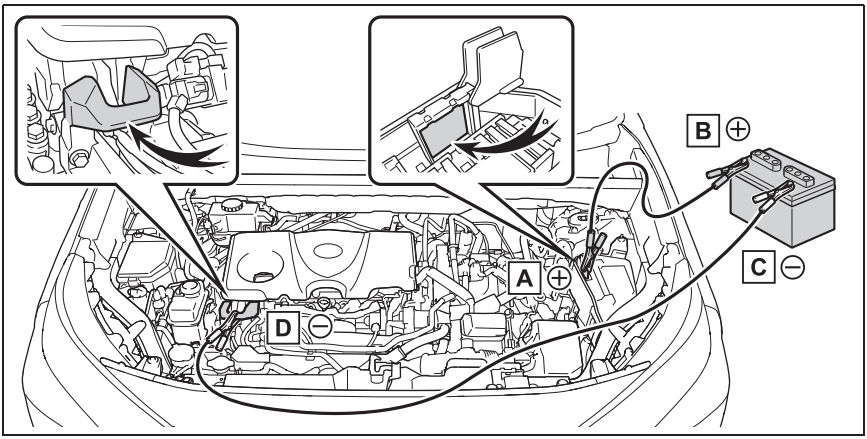


3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブー

スターケーブルを救援車のバッテリーの－端子C につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部D につなぐ



A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってくださ

い。

■補機バッテリーがあがってしまったとき

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.424）

■補機バッテリー端子をはずすとき

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→P.327

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムが始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、補機バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するとき

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN1）、20 時間率容量（20HR）が同等（45Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（285A）以上の補機バッテリーを使用してください。
・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

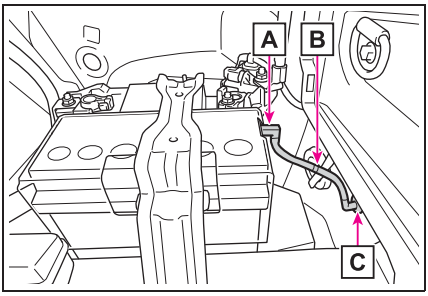
●一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機

バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。



A 排気穴

B 排気ホース

C 車両穴部

警告

■補機バッテリー端子をはずすとき

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

警告

■補機バッテリーを交換するときは

●補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

● 水温計（→P.90, 94）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）

● マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示される

● エンジンルームから蒸気が出る

対処するには

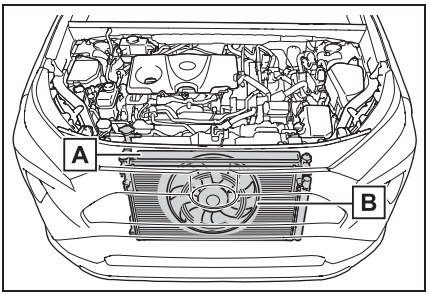
■ 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア

部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

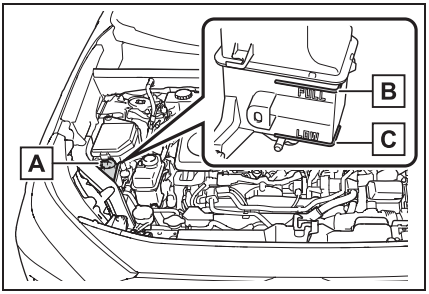


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



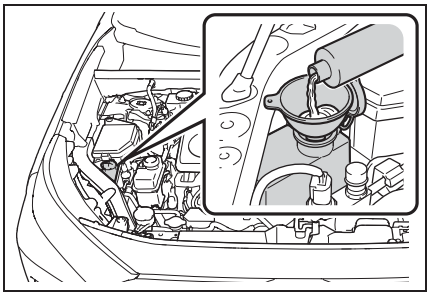
A リザーバータンク

B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温」表示を確認する

表示が消えていない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡してください。
表示が消えてる場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

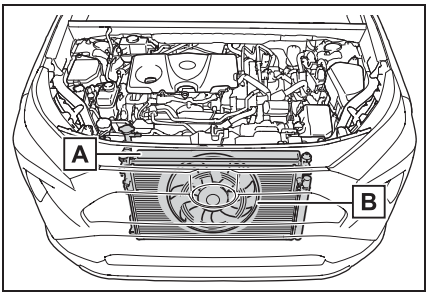
■ **マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温出力制限中です」が表示されたとき**

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

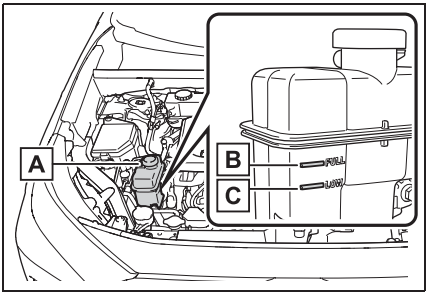
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



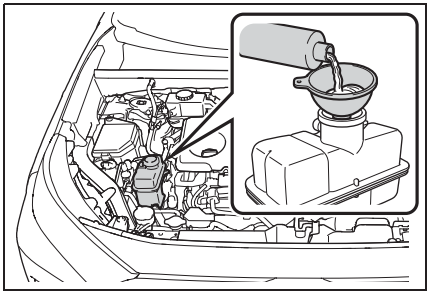
A リザーバータンク

B “FULL”（上限）

C “LOW”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡してください。

表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■**エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

● エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

警告

- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

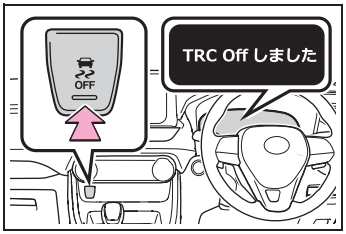
脱出するには

1. パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2. 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください。



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 410

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... 414

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 424

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	55

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SN 0W-16※2 ー API SN/RC, SAE 0W-16 トヨタ純正モーターオイル SN PLUS 0W-20 ー API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 ー API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	4.2	4.5

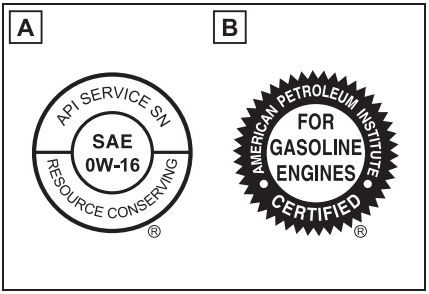
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-16 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

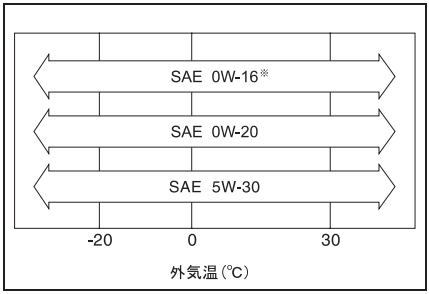


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ **エンジンオイル推奨粘度**

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-16 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	エンジン	パワーコントロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	6.6	2.0

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード WS	3.9

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル（リヤ電動モーター［4WD 車のみ］）

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正オートフルード WS	1.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	140

※ エンジン回転時に、300N（30.5kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）	
寒冷地仕様車を除く	2.5
寒冷地仕様車	4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	225/65R17 102H	17 × 7 J	230（2.3）	230（2.3）
	225/60R18 100H	18 × 7 J	230（2.3）	230（2.3）
応急用タイヤ★	T165/80D17 104M	17 × 4 T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※1

電球		W（ワット）数
車外	フロントフォグランプ（バルブタイプ：H16）★	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯（アンバーバルブ ※2）	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯（アンバーバルブ ※2）	21
	後退灯	16
	ドアミラー足元照明★	5
車内	バニティミラーランプ	8
	フロントインテリアランプ／パーソナルランプ	5
	リヤインテリアランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※1表に記載のないランプは LED を採用しています。

※2アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式		駆動方式
			フロント	リヤ	
RAV4	AXAH52	A25A-FXS（2.5L ガソリン）	3NM	—	FF（前輪駆動）
	AXAH54			4NM	4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

T-Connect サービスご契約のお客様は、マイカーカスタマイズ機能（T-Connet スマホアプリのご利用またはトヨタ販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。
遠隔での設定変更が可能な項目に関しては T-Connect スマホアプリでご確認ください。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの＜または＞を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して変更する項目を選択する

3 ON ／ OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの OK を押してご希望の設定に切りかえる

4 詳細設定が可能な機能では、OK を押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイス文を参考に設定を行ってください。

前の画面にもどる、もしくは設定を終了する場合は、↩スイッチを押します。

知識

■カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

警告

■カスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズ設定を行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

B トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム（→P.83）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	—	○

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ（→P.90, 94, 99）

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B
時計（時刻合わせ）	—	—	○	—
時計（表示の切りかえ）	12 時間表示	24 時間表示	○	—
言語	日本語	英語	○	—
単位	km/L	L/100km	○	—
メーター表示 ※2	アナログ	デジタル	○	—
EV インジケーター	あり（自動点灯）	なし	○	—
アクセルガイド（エコアクセルガイド）	表示	非表示	○	—
燃費グラフ	リセット間平均燃費	始動後平均燃費	○	—
		給油後平均燃費		
オーディオ表示★	表示	非表示	○	—
エネルギーモニター	表示	非表示	○	—
4WD 作動状態表示 ※3	表示	非表示	○	—
ドライブインフォタイプ	始動後	リセット間	○	—
ドライブインフォ項目選択（上段）	走行距離	平均車速	○	—
		走行時間		
ドライブインフォ項目選択（下段）	走行時間	平均車速	○	—
		走行距離		

機能の内容 ※1	初期設定	変更後	A	B
今回の走行	エコジャッジ	ドライブインフォ	○	—
割込表示★	あり	なし	○	—
MID 消灯	表示	非表示	○	—
提案サービス	あり	あり（停車中のみ）	—	○
		なし		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1機能についての詳しい説明は P.105 を参照してください。

※2 7 インチマルチインフォメーションディスプレイ装着車のみ

※3 4WD 車のみ

■ ドアロック（→P.119, 398）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	—	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	—	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	—	○
運転席を開けたときの全ドア自動解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.117, 137）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	—	○
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	—	○
		レベル 1 ～ 7		

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.137）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	—	○
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間※	非作動	1.5 秒	—	○
		2 秒		
		2.5 秒		

※ 解錠されるドアの選択を「運転席のみ解錠」にしたときに設定できます。

■ ワイヤレスドアロック（→P.117）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ワイヤレス機能	あり	なし	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	○
ドアが施錠されている状態で を操作したときのドアロック解錠作動（パワーバックドア装着車）（→P.127）	なし	あり（全ドア解錠）	—	○
		あり（バックドアのみ解錠）		

■ パワーバックドア★（→P.123）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
パワーバックドア機能	あり	なし	○	—
車内のスイッチを押してパワーバックドアを開くときの操作	1 回押し続ける	1 回押し	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ワイヤレスリモコンの🚗を押してパワーバックドアを開くときの操作	1 回押し続ける	1 回押し	—	○
		2 回押し		
		非作動		
ブザー音量	レベル 3	レベル 1	○	—
		レベル 2		
パワーバックドア作動中のブザー吹鳴 ※1	あり	なし	—	○
パワーバックドア全開時の開度	5	1 ～ 4	○	—
		お好みの位置（高さ）※2		
全閉時にバックドアオープンスイッチを押したときのバックドア開作動	あり	なし	—	○
キックセンサー★の作動	あり	なし	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1作動開始時のブザーを非吹鳴にすることはできません。

※2バックドア下部のスイッチ操作で設定します。（→P.135）

■ ポジションメモリー★（→P.144）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	○
ヘッドレストと車両天井との干渉防止機能（メモリー位置呼び出し時）	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー（→P.159）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	—	○
		パワースイッチと連動		

■ パワーウインドウ・ムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★共通（→P.162, 165, 167）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
メカニカルキー連動開機能	なし	あり	—	○
メカニカルキー連動閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動閉機能	なし	あり	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	○
窓開警告制御	あり	なし	—	○
ムーンルーフ開警告制御	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★（→P.165, 167）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
オート作動	あり	なし	—	○
メカニカルキー連動時の開作動方向	スライド	スライド／チルト	—	○
ワイヤレスリモコン連動時の開作動方向	スライド	スライド／チルト	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ（→P.198）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
LED デイライト	あり	なし	—	○
ランプ消し忘れ防止ブザー	あり	なし	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.198）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ライトセンサーの感度調整（コンライト感度調整）	標準	-2 ～ 2	—	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ランプオートカット制御	運転席ドアと連動	パワースイッチと連動	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	○

■ リヤワイパー（→P.206）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
バックドア開連動リヤワイパー停止機能（→P.206）	しない	する	—	○
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	する	しない	—	○
リバース連動機能（→P.206）	1 回のみ作動	OFF	—	○
		連続作動		

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.214）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
PCS（プリクラッシュセーフティ）機能	あり	なし	○	—
警報感度	中間	遅い	○	—
		早い		

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.221）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
車線維持支援機能（センタートレース）	あり	なし	○	—
操舵支援	あり	なし	○	—
警報感度	高	普通	○	—
ふらつき検知	あり	なし	○	—
ふらつき検知感度	普通	低	○	—
		高		

■ RSA（ロードサインアシスト（→P.229）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり	なし	○	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
速度超過警告の告知手段	告知なし	表示のみ	○	—
		表示と警報		
はみ出し通行禁止警告の告知手段	表示のみ	告知なし	○	—
		表示と警報		
その他（車両進入禁止）警告の告知手段	表示のみ	告知なし	○	—
		表示と警報		
制限速度超過の警告タイミング	2km/h	5km/h	○	—
		10km/h		

■ 先行車発進告知機能（→P.240）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
先行車発進告知機能	あり	なし	○	—
告知距離	中間	近い	○	—
		遠い		

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.241）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	○	—
		遅い		
		死角領域の車両のみ検知		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.241）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	○	—
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）作動時のブザー音量※	レベル 2	レベル 1	○	—
		レベル 3		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ クリアランスソナーのブザー音量と連動しています。

■ クリアランスソナー★（→P.249）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
クリアランスソナー機能	あり	なし	○	○
ブザー音量※	レベル 2	レベル 1	○	○
		レベル 3		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）作動時のブザー音量と連動しています。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★（→P.254）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→P.284）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	する	しない	—	○
駐車時、自動で外気導入に切りかわる	する	しない	—	○

■ イルミネーション（→P.291）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間（室内照明消灯時間調節）	15 秒	OFF	—	○
		7.5 秒		
		30 秒		
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B
電子キーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	○
車室内足元照明の点灯★	あり	なし	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式自動ドアロック」と「シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。
・シフトレバーをＰ以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●スマートエントリー＆スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。

●解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パーキングサポートブレーキ★	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.257
パワーバックドア★	・ヒューズ交換時	P.132
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P.162
ムーンルーフ★／パノラマムーンルーフ★		P.165, 169

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 426
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 428
アルファベット順さくいん 430
五十音順さくいん 431

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.397）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.397）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.343）
- パワースイッチが ON になっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.185）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.138）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.122）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.182）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P.188）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.137）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.183）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.399）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.400）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.183）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.164）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.185）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.428）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.367、374 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.377）
- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.388）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.407）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.83
ドアを開閉したとき	シフトレバーがP以外になっている	P.374
	窓・ムーンルーフ★・パノラマムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P.163,166,169
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.83
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.343
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.137
	電子キーを車内に置き忘れている	P.374

※ ドアを解錠する、またはパワースイッチをACCまたはONにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.122
	パーキングブレーキが解除されていない	P.194
	シートベルトを着用していない※	P.372
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.191
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.177
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P.237
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.214
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.223

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.230
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナー★が作動した	P.249
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.246

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A ／ C
（エアコン）.....284
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
.....271
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）
.....272
BSM
（ブラインドスポットモニター）
.....241
DCM
（データコミュニケーションモジュール）.....53
ECB
（電子制御ブレーキシステム）..271
EDR
（イベントデータレコーダー）.....7
E-Four
（電気式 4WD システム）.....272
EV
（エレクトリックビークル）.....186
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）.....413
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....410
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....39
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....347
LTA
（レーントレーシングアシスト）
.....221
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..214
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）
.....254
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....241
RSA
（ロードサインアシスト）.....229
S-FLOW
（エスフロー）.....285
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....30
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）271
T-Connect
（ティーコネクト）.....53
TRC
（トラクションコントロール）
.....272, 407
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....271

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....400
アームレスト.....308
アウターミラー（ドアミラー）
BSM.....241
RCTA.....241
格納のしかた.....160
操作.....159
ミラーヒーター.....285
アクセサリーコンセント.....309
アクセサリーソケット.....302
アクセサリーモード.....185
アクティブコーナリングアシスト（ACA）.....272
アシストグリップ.....308
足元照明.....291
アラーム
オートアラーム.....83
音さくいん.....428
警告ブザー.....367, 374
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....271
アンテナ
スマートエントリー＆スタートシステム.....137

い

イージークローザー（バックドア）.129
EV ドライブモード.....186
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....182
自動電源 OFF 機能.....185
車両を緊急停止するには.....360
モード切りかえ.....185
位置交換（タイヤローテーション）.332
イベントデータレコーダー（EDR）.....7
イモビライザーシステム.....82
イルミネーテッドエントリーシステム.....292
インジケーター（表示灯）.....88
ハイブリッドシステムインジケーター.....91, 96
READY.....182
インテリアランプ.....291, 292
ワット数.....413
インナーミラー.....150, 151

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換.....347
方向指示レバー.....191
ワット数.....413
ウインドウ
ウォッシャー.....204, 206
パワーウインドウ.....162
リヤウインドウデフォッガー.....285
ウインドウロックスイッチ.....164
ウォーニングランプ（警告灯）.87, 367
ウォッシャー
液の補充.....330
スイッチ.....204, 206
タンク容量.....412
冬の前の準備・点検.....279
動けなくなったときは（スタック）.407
運転
雨の日の運転.....174
運転を補助する装置.....271
寒冷時の運転.....279
正しい運転姿勢.....25
手順.....174
ハイブリッド車運転のアドバイス.....277
運転支援機能情報表示画面.....103
運転席シートベルト非着用警告灯...372

運転席シートポジションメモリー ... 144

え

エアコン
S-FLOW モード ... 285
エコ空調モード ... 285
オートエアコン ... 284
曇り取り（フロントガラス） ... 285
曇り取り（リヤウインドウ） ... 285
フィルターの清掃 ... 334
エアコン・デフォッガー ... 285
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯 ... 368
改造・廃棄 ... 35
作動条件 ... 31
正しい姿勢 ... 25
配置 ... 30
エネルギーモニター ... 109
LED デイライト ... 198
エレクトリックパワーステアリング（EPS）
機能 ... 272
パワーステアリング警告灯 ... 369
エンジン
イモビライザーシステム ... 82
エンジン警告灯 ... 368
オーバーヒート ... 404
緊急時の停止方法 ... 360
ハイブリッドシステムが始動できない 395
ハイブリッドシステムの始動方法 ... 182
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ） ... 182
ボンネット ... 327
エンジンオイル
冬の前の準備・点検 ... 279
メンテナンスデータ ... 410
油圧警告灯 ... 368
容量 ... 410
エンジンスイッチ（パワースイッチ） ... 182
自動電源 OFF 機能 ... 185
車両を緊急停止するには ... 360
モード切りかえ ... 185
エンジンフード（ボンネット）
開け方 ... 327
警告音 ... 122
エンジンルーム ... 327
エンジンルームから蒸気が出ている ... 404

お

オイル（エンジンオイル） ... 410
応急用タイヤ
空気圧 ... 412
交換方法 ... 388
オーディオ連携画面 ... 104
オートアラーム ... 83
オートエアコン ... 284
オートドアロック・アンロック機能 122
オートマチックハイビーム ... 200
オートレベリングシステム（ヘッドランプ） ... 199
オーバーヒート ... 404
オープナー
給油扉 ... 209
バックドア ... 125
ボンネット ... 327
オープントレイ ... 297
オープントレイ照明 ... 291
おくだけ充電（ワイヤレス充電器） . 304
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ ... 164
お子さまの安全のために ... 38
キーの電池 ... 344
シートベルトの着用 ... 28
ステアリングヒーター／シートヒーターに関する警告 ... 289

チャイルドシート.....39
チャイルドシートの取り付け.....39
チャイルドプロテクター.....122
電動サンシェードに関する警告.....169
発炎筒の取り扱いに関する警告.....360
パノラマムーンルーフに関する警告...170
パワーウインドウに関する警告.....163
補機バッテリーに関する警告.....403
ムーンルーフに関する警告.....166
オドメーター
ODO TRIP スイッチ.....92, 98
表示項目.....90, 94

か

カーテンシールドエアバッグ.....30
カードホルダー.....297
カーペット
洗浄.....324
フロアマットの取り付け方.....24
外気温度表示.....90, 94
回生ブレーキ.....75
外装の電球（バルブ）
交換要領.....347
ワット数.....413
ガス欠になったとき.....78
カスタマイズ機能.....414
型式.....413
カップホルダー.....296
カメラ
前方カメラ.....210
デジタルインナーミラー.....155
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....285
ガレージジャッキ.....329
冠水路走行.....180
寒冷時の運転.....279

き

キー
キーナンバープレート.....116
キーの構成.....116
キーレスエントリー.....117, 137
キーをなくした.....397
正常に働かない.....398
施錠・解錠ができない.....398
電子キー.....116
電池が切れた.....343, 398
ハイブリッドシステムが始動できない395
メカニカルキー.....118
ワイヤレスリモコン.....117
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム.....137
ワイヤレスドアロック.....117
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）..177
キックセンサー.....128
給油
給油扉が開けられない.....397
給油のしかた.....208
メンテナンスデータ.....410
緊急時シートベルト固定機構.....28
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）.....396
緊急時の対処
オーバーヒートした.....404
キーの電池が切れた.....343, 398
キーをなくした.....397
警告灯がついた.....367
警告メッセージが表示された.....374
けん引.....362
故障したときは.....358
車両を緊急停止する.....360
水没したときは.....361

スタックした.....407
電子キーが正常に働かない.....398
ハイブリッドシステムが始動できない395
発炎筒.....359
パンクした.....377, 388
補機バッテリーがあがった.....400
緊急通報.....58
緊急停止システム.....80
緊急ブレーキシグナル.....272

く

空気圧（タイヤ）.....412
クーラー.....284
区間距離計（トリップメーター）
ODO TRIP スイッチ.....92, 98
表示項目.....90, 94
駆動用電池.....74
警告メッセージ.....80
充電について.....75
搭載位置.....77
冷却用吸入口.....79
冷却用吸入口の清掃.....336
曇り取り
フロントガラス.....285
ミラーヒーター.....285
リヤウインドウデフォッガー.....285
クラクション（ホーン）.....149
クリアランスソナー.....249
警告メッセージ.....251
操作.....249
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ.....198
電球（バルブ）の交換.....347
クリップ
フロアマット.....24
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....232
グローブボックス.....295

け

警音器（ホーン）.....149
計器類（メーター）
マルチインフォメーションディスプレイ.....99
メーター.....90, 94
警告灯.....87
ABS ＆ブレーキアシスト.....369
LTA 表示灯.....369
PCS.....369
PKSB OFF 表示灯.....370
PKSB.....371
RCTA OFF 表示灯.....370
SRS エアバッグ.....368
エンジン.....368
クリアランスソナー OFF 表示灯.....370
高水温.....368
シートベルト非着用.....372, 372
充電.....367
スリップ表示灯.....371
ドライブスタートコントロール.....371
燃料残量.....372
パーキングブレーキ表示灯.....372
パワーステアリング.....369
プリテンショナー.....368
ブレーキ.....367
ブレーキオーバーライドシステム.....371
ブレーキホールド作動表示灯.....372
油圧.....368
警告ブザー
LTA.....223
PCS.....369
PKSB.....255
RCTA.....242
クリアランスソナー.....252
高水温.....368

シートベルト非着用 372
シフトダウン制限 191
衝突警報 214
接近警報（レーダークルーズコントロール） 237
手放し運転警告（LTA） 228
ドライブスタートコントロール 371
パーキングブレーキ未解除走行時 194
パノラマムーンルーフ開 169
パワーステアリング 369
半ドア 120, 137
半ドア走行時 122
ブレーキ 367
ブレーキオーバーライドシステム 371
ブレーキホールド 372
ボンネット開 122
窓開 163
ムーンルーフ開 166
油圧 368
リバース 188
警告メッセージ 374
警告メッセージ表示画面 108
化粧ミラー（バニティミラー） 302
けん引
けん引のしかた 362

こ

交換
キーの電池 343
タイヤ 388
電球（バルブ） 347
ヒューズ 344
工具（ツール） 379, 389
航続可能距離 101, 103
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 347
ワット数 413
高電圧部位 77
コーションラベル 77
コートフック 309
子供専用シート
取り付け方 40
小物入れ 296
コンセント
アクセサリーコンセント 309
コンソールボックス 295
コンライト（自動点灯・消灯装置） 198

さ

サービスプラグ 77
サイドエアバッグ 30
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換 347
方向指示レバー 191
サイドミラー（ドアミラー）
BSM 241
RCTA 241
格納のしかた 160
操作 159
ミラーヒーター 285
三角表示板（停止表示板） 358
サングラスホルダー 296
サンシェード
ルーフ 165, 167
サンバイザー 302

し

シート
シートヒーター 289
正しい運転姿勢 25
チャイルドシート 39
調整 141
手入れ 324
ドライビングポジションメモリー 144

ヘッドレスト.....147
メモリーコール機能.....145
シートヒーター.....289
シートベルト
お子さまの着用.....27, 28
緊急時シートベルト固定機構.....28
高さ調節.....29
正しく着用するには.....28
着け方・はずし方.....28
手入れ.....324
妊娠中の方の着用.....27
非着用警告灯.....372, 372
シートベルト非着用警告灯....372, 372
シートベルトプリテンショナー
機能.....29
プリテンショナー警告灯.....368
シートポジションメモリー.....144
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）.....78
室内灯.....291
始動のしかた.....182
シフトポジション.....188
シフトレバー
シフトポジションの切りかえ.....188
シフトレンジの切りかえ.....190
リバース警告ブザー.....188
シフトロックシステム.....189
締め付けトルク（ホイール）.....392
ジャッキ
ガレージジャッキ.....329
車載ジャッキ.....379, 389
ジャッキハンドル.....379, 389
車幅灯
電球（バルブ）の交換.....347
ランプスイッチ.....198
車両型式.....413
車両仕様（スペック）.....410
車両情報表示画面.....104
車両接近通報装置.....76
車両データの記録.....7
車両を緊急停止するには.....360
充電用 USB 端子.....303
収納装備.....294
瞬間燃費.....101
仕様（車両仕様）.....413
衝撃感知ドアロック解除システム...120
初期化
パーキングサポートブレーキ.....257
パノラマムーンルーフ.....169
パワーウインドウ.....162
パワーバックドア.....132
ムーンルーフ.....165
初期設定.....424
助手席シートベルト非着用警告灯...372

す

水温計.....90, 94
スイッチ
BSM.....241
EV ドライブモード.....186
LTA.....225
ODO TRIP.....92, 98
TRC OFF.....272
VSC OFF.....272
イグニッション.....182
ウインドウロック.....164
ウォッシャー.....204, 206
オーディオ.....308
オートマチックハイビーム.....200
シート調整.....141
シートヒーター.....289
シートポジションメモリー.....144
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....232
ステアリングヒーター.....289
デジタルインナーミラー.....151

電動サンシェード.....167
電話.....308
ドアミラー.....159
ドアロック.....121
ドライビングポジションメモリー.....144
ドライブモードセレクト.....268
トレイルモード.....270
パーキングブレーキ.....192
ハザードランプ.....359
バックドアオープン.....125, 127
パワー.....182
パワーウインドウ.....162
パワーバックドア.....127
非常点滅灯（ハザードランプ）.....359
フォグランプ.....202
ブレーキホールド.....195
フロントワイパーデアイサー.....288
ヘルプネットボタン.....53
方向指示レバー.....191
ホーン（警音器）.....149
ムーンルーフ.....165
メーター操作.....100
ランプ.....198
リヤウインドウデフォッガー.....284
レーダークルーズコントロール.....232
ワイパー.....204, 206
ワイヤレス充電.....304
スタック.....407
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール（S-VSC）.271
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整.....149
ステアリングヒーター.....289
メーター操作.....100
ステアリングロック.....183
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換.....347
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....279
スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧.....331, 412
交換方法.....388
スペック（車両仕様）.....410
スマートエントリー＆スタートシステム
アンテナの位置.....137
カスタマイズ設定.....414
緊急始動機能.....396
警告ブザー.....137
警告メッセージ.....374
作動範囲.....125, 137
正常に働かないとき.....398
節電機能.....138
電波がおよぼす影響について.....140
ドアの解錠・施錠.....119
ハイブリッドシステムの始動.....182
バックドアの施錠・解錠.....125
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換.....347
ランプスイッチ.....198

せ

清掃
アルミホイール.....322
外装.....322
シートベルト.....324
内装.....324
レーダーセンサー.....210, 243
制動灯
電球（バルブ）の交換.....347
セカンダリーコリジョンブレーキ...272
積算距離計（オドメーター）
ODO TRIP スイッチ.....92, 98
表示項目.....90, 94
セキュリティインジケーター.....82, 83
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....237

設定画面 105
先行車発進告知機能 240
センサー
LTA 221
インナーミラー 150
湿度センサー 287
デジタルインナーミラー 155
ライトセンサー 198
レーダーセンサー 210, 243
洗車 322
前照灯（ヘッドランプ）
オートレベリングシステム 199
電球（バルブ）の交換 347
ライトセンサー 198
ランプ消し忘れ防止機能 198
ランプスイッチ 198

そ

走行情報表示画面 101
走行モード（ドライブモード） 268

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 347
方向指示レバー 191
ワット数 413
タイヤ
応急用タイヤ 388
空気圧 333
交換 331, 395
チェーン 279
点検 331
パンクしたときは 377, 388
パンク応急修理キット 377
冬用タイヤ 279
ホイールサイズ 412
ローテーション（位置交換） 332
タイヤが空まわりする（スタックした） 407
タイヤチェーン 279

ち

チェーン（タイヤチェーン） 279
チャイルドシート
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け 50
シートベルトでの固定 48
選択方法 39
チャイルドプロテクター 122
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
操作 192
冬季の注意 280
パーキングブレーキ表示灯 372
ブレーキ警告灯 367
未解除走行時警告ブザー 194

つ

ツール（工具） 379

て

提案サービス機能 108
T-Connect DCM 単体 53
T-Connect について 53
ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ） 57
ヘルプネットボタン 58
マイカー Security 68
リモートメンテナンスサービス 72
停止表示板（三角表示板） 358
手入れ
アルミホイール 322
外装 322
シートベルト 324
デジタルインナーミラー 155, 324
内装 324

レーダーセンサー.....210, 243
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換.....347
ランプスイッチ.....198
デジタルインナーミラー.....151
デッキアンダートレイ.....300
デッキフック（荷物固定用フック）.298
デッキボード.....298
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....285
電気式 4WD システム（E-Four）....272
電気モーター.....74
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....347
ワット数.....413
点検基準値（メンテナンスデータ）.410
電子キー
作動範囲.....137
正常に働かないとき.....398
節電機能.....138
電池が切れた.....343
電池交換（キー）.....343
電動サンシェード
操作.....167
挟み込み防止機能.....168
電動パーキングブレーキ
操作.....192
冬季の注意.....280
パーキングブレーキ表示灯.....372
ブレーキ警告灯.....367
未解除走行時警告ブザー.....194

と

ドア
オートドアロック・アンロック機能...122
衝撃感知ドアロック解除システム.....120
スマートエントリー＆スタートシステム.....137
チャイルドプロテクター.....122
ドアガラス.....162
ドアロックスイッチ.....121
バックドア.....123
ロックレバー.....122
ワイヤレスリモコン.....119
ドアミラー
BSM.....241
RCTA.....241
格納のしかた.....160
操作.....159
ミラーヒーター.....285
ドアミラー足元照明
電球（バルブ）の交換.....347
ワット数.....413
盗難防止装置
イモビライザーシステム.....82
オートアラーム.....83
時計.....90, 93, 94, 98
トップテザーアンカレッジ.....51
ドライビングポジションメモリー
ポジションメモリー.....144
メモリーコール機能.....145
ドライブインフォメーション.....104
ドライブスタートコントロール.....175
ドライブモードセレクトスイッチ...268
トラクションコントロール（TRC）272
トランスミッション
シフトダウン制限警告ブザー.....191
操作.....188
メンテナンスデータ.....411
トリップメーター
ODO TRIP スイッチ.....92
トレイルモード.....270

な

内装
収納装備 294
手入れ 324

に

ニーエアバッグ 30
荷物
積むときの注意 180
荷室内装備 298

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック） 407

ね

燃費
エネルギーモニター 109
燃費グラフ 101
燃費情報 101
燃料
給油 208
種類 410
燃料残量警告灯 372
容量 410

は

パーキングサポートブレーキ（PKSB）
警告メッセージ 257
操作 255
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 264
パーキングサポートブレーキ（静止物） 258
パーキングブレーキ
操作 192
冬季の注意 280
パーキングブレーキ表示灯 372
ブレーキ警告灯 367
未解除走行時警告ブザー 194
パーソナルランプ 292
ワット数 413
排気ガス 36
ハイビーム（ヘッドランプ）
オートマチックハイビーム 200
電球（バルブ）の交換 347
ランプスイッチ 198
ハイブリッドシステム
EV ドライブモード 186
運転のアドバイス 277
エネルギーモニター 109
オーバーヒート 404
回生ブレーキ 75
ガス欠になったとき 78
緊急始動機能 396
緊急時の停止方法 360
緊急停止システム 80
駆動用電池冷却用吸入口 79
高電圧部位 77
サービスプラグ 77
事故が発生したとき 78
始動できないときは 395
始動方法 182
車両接近通報装置 76
充電 75
注意 77
特徴 74
特有の音と振動 75
パワー（イグニッション）スイッチ 182
補機バッテリーがあがった 400
メンテナンス・修理・廃車するとき 76
ハイブリッドシステムインジケーター 91, 96
ハイマウントストップランプ

電球（バルブ）の交換 347
ハザードランプ（非常点滅灯）
緊急ブレーキシグナル 272, 272
スイッチ 359
電球（バルブ）の交換 347
挟み込み防止機能
電動サンシェード 168
パノラマムーンルーフ 168
パワーウインドウ 162
パワーバックドア 130
ムーンルーフ 165
発炎筒 359
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 347
ワット数 413
バックドア
イージークローザー 129
オープンスイッチ 125
バックドアハンドル 128
パワーバックドア 127
ハンズフリーパワーバックドア 128
バッテリー（駆動用電池）
警告メッセージ 80
充電について 75
搭載位置 77
冷却用吸入口 79
冷却用吸入口の清掃 336
バッテリー（補機バッテリー）
充電警告灯 367
搭載位置 327
補機バッテリーがあがった 400
補機バッテリーを交換する 402
バニティ（化粧用）ミラー 302
バニティミラーランプ
装備について 302
ワット数 413
パノラマムーンルーフ
初期化 169
操作 167
挟み込み防止機能 168
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ） 347
ワット数 413
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ 164
閉めることができないときは 162
初期化 162
操作 162
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 163
挟み込み防止機能 162
巻き込み防止機能 162
パワーコントロールユニット 77
パワースイッチ
自動電源 OFF 機能 185
車両を緊急停止するには 360
モード切りかえ 185
パワーステアリング
EPS 272
パワーステアリング警告灯 369
パンクした
応急用タイヤ装着車 388
タイヤパンク応急修理キット装着車 377
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 347
ランプスイッチ 198
ハンズフリーパワーバックドア 128
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 149
ステアリングヒーター 289
メーター操作 100

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC） 271
ヒーター
オートエアコン 284

シートヒーター.....289
ステアリングヒーター.....289
ミラーヒーター.....285
非常時給電システム.....314
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ.....359
電球（バルブ）の交換.....347
ワット数.....413
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換.....347
ランプスイッチ.....198
ヒューズ.....344
表示灯.....88
日よけ（サンバイザー）.....302
ヒルスタートアシストコントロール272

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方.....400
フォグランプ
スイッチ.....202
電球（バルブ）の交換.....347
ブザー
LTA.....369
PCS.....369
PKSB.....255
RCTA.....242
音さくいん.....428
クリアランスソナー.....252
高水温.....368
シートベルト非着用警告.....372, 372
シフトダウン制限警告.....191
衝突警報.....214
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....237
手放し運転警告（LTA）.....228
ドライブスタートコントロール.....371
パーキングブレーキ未解除走行時警告194
パノラマムーンルーフ開警告.....169
パワーステアリング.....369
半ドア警告.....120
半ドア走行時警告.....122
ブレーキ.....367
ブレーキオーバーライドシステム.....371
ブレーキホールド.....372
窓開警告.....163
ムーンルーフ開警告.....166
油圧.....368
リバース警告.....188
フック
コートフック.....309
デッキフック.....298
フロアマット固定フック.....24
フューエルリッド（給油口）
給油扉が開かない.....397
給油のしかた.....208
冬の前の準備（寒冷時の運転）.....279
冬用タイヤ.....279
ブラインドスポットモニター（BSM）.....241
プリクラッシュセーフティ（PCS）
PCS 警告灯.....369
PCS スイッチ.....216
機能.....214
ブレーキ
回生ブレーキ.....75
緊急ブレーキシグナル.....272
パーキングブレーキ.....192
ブレーキ警告灯.....367
ブレーキホールド.....195
メンテナンスデータ.....412
ブレーキアシスト
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯.....369
機能.....271
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる.....177
ブレーキフルード.....412

ブレーキホールド 195
フロアマット 24
フロントカップホルダー照明 291
フロントシート
シートヒーター 289
シートポジションメモリー 144
正しい運転姿勢 25
調整 141
手入れ 324
ドライビングポジションメモリー 144
ヘッドレスト 147
フロントフォグランプ
スイッチ 202
電球（バルブ）の交換 347
ワット数 413
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換 347
方向指示レバー 191
ワット数 413

へ

平均燃費 101
ヘッドランプ
電球（バルブ）の交換 347
ライトセンサー 198
ランプ消し忘れ防止機能 198
ランプスイッチ 198
ヘッドランプオートレベリングシステム 199
ヘッドレスト 147
ヘルプネット 57, 61
保守点検 60

ほ

ホイール
交換（タイヤ） 388
メンテナンスデータ 412
ホイールナットレンチ 379, 389
方向指示灯
電球（バルブ）の交換 347
方向指示レバー 191
ワット数 413
ホーン（警音器） 149
補機バッテリー
充電警告灯 367
搭載位置 327
補機バッテリーがあがった 400
補機バッテリーを交換する 402
ポジションメモリー 144
保証 8
ボトルホルダー 296
ボンネット（エンジンフード）
開け方 327
警告音 122

ま

マイカー Security 68
マルチインフォメーションディスプレイ 99
運転支援機能情報表示 103
エネルギーモニター 96, 109
オーディオ連携 104
警告メッセージ 374
車両情報表示 104
設定 105
走行情報表示 101
提案サービス機能 108
時計 93, 98
メーター操作スイッチ 100
メニューアイコン 101

み

ミラー
インナーミラー 150

デジタルインナーミラー 151
ドアミラー 159
バニティミラー 302
ミラーヒーター 285

む

ムーンルーフ
初期化 165, 169
操作 165, 167
挟み込み防止機能 165, 168

め

メーター（計器類）
ODO TRIP スイッチ 92, 98
警告灯 87, 367
警告メッセージ 374
ハイブリッドシステムインジケーター 91, 96
表示灯 88
マルチインフォメーションディスプレイ 99
メーター操作スイッチ 100
メカニカルキー 118
メニューアイコン 101
メモリーコール機能 145
メンテナンスデータ 410

も

モーター（電気モーター） 77
モーターでの走行（EV ドライブモード） 186

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 414
雪道ですべって動けない（スタックした） 407
油脂類 410

よ

4WD 作動状態表示 104

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 347
ランプスイッチ 198
ラゲージサイドトレイ 300
ラゲージフック 298
ラゲージルーム 298
ラゲージルームランプ 126, 129
ワット数 413
ラジエーター
オーバーヒート 404
メンテナンスデータ 411
ランプ
インテリアランプ 291
オートマチックハイビーム 200
室内灯 291
電球（バルブ）の交換 347
パーソナルランプ 292
非常点滅灯（ハザードランプ） 359
フロントフォグランプ 202
ヘッドランプ（前照灯） 198
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー） 191
ライトセンサー 198
ランプ消し忘れ防止機能 198
リヤフォグランプ 202
ワット数 413
ランプ消し忘れ防止機能 198

り

リモートメンテナンスサービス 72

リヤアームレスト.....308
リヤウインドウデフォッガースイッチ
.....285
リヤクロストラフィックアラート
（RCTA）.....241
リヤシート.....142
リヤ席シートベルト非着用警告灯...372
リヤフォグランプ
スイッチ.....202
電球（バルブ）の交換.....347
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....347
方向指示レバー.....191
ワット数.....413

る

ルームミラー（インナーミラー）
.....150, 151

れ

冷却水
冬の前の準備.....279
メンテナンスデータ.....411
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート.....404
メンテナンスデータ.....411
レーダークルーズコントロール（全車速
追従機能付き).....232
接近警報.....237
レーダー.....210
レーントレーシングアシスト（LTA）
.....221
警告メッセージ.....229
操作.....225
レバー
シフト.....188
ハンドル位置調整.....149
方向指示.....191
ボンネット解除.....327
ロック（ドア）.....122

ろ

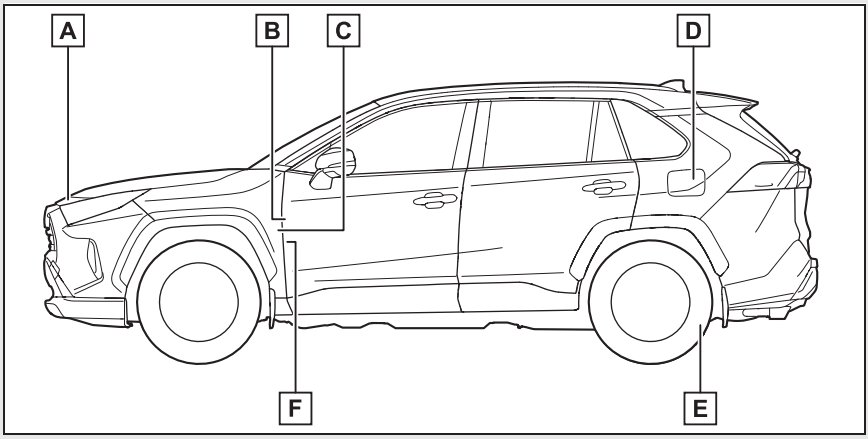
ロードサインアシスト (RSA).....229
ロック
ウインドウロック.....164
スマートエントリー＆スタートシステム
.....137
チャイルドプロテクター.....122
ドア.....119
バックドア.....123
ワイヤレスリモコン.....117

わ

ワイパー & ウォッシャー
ウォッシャー液の補充.....330
フロント.....204
フロントワイパーデアイサー.....288
リヤ.....206
ワイパーゴムの交換.....340
ワイパーブレード（寒冷地用).....280
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.304
ワイヤレスリモコン
作動の合図.....120
操作.....117
電池の交換.....343
半ドア警告ブザー.....120
ワックス.....322
ワット数.....413

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.327）
B パワーバックドアスイッチ★（→P.127）
C 給油扉オープナースイッチ（→P.209）
D 給油口（→P.209）
E タイヤ空気圧（→P.412）
F ボンネット解除レバー（→P.327）
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料の容量（参考値）	55L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P.412
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：4.2 L オイルとオイルフィルター交換時：4.5 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・SN 0W-16 (API SN/RC, SAE 0W-16) ・SN PLUS 0W-20 (API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

フ-50

M 42801
01999－42801
ZI-2019年９月18日
2019年４月10日 初版
2019年９月25日 ３版
ラブ４（ハイブリッド車）